

プロモーションブック やりなおC号

続きはウェブでという言葉があるように
続きはアマゾン キンドルで

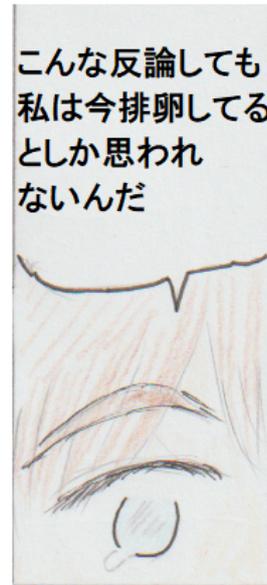
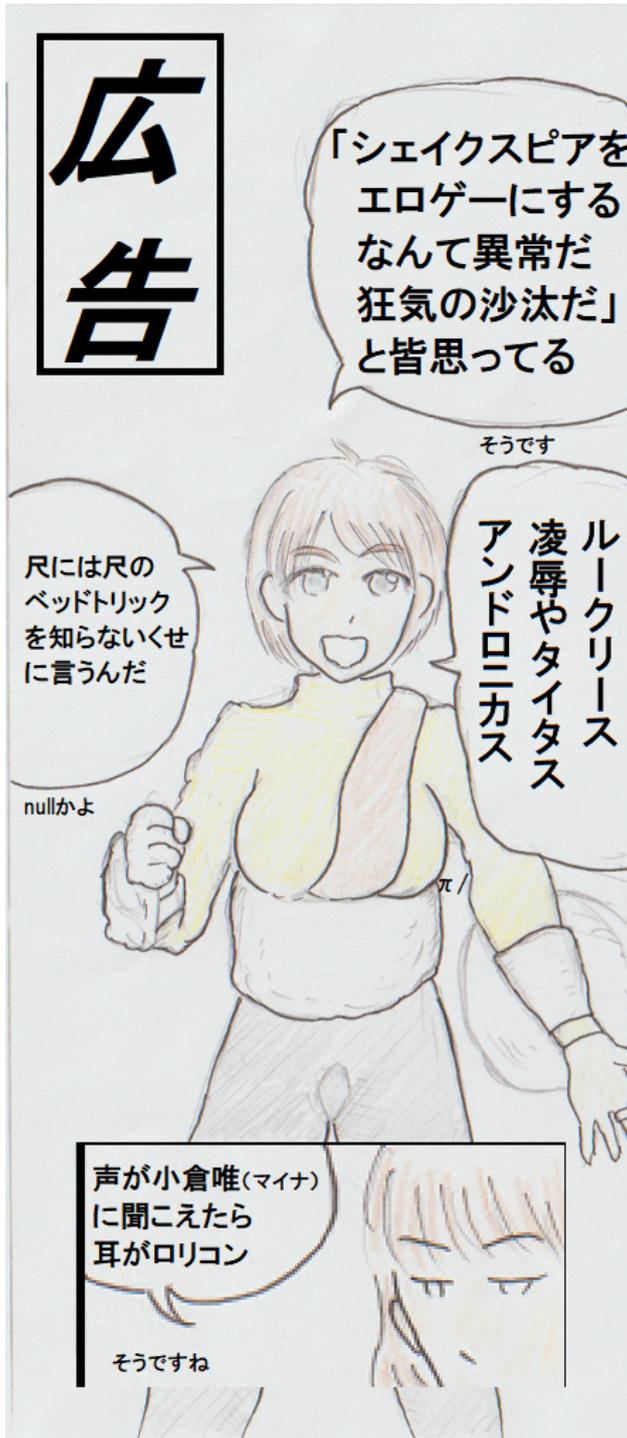


目次

あり思 の プロモーション	3
「ゴトチヒの野球読本」のプロモーション	
野球読本は売れてない	7
特別掲載 ノムさんは外国人がお嫌い	10
ドカベン読み直し	16
ゲームの中のプロ野球	24
映画関連誌のプロモーション	
映画関係本について	33
映画 ノ おしりたんてい	36
U系のプロモーション	
格闘技本について	45
随筆 U	48
桜庭の人気	50
データベースが足りない!	52
eスポーツは成功するか?	55
「これはもはや-G-ではない」をプロモーションしたい	
ガンダム本のこと	63
セリフについて(仮)	65
随筆 検索ワードの記事「Gレコ」	68
大人になったらジブリから卒業しなさい	
画像	73
アシタカパッション	74
	80
	82
Book review JUNGLE	
書評誌はキホン売れない	89
書評 愛すべき下放文学 『バルザックと小さな中国のお針子』ダイ・シージェ	92

.....	95
緑の本はアマゾン向け	
グリーンブック 無印 について	99
村上の評価、春樹まっぶたつ	100
.....	104
グリーンブック 2 にプロモは必要か？	
グリーンブック 2 はこんな本になるか？	109
花のアンジェリーク文化	112
宝石のような美しい話 掲載用	115
新しいメソッドの習作あるいは目覚めたシステムの黎明	
新しいメソッドの習作あるいは目覚めたシステムの黎明	119
「テレビを明るくふりかえろう」なんてできない	
テレビの本は もう 売れなくなる	131
世界まる見え！ テレビ特捜部	133
進め！ 電波少年	134
テレビを明るくふりかえろう の 広告	135
日記なんて誰が買って読むんだよ	
日記は無料でなかったら誰も読まない	141
あの日の日記 掲載用 テキスト編集 板	143
告知	
.....	147

あり思 の プロモーション



ありえない未来の思い出たち
 第四巻 kindleインディーズマンガ
 にて 無料配信



koukoku __ SR.jpg

「ゴトチヒの野球読本」のプロモーション

野球読本は売れてない

仕方の無いことである。

いかんせん、野球人気が無い。

その野球人気に依存した本を出してしまったのだから、しょうがない。

日本では『野球抄』は成立しない。

セイバーメトリクスの基礎になった野球データ私家本である。

多くの野球アナリストが影響を受けて、というか現在野球アナリストという仕事の元になった本といえばいいか。オークランド・アスレチックスのGMビリー・ビーンが取り入れて、それはもちろん『マネーボール』で詳しく語られている。“フォアボールのギリシャ神”とか、真似したくなるレトリックがある。

外国人排斥主義の悪神（むすっとしたオジさんがケバいおばさんを連れている画が一瞬挿入される）とか、真似して言ってみたくなる。

ノムさんとサッチーのことじゃないよ。ノムさんカツノリが豚にされて、湯ばーばと銭一ばが赤木春恵とか、考えてないよ。ミッチーに直接頼むと、「アイツと共演なんて、二度とゴメンだよ」と、返されるだろう。ノムさん、○ッチーの死後に細君が言っていたことが全部ウソと・・・

『マネー・ボール』に話を戻すと、ブラウンはその後、活躍できたのか、FAの仕組みは日本とメジャーでは違うという残念なお知らせ、ファイブツール持った選手はなかなかいない。という感想が出る。

ファイブツールは打撃、守備、俊足（走塁）、強肩（ストロングアーム）、メンタルであったはず。

それだけが、評価項目じゃない。というのが『マネーボール』である。

もしかしたら、読者の方は、ファイブツールを全部持っている本でないと、買いたくないのかも、ファイブツールを持っている作家？

人気はヒッティングということか？

守備範囲、という幅広い読者年齢層のこと？

足で書店を回って書店員さんと仲良く、というドブ板選挙みたいなこと？

営業の強肩ならぬ強権が発動して発行部数が多いとか、そういうストロング（アーム）なところ？

メンタルはアマゾンのカスタマーコメントやツイッターや板での悪口に動じない人。

余計な事を書くと、ゲームアナリスト平林久和はゲーム開発者に必要なファイブツールで「文章が書ける」「絵が描ける」「音楽を作れる」「コミュニケーションができる」「プログラミングができる」をあげている。

このうち、私ができないのは、「コミュニケーション」と「プログラミング」で、コミュニケーションは権力さえもたせてくれさえすれば、出来る。

日本人は自己家畜化された精神の持ち主だから、逆に権力が無かったら、コミュニケーションが成り立たない。何が正しいかで決めない。誰が正しいかで決めない。権力は正しいで決める。権威は権力の代用品で、ちょっとマーガリン効果があるモノだ。悪質タックルだって、してくれる。

権力さえ貸し与えてくれれば、何でも言う事聞く。

だから、赤木さんの話は、道徳の教科書に収録されるのが望ましい。

右翼の人が求める道徳教育、これが最重要で「キミはどう生きるべきか」では語りもらした、これ以上無い教材。

プログラミングは運がなかったから、できなかったが、まったく知らない人よりは、だいたい知っている。プログラムを組むまでとなると、大変だ。それは専門家に任せた方がいい。

また、話が脱線した。

縮小版で「おおポカ」をしているようだけど、300円の方では、直っている。金額の差分には、そうした質と量がある。

原辰則の引用文は、面白いから、アレでいい、と。

掲載しているのは、どれも書下ろし、になってしまうのか？

「ノムさんは外国人がお嫌い」は、書いてる途中で面白くなってきちゃって、どんどんネタを足して「ヤクルトの池」とか『千と佐知代の金隠し（脱税）』はこうなるとか、ノムさんカツノリが豚にされて、湯ばーばと銭ばーばが赤木春恵とか、考えてないよ。ミッチーに頼むと、「ふざけてんのかい？ あたしゃあ、浅香光代だよ」と、言われそうだが、ノムさん、サッ○ーの死後に細君が言っていたことが全部ウソと、それをするのは、良くないんじゃないか？ サッチー史観ならぬ、サッチーを○姦。でも因果応報。ゴールデン☆エースのツーブラトン。

「ドカベン読み直し」も水島さんをいじっている内に、面白くなってきちゃって、関係の無いネタを入れたり、伊集院光を揶揄したり、「野球読本」には、長嶋さんのところにある「ウパー」ぐらいしか、ギャグを入れられなかったから、ギャグを投入しようと、魔女鍋に具材を放り込むようにはりきったら、こうなった。

この文章や掲載記事は、「野球読本」のプロモーションだから。

できれば山際文体で全部書きたい。クアーズフィールドのフェアリーテールはクーパーズタウンに納められた神話の一つになった、とか昔とった中畑、昔とった篠塚で書ける。

岩崎夏海さんが Sports Graphic Number 文体として、「あれいいなあ」と思っている、山際が書いた文体。村上春樹を遡ると、チャンドラーがいて、そこから枝分かれしたのが、山際文体で、その命脈が尽きそう。オグリキャップの産駒が活躍しないから種牡馬がいなくて、オグリの血が絶えそうだ、と競馬の話しても、もうわからないと思う。

ともかく、山際文体を全体で書いたら終わらないというか、ギャラが出ないとイヤだ。
「ゲームの中のプロ野球」は消費税分のサービスに、いずれ収録されるのだろうか？
本当は、「西口くんの未完全試合」とか、「野球読本」に収録されている記事を掲載して、それがプロモーションだと、思う。

プロ野球業界の不知火、西口文也。

これをすると、今の時代ドカベンハラメントになる。

「黒木の屈みこみ」が他の「プロモーションブック」に掲載されているはずだから・・・
読み返したら「フォオ・クローバー」に掲載していた。もう一回掲載して、黒木のディスカウント、黒木のフリーミアム、クロキミアム。千葉ロッテマリーンズ関連の写真が載っているから、クロキミアムでOK。

もう読めなくなっているかも。



shinSENDEN042.jpg

特別掲載 ノムさんは外国人がお嫌い

これは別場所で「上げた」ものをニコイチ（ゲームファン限定ギャグのエコールソフトウェアのロゴであれがノムさんの顔になってる）にした、ぜんぜん商品価値の無い、浅井長政の頭蓋骨で杯を作る、死人にムチ打ち企画である。

死体蹴り！

顔にサッカーボールキック。

全力疾走後ジャンプして、フットスタンプ。

ゼッタイ、マネしてはいけない。

ソレが良い野球ファン。

まず、建国記念日に、ノムさんが死んだ朝の一報が届いて、「ノムさんの風除けでスリップストリーム優勝」と同じネタをやって、「なんだこれは？」と思った。

野村克也というと、選手時代（ムース）と、監督時代（ノムさん）に分れるのか、それは調べてないので、わからない。

誰も賛同しない、私の提唱するドラッカーの『マネジメント』で出てきた、マネジメント能力があるボスにあたる人として、例示できるのは宮崎駿とノムさんと、言っていたのが、あまり賛同されていない。

ドラッカーブームも、一過性で定着しなかったのだろう。マネジメントでうまくいくなら、日本経済は今、うまくいっている。経営者としてカルロス・ゴーンさんは、単なる銭ゲバだったのだろうか。

『ドカベンプロ野球編』の第一巻、ドラフト一位に山田を指名して競合したから、くじをひいて、「南無さん いや ノムさん」という水島ギャグが出る。（この間読み返したら、「ノムさん いや 南無さん」と手書きで書かれていた）

そんな面白くない方の水島ギャグ（フォローを入れると裏ギャグ・シリアスな笑いはけっこう面白い）にされてしまったノムさんが、自分が南無阿弥陀仏した。

3年殺しならぬ30年殺しである。

『風雲児たち』並に回収に時間がかかっている。

バッテリーのことを、「ピッチャーがプラスで、キャッチャーがマイナス、だから投手と捕手でバッテリーというんや」はノムさんの広めた俗説というか、皆さんもご存知の通り、バッテリーは軍事用語であって湿電池でも乾電池でもない。バッテリー賞があるから誤解される。

間違った知識を広める知恵の野球、流言の計である。

それがインポートデータ野球、競馬のCMの「データに頼ったらアカンというデータがあるんや」というちゃぶ台返しもある。

その回収は、ちゃんとしている。

阪神タイガース時代、ぜんぜん勝てなかった。

どのくらい勝てなかったって、イチローの打率より勝率が悪かった。

それが五月、六月。

日本球界最後の年は、四割越えを狙える、バースの記録に迫るくらい打率が高くて、イチローは夢の四割打者達成を期待されるほど、調子が良かった。対してノム神は七月頃には自力優勝が無くなるというくらい阪神は負け続けて、結局バースに次ぐ歴代二位の打率でシーズンを終了、任天堂でマリナーズのユニフォームを試着してメジャーに渡り、イチローは伝説になった。阪神その頃、明日無き投手リレーをしていた。違う意味で伝説。

ノムさんが監督しても、勝てなかったことで、「データに頼ったらアカンというデータがあるんや」を本人自ら実践してしまう。

私のノムさんの評価はこうして低い。

さらに、阪神の評価も『サラリーマン球団社長』で判明したがベースボール・オペレーティング・システムを入れて、ダメだったという私の野球宇宙にショックを与えられた。

ダメ虎を良くできなかった。せめてAクラスに入るくらいの成績を残して、星野仙一に後を託したならいいのに、読売新聞がどうのこうのとか佐知代が言っていたらしいが、本当は阪神を辞めたかったから、嫁の脱税をリークしたんじゃないか、という邪推もしたくなる。

新庄ピッチャー挑戦もよけいなこと、ノムさんがいなくなったから日本に帰ろうとしているのか、と時期的にはそんなことはないのだが、つい思ってしまった。

メイが彼女となんかやってるのも、現役時代、糟糠の妻から佐千代に乗り換えた件を考えると、人の事を悪く言えないんじゃないか、と死んで本人から文句を言われなから、安心して言える。

アマチュア野球のノンプロ、シダックス監督で収入が減ったのに高給腕時計が大好きで買っていた。分割支払いの残りのために、楽天の監督をしていたのだろうか。

鼻持ちならないボスには、こうして必ず弱点がある。

と、私は踏んでいる。

ノムさんの死で、特需を狙いたい。張本に特需は無い。

鉄人衣笠が死んだ時、間違っってハリさんが亡くなったと、書いてしまったけど、別にハリさんじゃ死亡特需が無いので、ここは小さなメディアで「サンデーモーニング」で絶対話題にならないから言えるけど、『アストロ球団』の「オヤジをかたわにして、俺もかたわにする気か」という・・・テレビや新聞各誌は、故人を忍ぶVTRや記事で、野村万歳（のむらマンセイ）である。

北朝鮮の引退する女性アナも喜びを示して、
「インカナ サムニダ ノムラマンセイ！」

と景気よく將軍さまを称えるように、ノムさんを称えることはしていないけど。

それでは、私は大衆週刊誌的な悪評も書かないと、いけないポジションな気がする。

ノムさん、21世紀のダイバーシティな思想とはあいいれない、外国人蔑視だ。外国助っ人（「がいこくすけっとじん」と読む）が逃げていく。

最後に外国人排外主義者として、自分が排外されるとは、「おシャカさまでも思うまい♪」と。

それで、偶然、ぐうぜんに『イチロー革命』を読んでいて、そこで書かれたことを、丸写しスレスレでよくないが、人に節制をしろとか努めさせるくせに、ハドラーら外国人選手たちの挨拶を返さない。人として基本的なことをしないのに、人生訓を説いても無駄でさ、私ならそんな奴の言う事を聞かない。

ホーナーの怒りの大半はこのボスへの反発！ と、思っていたら、関根潤三の時代、助っ人として単年で、それで海の向こうで文句言っているらしい。

危なかったのである。

ノムさんの時代でヤクルトに来たら、神宮にあるヤクルトの池が、血の池地獄になる。関根さんクラス的人格監督なら、そんなに怒らないけど、途中で怪我したのを仮病と思われて、ノムさんがマスコミの前で「怪我しおってヤツは使えん」とか、そんなこともしボヤいたら襲撃事件がおきても、おかしくない。

血の雨が降る。

赤鬼になる。

血の色の赤鬼ホーナーになっていたのである。

ヤクルトおばさんが血を配ってしまう。

このあたりは、ノムさん妄想伝説として、私が広めた噂として、拡散して取り返しがつかないぐらい、大きな事になってほしいものだ。

神宮球場には存在しないヤクルトの池、あってほしいなあ。三木聡監督の『インスタント沼』のミロの沼みたいなの。ブラジルの秘境にはあるんじゃないか。（池山が休日に泳いでいたとか）

スワローズの選手は、栓をひねるとヤクルトが出てくる水道ならぬヤクルト道の蛇口があってもヤクルトを飲める、変な噂がなかったっけ？ 大輔トンネルみたいなものか。

関根潤三さんは、「寝る前にふと思い出す」のは、ホーナーを「死ぬ前にふと思い出す」と、自然な流れで宣伝になっている。

「ゴトチヒの野球読本の宣伝だからな」

例にあげたホーナーだけが悪いわけではなく、メジャー体験してきた日本人選手も、裏ではメジャー批判を言っている。メジャー側、北米側に知られないだろうと思って、けっこうな事を著作で言っている。（ほとんど語りおろしだろうから「言っている」のが正しい）

それは日本人メジャーリーガーたちが、やはり白人種たちに阻害されている。イチローでさえ、あれだけ認知されているのにいじめがあると、言われている。

そしてコーチ・指導者を指すというのは、やる前から閉ざされている。それを「自分には人望が無い」と言っているのでは？ 政治的発言にすぎないのでは？ カラード、人種の壁を感じているのではないか？

ダリル・メイとの確執なんて、「アイ・ドント・ライク・ノムラサン」で、巨人に移籍して一人復讐球団化。『アストロ球団』かよ。マーティンの持ちネタ、「アイ・ドント・ライク・ノウミサン」である。

自分と佐千代の件を棚上げして、メイをパージするのは、なんというか因果なものを感じる。自分がされたことを、ちゃんと自分も同じことをしたという、虐待されて育った子供は、親になった時、きちんと子供を虐待する。

鶴岡一人側のお気持ちがあったのではないだろうか？

因果関係ある負の連鎖に涙する暗黒ホームドラマ。松竹で配給が無い劇映画。

組織的に集団を統治するためには、やらざるをえなかったのかもしれないが、泣いてメイを斬るどころか、ホーナーがいたら斬る。(壮大な桃太郎ならぬ尊大なノム太郎)

「ゴトチヒの野球読本の宣伝だからな」

押井守も似たようなことをしている。

本人が言っている。

自分は奥さんに転んで、製作現場を混乱させた事がちょっとあったらしい。

その話は別件で、そういえば、覚えがあるのは郭李などのアジアの人たちも、なんか球団を去っていったような。中込は去って当然。台湾野球に行つて・・・大豊、調べたら台湾籍のままだった。日本名なのに、帰化してなかった。(「まんぷく」の萬平さんも台湾籍だったら良かったのに)

百円のところでは直さず、三百円のところでは直っている。

お客さま本位、顧客満足度に差がある。それが価格差に現れる。

「私は野球人ではなく、ビジネスマンだ」

「ゴトチヒの野球読本の宣伝だからな」

そんなビジネスというか、お金の話題、ひとつある。

成績がいいパリッシュとオマリーを放出するが、ノムさんだけが悪いのではなく、どうも優勝すると、選手に優勝ボーナス上乘せで予算がはみ出して、その煽りを外国人選手に回しているだけなようでもある。

だから、ノムさんの持論であるノビノビ野球が悪いのではなく、そもそも勝てない親会社の球団では、チーム力の持続が難しいという台所事情。優勝反動で球団経営が悪くなる。

ヤクルト時代が良かったのは、たまたまメディアの広告にヤクルトが出稿、新聞に悪口を書かれなため、そういうことも考えられる。

ところで、なんでこんな外国人排斥主義者かというと、映画にもなった『千と佐千代の金隠し(脱税)』の佐千代夫人の元ダンナ、義理の息子の団野村さんのお父さんが米国人だから、許せなかったんじゃないか。(N T R ≡ ノムラ・アイディ野球・・・ジョークと書かないと信じる人いるかな?)

この説の他は、また書きにくいこと、野球読本の情報源「月刊ベースボールマガジン」の南海ホークス特集には、スタンカに後からあすなる抱きみみたいな首に腕を回されたムースの写真がある。ゲイ的なことがあったのだろうか。

BLではなく、ゲイである。

『野村はスタンカの夢を見る』は『窮鼠はチーズの夢を見る』の元ネタだから、野球ファン以外は、真偽不明のこんなクズ記事を読まないから、せとなーは怒らない。こんなクズ記事読んでいるのは、せとなーではない！

妄想される出来事以降、表情がムースになったのではないかな？

同性愛を蛇蝎の如く嫌うホモフォビアが外国人嫌いの原因じゃないか？

ロッカールームで裸の付き合いだから。

ドラマ『同窓会』だっけ？ Mr. チルドレンの主題歌が流れる。

野村本には、消したい過去なのだろうスタンカの話は出てこない。

ブレイザーのシンキングベースボールのことぐらいしか、あまり外国人に触れない。

外国人蔑視ではないカムフラージュ、カムストック！

「進め！ 電波少年」でおなじみのかたつむりにその名を名づけられる巨人の助っ人外国人選手である。最後、腹が減って喰ったんだっけ？ ここから、ゲームファンにしかわからない、『アンダーカバーコップ』というベルトスクロールアクションでかたつむりに重なってボタンを押すと、かたつむりが消えて「グッド」「デリシャス」とライフゲージが増えるという謎の現象が起こる。

素朴なゲーム少年は、カムストックはどこに消えたのだろうと思う。

それはともかく、ノムさんがオナニーを阪神から引き抜いた…じゃない！ オマリーを阪神から移籍させる。

中学生達が当時、「昨日の晩何してた？」「オマリーしてた」と、皆言っていたように契約がなかなか進まなくて、ヤクルトが好条件を出してオマリーを入団させ、日本シリーズで小林投手と「オマリーへの十一球」が名勝負として生まれたが、前述の通りオマリーを引き止める資金力が無い。（十四球の球数が正しく、こんなタダで読める間違いだらけのどうでもいいクズ記事を読んですませるお金を持っていない貧乏人には適切な情報の確度ではないか？ ビジネスマンとしての発言）

歴史修正主義なのか、ドウェイン・ホージー（私の妄想企画ではチャン・ツイイー似の中国娘をラベしてなぎら建壺の顔が割れる。エコールソフトウェアのロゴみたいに）が二年目にぜんぜん打てなくなって、見た目が同じで別人だと著作に書いてある。（注・妄想企画はドウェイン・ジョンソンの誤りでした）

楽天は何も言わないが、ロッテ（重光）が伊良部の念書をオープンにしたみたいに死んだんだから、もう公開してほしい。これ以上続けさせると外国人差別問題が懸念されるから、追い出した方がチームのため。そして世間のため、と。

本当のことを言っても、怒ったりしないから。

で、言ったら言っただ、「ノムさん最低だ」とネタにはする。

たぶん、プロ野球選手になっていなかったら、カネショーみたいに暴力団に一目置かれる存在となり、外国人排外主義ナショナリズムの大物フィクサーになっていたんじゃないか。

ミスターノム。

I D野球で知能改造された、サイボーグをけしかける。

殺人プロフェッショナル+人間サイボーグで、殺人サイボーグを産み出して、外国人と関わる国際人を襲う。国粋主義的な特撮の悪役顔をしているから。

こうして「佐千代が好きすぎる説」「スタンカとしたんか説」のどちらか、あるいは両方、一番有力なのは何の理由も無く外国人が嫌いである。

私の母親（団塊世代）も野球中継でサンチェスを見かけて「クロ」と言っている、人種差別主義者だから。（オマイラ巨人ファンのために投げているのに。サンチェスに聞

こえていたのか日本シリーズで打たれる)

大相撲のモンゴル勢にいまだに文句を言う、外国人蔑視。

これは、故人の名誉のために、胸の奥底に秘めて書かないようにすることだけど、江夏が「週刊ポスト」でノムさんが死んだ時に追悼記事の取材に応じている。ホークス時代はノムさんが隣の部屋らしくて、江夏の娘さんはノムさんにおフロに入れてもらっていたという。自分は娘さんと一緒におフロに入った記憶が無いという。

.....

「それロリコンじゃねえか」

「ペドフィリア？」

これを横で見っていたのが、水島新司で山田太郎とサチ子はこうして生まれたと思った。だから、サチ子は明訓サインがフロに入ってくるころに来ると。(普通はウェスターマーク効果が働いて結婚しようとは思わないけど、水島批判に聞こえたら「そうです」)

さすが江夏と思った。大衆週刊誌でロリコンを明かす、高度なディスリ。

故人の名誉のために、胸の奥底に秘めて書かないでおく。書いてない。(キーボードで打っただけというごはん論法)

それにしても、お隣同士で裸の付き合いがあるって、昔なつかしくて、いいね。

心温まるエピソードだ。

ドカベン読み直し

通産 200 巻ほどで「アメトーク」で取り上げられなかったのは、『ドカベン』だけである。(当人調べ)

正編、『大甲子園』も含めて、プロ野球の三部作 (プロ野球編・スーパースターズ編・ドリームトーナメント編) で、約 200 巻、柔道編を抜いても大台の数がある。

『ゴルゴ 13』やこち亀クラスなのに、特集されない「可愛そうなあだち充」という言葉があるように、「可愛そうな野球マンガの金字塔」。

フジテレビでアニメ放送していたから、映像素材を使えないのか、という的外れな邪推もしたくなる。(カルピスマンが劇場じゃなく金曜七時)

『ドカベン』の謎本に当たる山田太郎の打率がタイトルになった本があったはず。(調べると豊福きこうさんの『ドカベン 7 割 5 分の苦闘』)

とんねるずが『巨人の星』のパロディコントを「みなさんのおかげです」でして、ファンがファンを再生産する構造が無かった。

どんなに太田光が『ドカベン』を読んでいると言っても、連載で書いても残念なことに、若い世代が『ドカベン』に手を出すことは無い。

逆に、楽屋に挨拶に行くと、いつもモデルガンで撃ってくる先輩芸人がすすめるマンガを読むだろうか？ もう一人は帰り際に「キツネバイバイ」をするので、そういう不条理ギャグが描かれている笑いの聖典であると、思われてしまう。それは『すすめ!! パイレーツ』である。

むしろ、太田くんが「ドカベンを読め」と後輩に言っても、それはドカベンハラメントになる。田中裕二は自意識が里中で、ビールびんで頭を叩くようなかわいがりをして、心を殿馬に入れ替えてもらうしかない。

こうして楽しい心温まる読み物を書き上げることを目指して、いろいろなことの中で、まず球速のインフレ問題を、ちょっとノートに書いてみた。

すると、土門で 160 キロになる。

山田の述懐から、

不知火 < 雲竜 < 犬飼 < 土門

であると、される。

さらに、背負い投法になったら、いったい何キロなんだと。

仮に不知火で 150 キロだと土門で 160 キロになる。150 キロ超でないと、普通の球児が土門の球を捕れない。その設定があるため、150 キロ以下には落とせない。

他の水島作品では、『大甲子園』にも統合されるが、藤村甲子園の 165 キロは昭和でチャップマンを越えた。

インフレはすでにしている。

ところが、150 キロの中西球道のストレートは、里中の述懐で「誰よりも速い」という、謎のデフレが起こっている。

今までの誰よりも速いという事は、

土門 < 中西

になる。土門*中西、中西掛ける土門じゃない。(ペケの掛け算・乗数記号を入れると、PDFだと変な字になり EPUB だと OK)

妄想の「カルピス高校球児劇場」では、とんでもない事になっている。土○垣がバットの代わりに棒で山田を突く。

山田にしか、本気を出していないという、山田が全員をウケるという設定だと思う。(総受けの語源かあ)

藤村で思い出した。

『大甲子園』で藤村が試合前に引いたファールラインが、試合中ちゃんと意味があるように、ちゃんと、伏線回収されるのだ。ファールライン・ピックアップである。(ところどころまるで水島さんを褒めているような事を書かないと良心の呵責を感じたりはしない)

そんな『大甲子園』で『野球抄』のこと、正確には『野球抄』で語られた長距離打者を一番二番にする打順コンセプトが話される。球速のようになり早かった。

球界は、というより様式が固まってしまう業界はどこもコンサーバティブなもので、なかなか新考案のやり方は「ベンチが頭が固くて」実用化されない。

スカウトもやらない。

『マネーボール』で、やっと実用化するフロントが現れるのだが、現在はこうしたセイバーメトリクスは、もう古いと言われている。

新しいモノが、もう古い。

水島新司はマンガがうまい。私に褒められても、デスブログになってしまう。後期高齢者だし、もう大丈夫だろう。十分稼いだし。

くだんの甲子園ファールライン引き、見開きのシンメトリーの構図、けっこうよくできている。

水島さんに草野球後の飲み会での親睦だろう、北野監督が言葉で映画のこれから撮りたいシーンを話すと、絵に描いてくれる。ちゃんとした構図を描いてもらったらしい。

それを監督は褒めていた。テレビにタックルである。

児童福祉法違反なタダ働きさせられたと、思えばいいか。自作が映画化されると、た

いていカメオ出演するのが趣味だが、巨匠・北野武監督の映画には出ていなかったはず。（完全な調査じゃないがどうも調べると出ていない。ジュード・ロウみたいに出してあげなよ）

『菊次郎の夏』で井出らっきょに合成されるタコの絵の代わりに、水島さんの顔が合成された水島エディションがあればいいんじゃないか。『RAMPO』奥山バージョンみたいな、黛りんたろうバージョンには、井出らっきょが出演する。（こういうりんたろうさんをちょっとと言うと急に内容証明が届く！ 絶対にいじっちゃいけない。ゼツタイにいいいい！）

さまぁ〜ずのゆずのネタはともかく、ドカベンメソッドとして、例の不良がいて、したいスポーツの部活動ができないというか、はじめはそのスポーツに所属してないとか、改良型を含めてそれは多種（野球マンガ内）多様（野球マンガ外）にある。

自己模倣的に他のマンガで水島自身がドカベンメソッドを行い、野球マンガで（常にチームメンバーが足りない）『メジャー』でもやって、他のスポーツマンガでもやる。（ドカベンシステムは水島さんしか使ってはいけない）

近作でも、『あひるの空』『火ノ丸相撲』『この音とまれ』など、見るとドカベンデジャブである。他のスポーツ、部活動でメソッドを導入する。

岩鬼＝桜木の『スラムダンク』はスタメン五人が、明訓五人衆というか、土井垣がゴリで、小暮が北くんみたいな、これは井上さんがインタビューで『ドカベン』に言及しているから、ギャグじゃない。私は無いけど、『ドカベン』に対してのレスペクトが井上さんにはある。もちろん、私には無いけど。（大事なことから）

『スラムダンク』を先に読んでいると、『ドカベン』が『スラムダンク』みたいだと、逆転現象が起こる。なんか「バスケ部最後の日」っぽいよね、と言われそうである。

単純に不良がスポーツで更生するという神話は梶原一騎からドカベンが固めた、と思われるが、資料を集めてみると「ビルドゥングスロマン」の定型をなぞっていて、いわゆるならず者がナショナリストになって戦争で活躍する、ちょうど救国の少女の性転換、そういうかしこなことは、「かしこのくせに生意気だ」と思われるからやらないけど、歴史的にはそういうのがある。

二つのヒロシ、水島ひろしと、あだち博の、そういう意味じゃないけど、『H2』、である。その違いは何かと言ったら、水島は講談、あだちは落語と言えちゃうが、差異がわかる人は少なく、「サイですか」と気の無い返事をされる。こぶ平こと林家三平なら「そのサイはどうぞすいません」と謝る。

「正蔵だよ！　そこ間違っただうすんだ！」

そんな正蔵が出演していない『H2』はあ壇ち蜜るお得意のラブコメに、ドカベンメソッドが並行して、ストーリーは進行する。緒方勉くんみたいな東北県の代表校の投手が、「東北」を「東フォーク」とつまらないダジャレを言う。これはチアガールのパンチラを投入して、読者をなだめないといけない。（誕生日変更事件はドカベンに元ネタは無い）

終いには『ガールズ&パンツァー』まで辿りつく。ご期待されているようなチアガールのパンチラは無いが。

『ガルパン』にはスピンオフマンガがことその他多い。テレビシリーズがもう『大甲子

園』。「最終章」の方がそれっぽいけど、先に『大甲子園』があって、後から『ダントツ』や『一休さん』が出てくるようなもの。そもそも、里中がゴルフ場でアルバイトしているのが明訓に帰ってくるような、シナリオというか、

「弾定みなく、道、無限軌道なり」（何度か読み返してみると意味不明）

ということで戦車道=球道でいいのでは？ 不良・ヤンキーにあたるのがいなかったから、サメさんチーム・・・まあ、いいや。

そして、県の擬人化チームが国の擬人化となる。『ヘタリア』のハンガリーさんが喜ぶ、山田と里中。というよりも、山田を中心にした男たちの愛憎、そこは女性読者も満足の、田亀源五郎さんの『鬨り者』みたいな話である。プロレスラーの代わりに、柔道家で横四方固め、腕ひしぎ十字固め、押さえ込みをする。山田は口と首に鎖を巻かれ、腕をロープで縛られ、禪からサチ子が出ている。（乳首には触れない）

ちょっとよくわからなかったら、いしかわじゅん先生の『漫画の時間』は絶版にならないから、手に入れて拝読すると、その引用図画を参考にしていることがわかる。心眼打法のように、「目を閉じてアガペーが見える」である。

青柳裕介の『土佐の一本釣り』から地方を表現するのは、たしかに70年代からあるのであるが、『ドカベン』から『翔んで埼玉』『ぶりぶり県』、『お前はまだ群馬を知らない』と地方や県を表現、主題とする内容のマンガは発展を遂げているようだ。

千葉流山も『すすめ!!パイレーツ』で、なんかああした、田舎扱いを受けてしまい『普通的女子高生が【ろこどる】やってみた』というマンガで救済を受けるまで、埼玉県民のようにつらい迫害を受けてきた。ながれやマラリア。

コメディアンの県ネタでも、県の持ち方や県の方言を話す漫才、県訛りを話すのがOKとなる。

テレビ番組で「噂のケンミンショー」もあり、現在でも「極」が付け足されて放送されている長寿番組で、ご当地リスペクトに徐々に変わっていった。

県の擬人化、県の擬チーム化を全国大会でやっている。70年代半ばあたりで、その地方色溢れるチームが出てくる。

りんご園農高に『ぶりぶり県』っぽさを感じる。りんご=丸バナナという、等式があるようだ。たぶん青森は北側がブリザードが吹いているが、その日の県の南端のところは半そでで過ごせるような土地なのだろう。男花火もやってそう。サチ子が・・・『ドカベン』の話である。

『歯ざしり球団』の話ではない。

高知では闘犬を人にけしかける、水島フィクションが炸裂する。昭和の時代、マンガで荒唐無稽を語っていい範囲が広がった時代の産物である。

太郎先生の『風雲児たち』のギャグ注を見返さないとわからないネタである真田十勇士や国定忠次が廃れていく過程も見てしまう。受けても送り手もデータベースがファミコンソフト起源のゲームやマーベル映画に上書きされつつある。

なんというか、これは『Fate』シリーズが、どんなに優れていても、『魔界転生』や『総門谷』が再評価されない、むしろイノベーションで過去作として陳腐化を受けている事

と同じだろう。

昔から私がしているたとえ、ルーツミュージックを皆、聞かなくなる。

かつて一人のミュージシャンが売れると、ファンがルーツミュージックを遡ってくれる。それでレコード店が成り立っていた。他のジャンルでもそう。小説家がデビューしたら何を読んでいたか、知りたくなるファンがいて書店が成立していた。今は、作家一人の作品すら追わない。正確には追いきれない。

サブスクリプションで音楽を聞く時代だと、今までと違い、ちゃんとルーツを遡ってくれるというのは、期待された淡い願望にすぎない。(代表制バイアスや保有効果バイアスで語るのは神話)

ドカベンを読んでなおかつガルパンも観ているのは、世の中で私の他には、水島新司と同じ姓の努監督だけだろう。「男どあほう国立競技場」

そういえば、『キン肉マン』のミステリアスパートナーは、風の又三郎が元ネタと、言っても大丈夫か？ テレビアニメシリーズしか観てない人だと、取りこぼしている伏線がいくつかある。(岩鬼のケツ絆創膏…)

ハイジャックで小林くんがアメリカから帰ってきたのはわかるが、アメリカで覚えてきた山田対策を他の人に使う、大NTR！ それも徳川に「やれ」と言われて、言われるがまま悪質タックルをするみたいに使ってしまう。悪質ナ…ゴホゴホ。せっかく種がわれないようにしていたのに、オヤジギャグひとつのために、読者の楽しみを奪うところだった。『鬨り者』でたとえると…

さて、マンガの『ドカベン』の最後は、里中高校中退エンドである。

明訓を去り際に岩鬼に「お前は小さなコビトだとお」と、言われてもなんだかなあ。ちょっとセリフを間違ったけど、気にしないように。

ともかく、この展開を知っていると、『大甲子園』は里中救済策だろう。

人気が翳ってきて、最終巻あたりは試合が編集されて、次の回では試合が終わっている。盛り上がっているところで「引き」になり、試合が終わる。

わかる人には、アンツィオ高校があつという間に負けるような、そんな展開が続く。

いろいろ、言われたんだろう。テレビアニメを観てファンの外の人まで観ちゃって、ラブプレーを「乱暴だ」とか、あつたんだろうなあ、と思わせる試合内容とかある。(飲酒問題があつたり)

土佐丸高校が殺人野球をしないのか、とか。

花巻高校との親子対決も、ぼんやりとした結果というか、結果は『大甲子園』にセリフだけは、ある。

「あんな面白かったドカベンが」と思うような減速ぶりである。

どの人気作、長寿作品には、よくあること。

しょんぼりする話題は止して、犬飼知三郎は未来予知三郎で、その後の平成プロ野球シーンで描かれる事を、昭和でやっている。

マウンテンボール、多田野と、この場では書いてはいけない欽ちゃんの顔に泥を塗った男が投げる山本、じゃない！ 山形(やまなり)のボールが、ギリギリストライクゾーンに入るフライ投法。

ムーアの千手観音投法みたいな、サイド、スリークォーター(「スリーコーター」と作

中では表記)、オーバーハンドで投げる。

遠山奨志の対角線投法で、ストライクゾーンの隅にボールを入れる。少ないドカベンファンは松井対遠山の対決を、山田対知三郎の再対決、実写版に見立てていただろう。

それから桑田がボールに話しかけるのも、知三郎の真似である。(このあたりの桑田の自意識を遺伝的に相続したのが次男のマツくん)

酷いパロディにされるいわれはない。どこにそんな酷いパロディがあるんだ。

そんなものは絶対ないぞ。

探してみろ。どんな本にも、そんなものは書かれていない。「パロ野球ニュース」にあるのか？

本当に探してみてくれ！

…何だと？

私を疑うというのか。

そう言うなら、好きなだけ私の電子書籍を読んで見つけ出してもらおうじゃないか！

いくらでも調べるがいい。

「但し、これだけは調べるなよ」

と、「ヤングライオン3」をプリントアウトした紙束を懐に入れる。

吉本のギャグ(花紀京の持ちネタ)が出たところで、面白いのは、イチローのプレイはけっこう『ドカベン』の義経八艘飛びみたいなホームインだと、テレビ報道でそのシーンを引かれる。

ところが白山くんみたいなホームランキャッチは、例示として引かれない。それはドカベンファン、水島ファンしか知らないからだ。

つまり、『ドカベン』はアニメ化されているところまで。プロ野球で知三郎くんみたいなことをやっているというのは、『大甲子園』がアニメ化されていないから、皆、知らない。(不知火は白山くんのために甲子園に行けなかったんだからね)

野球好きというより、ドカベン好きが「知三郎みたいな事をしている」と、色めきたつと他の野球ファンに煙たがられる。お前のことだ、伊集院光。皆、後輩芸人とか、メイワクしてたんだから。尻なめ野郎。

コンタクトを落として試合中断で探した達川は岩鬼のモノマネと言ってろ！

アイスを売る子供は、リアル水島新司だ。岩鬼との交流は、ホークスの選手たちとの妄想で作られた交流、赤毛のアンが妄想を話していないと、哀しい生い立ちを思い出して愕然とし、泣き出してしまう。アメジストを盗んでしまう。ぬれぎぬ。(この辺りに真紅の優勝旗の元ネタが)

南海好きだから、スーパースターズのユニフォームが南海ホークスのレプリカユニフォームみたいになる。明訓高校のユニフォームも南海に近い。

往年の野球ファンは「ユニフォームを南海にスタンカ」と。1964年日本シリーズMVP。

水島少年の悲しい生い立ちが生み出す妄想であった。

惜しい人を亡くした。まだ(令和二年)死んでない。生きている人を死体蹴り。(『俯瞰の男』参照の事)

「水島先生を、宣伝に利用したな？」

そうです。最後に、何かとってつけたようにほめて、児童福祉法違反な労働をわかって勉くんにさせていたように、ディスリスペクトとわかってした事を霧散させる、何かいい手はずはないかなあ。

水島さんはちゃんと打撃フォームや投球フォームが理にかなっていて、正しい。理にかなっているとは、どういうことかということ、手塚一志の『ピッチングの正体』『バッティングの正体』にあるような、骨格や筋肉のスポーツ生理学上、正しい動きを描いている。

それを70年代末にすでにやっていた、描く事ができていた。

中西球道くんがオーバーハンドでちょっと首を傾けているのは、正しい。球威が出るフォーム。左打者がインコースを打つとき、バナナのように身体を反って打つ、これも正しい。バナナカーブと呼ばれている。武蔵坊はちゃんとステイバックラインでホームランを打つNMP。

「もやもやさまぁ〜ず」でぶらっと、手塚が野球トレーニングをしているところ（ベータエンドルフィン？）に、女子アナを含めた三人がやってきて、三村マサカズにレクチャーして球速を上げた。さすが前田健太を生み出しただけある。肩甲骨周りの筋肉をストレッチするマエケン体操は彼の発案だ。

『鬨り者』の主人公である山田太郎は・・・肩甲骨ですくいとれ、とホームランを打って優勝を決める。（何かセンテンス前半で間違った記述を書いたような）

『鬨り者』がアニメ化されてないから、皆知らない。

僧侶枠で・・・なんでもない。

それをふまえた上で、岩鬼はワザと正しくないことをする。木魚が浮かぶ、僧侶枠のことではない。

物理学者が「絶対にありえない」と言うに決まっている、ピッチャーの股を抜いてバックスクリーンに直撃する打球、そんなことをしていいのは、岩鬼だけ。

縦軸の演技というか。

これはマンガ表現論的には、右打者と左打者の違い、左打者だと顔が見えてインパクトの瞬間が描ける。進行方向へ打球が飛ぶ。右打者だとこれが逆方向になる。基本、右綴じで左へ向っていく日本漫画の特性を考慮すると、うねるようなバッティングフォームでないと、顔が見えない。

ページも、うねる。

パワーで持っていく、うねるマンガになる。

意外にも、どおくまんが『嗚呼！ 花の応援団』で描いている。

ひっぱりで打球が左側に行くと顔が見えない。『スポーツマン金太郎』でも、そういうシーンがある。

広角打法的に逆方向のホームランでは、右綴じなのに右へ、進行方向とは反対へ行く。（センターから見ると逆になる）

身体の動きが正確だと、逆に虚構の操作が難しい。ウソがつけないのだ。

そのため、あの擬音は発明されたと、思われる。

岩鬼の顔、代名詞と言われる「グワガラギーン」である。カキーンからグワガラギーンに、上位になる。打球のインパクト音が、擬音が示現する岩鬼示現流で、紫義塾が出

てくるのは正しかった。(ギャグ注ならぬ脚注で、薩摩示現流対天然理心流の野球代理対決と説明しないとイケない)

野球リアリズムとマンガの虚構性が激しく軋轢する時に鳴る音が、グワガラギーンだったのだ。

手塚治虫が『ドカベン』を参考にしてたと、『ブラックジャック創作秘話』でわかるように、手塚の参考にするトップランナーであった。しかし大友マンガのような光学的バッティング描写も、『大甲子園』でやっている。いつの間にか、ロートルになり、大友を参考にするようになる。

80年代に古くなっていく、はずであった。

『大甲子園』のあとがきで岩鬼に語りかける水島は、スポーツの歴史では長野五輪で船木和喜がジャンプするときに、原田雅彦が「ふなき～ ふなき～」と祈るように言い続けたような、何か薄気味悪さを感じる。

それよりも里中初登場は単行本九巻だと、連載二年目でないと辻褄が合わない。連載一年目に里中宛にチョコがたくさん来たというのは、アルコール中毒で記憶力がおかしくなっていると思われる。一年では単行本は多くても五巻ぐらいしか刊行されないから、勘定が合わない。柔道編を入れてないのか？ でも幽鬼鉄山は未来の水島の姿であるような気がしないでもない。

やばいんだけど、最後「ほめよお」としたら、水島の狂気に触れて、締まるものも締まらなくなる。(「ゴトチヒの野球読本」の宣伝なのに宣伝になっていなかったが、小ネタでも水島狂気のネタはちゃんとネタした)

「パロ野球ニュース」でやっていた(はずの)レトロ感あふれる未来予想プロ野球マンガを描いていたが、よく読めばドリームトーナメント編の構想はこのあたりから、もう持っていたと思われる。

水島の構想力はすごいね。

ゲームの中のプロ野球

タイトルからして、『燃えプロ』しかないだろう。

『燃えろ！ プロ野球』の略で、赤いカセットのファミコンソフト、ゲーム中でパロ野球ニュースみたいなことをする、そんなゲームソフトがあった。（「パロ野球ニュース」が芳文社の雑誌というのを知らない人もいるのでは？）

質問みたいな伝説のバントホームラン。

ファール打った後はどこを投げてもストライクになるバグ。バントホームランを封じるために、このバグを利用しないといけない。

ファミコンソフトでミリオンヒット作は多いのだが、二百万本を売る、ダブルミリオン作品である。

こうしたことを書くと、プチ鹿島さんらプロ野球は知っているけどファミコン未経験者が「きょとん」とする。

大メジャーソフトのファミスタとパワプロすら知らない。

いいのだ。

だから、消費税分のサービスに収録なのか？

「野球の本でテレビゲームの話は消費税分のサービスなんだよ」と。

ということで、愛称が浸透しているはずの『実況！ パワフルプロ野球』と『ファミリースタジアム』も、通過していない人には、何書いているのかわからない、どうでもいいクズ記事と化してしまうが、それもまた一興。

パワプロ君の足首と胴体が離れているとか、ファミスタで一塁へ走るよりもベンチに帰ってくる方が足が速い、ギャグを言ってもわからない。

広島山内君だけ独特の投球フォームがシリーズ初期ですぐに再現されていてずるいとか、周東くんをピノみたいに足が速い！　なんて、なおさらわからない。

マニアックになってしまう『リアルベースボール』は本当に難しい。（さらにマニアックな手塚一志の提唱したシンクロバッティングも難しくなる）

（☆中略☆）

これも『キャプテン翼』は魔球のようなシュート以外は、どうも『ドカベン』を参考にしていたんじゃないか？　こういうのは、別の人担当。それでも、少し触れておくと、コマ割りの影響が大きく、それがテクモのゲームを生み出して、始原を遡って『水島新司の大甲子園』に至ったのは、必然かもしれぬ。

おそらく、株式持ち寄り制のゲーム業界では、もうイノベーションが起きないだろう。後発組が何かアイデアのある経済学用語の商品の差別化を図ったソフトを出すと、先行組のソフトのパイを減らすから。

次第になっていったのは、仕方ないと思うが、競争が無いと廃れていく。

競争があったから、面白かった。しかし、競争があると脱落者、シリーズ展開が終わる。それで市場が小さくなると、新規参入が無くなり、ポツンと先行組みだけが孤独に生存しているニッチ（生息圏）になるのだ。（勝ち組孤独）

北朝鮮で将軍様にしか好かれない映画しか作れない状態みたいになった。というと怒られそうだが、どのジャンルでも、競走が終わったらジャンル衰退が始まり、似たようなことが起こって、市場の収縮があって、コアな客しか残らなくなる。それが将軍様化する。

彼らを満足させるような作りにしてしまうと、ますます新規参入を阻む。

（☆中略☆）

私も野球ゲームを企画してないかというといふ…言いにくいな、実はある。

公開しても大丈夫。

もうゲーム業界では、採用されないし、前述の理由で、もう、競争が終わったから、いくらでもいえる。はっきり書くと、ネタを剽窃される心配がない。

セーフコフィールドに直接行かないとできない設置型のアーケードゲームで、「世界美術館紀行」だっけ？ ウシ澤典夫さんが「美術館には、そこにしかない物語があります」と、オープニングの決まり文句をナレーションして、前後するが「それなら、そこにしかないゲームかあってもいいんじゃないか」と。

そういえば『あそびじゃないの』でも、美術館を舞台にしたゲームがあって、別に野球ゲームでなくても、良かった。

それで「ボールパークインスタレーションベースボールビデオゲーム」を企画している。第六巻のゲームの延命、いかに消費されないか、メジャーリーグを観に行つたついでにするゲームがあったらいいんじゃないかと、思っていたのである。

マリナーズの親会社だった任天堂なら、お金を出して損してもビクともしない、と。

ちゃんとビッグランチボックスがいて、打席に入るとかかる曲の歌詞に「パワーがありすぎるぜ」と日本語片言の外国人が歌う。ちゃんと「ヤツのランチボックスを見たか？

とびきりデカイんだぜ」は英文歌詞のテイスト、洋楽で歌うというか、メジャー志向だから洋楽。

日本の邦楽、英語日本語交じりの変な歌、それを輸出して、なんだろう、あの頃、CDがお菓子のおまけになってしまって、音楽はそれでいいの？ みたいになっていて、だけど楽曲が売れば、ペイはできないけど、開発費のアカは埋められるんじゃないか。だけど下手をすると、ゲーム開発費用より、楽曲制作費の方が多くなる。いつものパターンだから。

あすなひろしのマンガみたいに、ワンパターンである。

お客様がほしがる「いつものアレ」。

外国人ヴォーカルに、

BIG LUNCH BOX

DODEKAI BENTOU!!

と、歌わせて、英語日本語まじりの変な歌。

勢い余って、

BIG LUNCH BOX

NAKADASHI CHITSUDOU!!! （これをやったら消費税分のサービスにも収録できないじゃないか！ 「ゴトチヒの野球読本」は清い作品で闇なんて無い）

と、歌わせる。

ヴォーカルの人に「NAKADASHI CHITSUDOU ってどういう意味なんだ？」と聴かれたら、スイートキャロライン、甘えん坊のキャロライン嬢みたいな、その男版の意味と説明する。ガッツがあるぜ、みたいな。本当は肉欲棒太郎みたいな意味だけど。（これをやったら消費税分のサービスにも収録できないじゃないか！ 「ゴトチヒの野球読本」は清い作品で影とか闇なんて無い）

暴れん坊だと、東映フライヤーズだと。一年限りの日拓フライヤーズ（虹色球団）、ユニフォームがバラバラなヤツ。

プリティの曲が女性ヴォーカルで、

「ビューティー？ キュート？ カワイイ？ ザッツ・プリティ」

ハッスルボーイが羽付きキャップをした背番号ゼロで、ハッスルボーイだけどピート・ローズじゃない。ファッティーがジェームズ・メッシーナで、ホームランを打つ。ちゃんと右打者のNMP、ステイバックラインで肩甲骨すくいとり、200メートル弾を飛ばす。

「アジアーということは世界一ということさ」の黒子があるオリエンタルエースと、死んだ子の年を数えるみたいに、桑田の黒子の数を数える。黒子の位置が同じ。（この間似顔絵を描いたから位置を同じに出来る）

ゲーム中、手塚一志が言うとおりに、シンクロブレイクをできるように、シンクロバッティングをゲームで再現できるか、それは他の野球ゲームとちゃんと差別化できるか、今ならモーションコントローラとキネクト系で足踏みや古田みみたいな特殊なシンクロ系を操作で再現する。やっぱりサイドハンド系に弱い。

つまり、シンクロバッティングの操作を覚えてからタイミングよくバッティングができるようになったのに、ブレイクされてタイミングを狂わされる。

本当はとっくの昔に再現されていたはずだ。20世紀内に実現できた、というのは過ぎるが、21世紀になって数年でできるようになっていたはずだ。

とくにオチもなく、「いつもいつも、完封完投できると思うな」と。

野球ゲームと同じ、KO降板だ。

ゴトチヒの野球読本
Kindleアンリミテッドでも読めるよ



shinSENDEN038.JPG

* 「消費税分のサービス」にいずれ収録予定 ？

今回、延長戦有り、「経費が落ちる」として久しぶりにパワプロを手に入れて、まあやってみた。

「アンジェリークはまだやってないのか？ これだから野球好きはっ」と言われることをしてしまった。アンジェリークファンを裏切ってしまった。しかし、甘美な味わいに恍惚として、裏切りは壇蜜の味である。

冗談は壇蜜にして、ペイティさん・・・じゃない。

コナミさんに怒られるかもしれないけど、新古書店でジャンク品、100 円のものを買ってきて、多根清史の本を売ったレシートみたいに、残している。

まだナンバリング『10』の 2003 年決定版、阪神タイガース優勝の年、20 年ぶりぐらいではないか？

普通に面白い。

最初にやったコンピュータ対戦で、九回同点に久保田くんをリリーフに出して、牽制悪送球でランナーを三塁まで行かせてしまい、ヒットを打たれてサヨナラ負けする。

それがもう面白い。

伊良部を登板させると、必ず打ち込まれ、ツースリーからの大事な一球がど真ん中失投（コントロールが悪いと失投の判定がされる）して、打たれる、ロッテの経営者みたいにコンピュータに嫌われているとしか、思えない。（個人の感想）

変化球を見ても、わからない人は、とりあえず野球マンガを読むか、パワプロのような野球ゲームをすればいい、とは言っても、それでは突き放しになるだけで、建設的じゃない。

自分の知りたい情報につきあたるまで、時間がかかる。

女性は野球マンガを読んでくれない。『おおふり』を読めばストレートがバックスピンのかかった変化球であると、わかる。野球ファンは意外に野球マンガでこうして情報を仕入れているのである。

だから、野球中継を見てるだけではない。

ところが、ほとんど野球の本やテレビ番組とか、スポーツ新聞のスポーツ誌は男性向けで「それ以外」を排除しているわけじゃないが、フォローしていない。

昔、「週刊ベースボールマガジン」でスカウトのマンガが連載されていて、題名は確か『隠し球ガンさん』だった？　そこでホップするフォークの話をしていて、これはフィクションだろうな、と思っていたら、「レジェンドの目撃者」で佐々木が近いボールを投げていたと判明した。フォークにバックスピンをかけて投げていると判明。（話はズレるけど、このマンガは『サラリーマン球団社長』を読むと、阪神スカウトがナンカやっていたらしい目撃情報の裏づけになっているようだが、さらに追加情報でツーシームでバックスピンをかけているから落ちる変化が起きるといふ試験データが出てくる）

野球の情報を追っていけば、こうしていずれ出会う。

その出会いを邪魔しちゃいけない。

そこは権藤さんのティーチング・オーバーじゃない？

「週ベ」を立ち読みしてから、回収まで20年ぐらいかかっているけど、それを待てる人だけ、プロ野球観戦者になると。

それぐらい、気の長い話をして、よくない。つまみぐいなら、Wikipediaを読めばいい。「ねほりんぱほりん」でも出た人が、信頼の置ける情報を探して見つけて、編集作業をしてくれる。

こせきこうじは偉いんじゃないか？　『ペナントレース山田太一の奇跡』では変化球を投げる投手もいない地方出身のプロ選手が「ぐにゃぐにゃ球を投げるな」と文句を言う。

しかし、どんな変化球も「ぐにゃぐにゃ球」だから、直球と変化球の二択しかない。

理論上五割バッターで、観る人も、「ぐにゃぐにゃ球」とストレートだけでいいのではないか？　理論上五割視聴者である。

途中で違うゲームを取材ではじめて、置いておいたが、オフシーズン入り、ストーブリーグに入って、また春になってシーズンが始まるまでのように、期間を置いて再び、野球ゲームに戻れば、

パワプロはこの辺りで完成を見ている。

過剰サービス化して・・・心苦しくてあんまり言いたくないけど、「声」としてパワプロのプレイがうっとうしいというのが、耳に入っている。サクセスを毎年やるのが、面倒になっていく。

エントリー版や何か、しきり直しが必要だったかも。

ガワを変えたいいわゆるリアル路線の『プロ野球スプリッツ』（スピリッツが正しいけ

ど、スプリッツでいいや)が出て、なんとか野球ゲームファンを繋ぎとめていたけど、徐々にシュリンクする。

二大政党じゃダメ。勝ち組孤独に陥って、廃れていく。販売本数が頭打ちになって、どんどん下がって、コナミはスポーツジムの運営に入れ込み、なんとかeスポーツでドーピングをしないとイケなくなる。

持論であるジャンルを引っ張るソフトは、三大タイトルで人気が鼎立する。ジャンルが定着する。定着ならぬ鼎着(“かなえちゃく”じゃなく“ていちゃく”ね)。アメ車のビッグスリーじゃないけど、三大以上揃わないといけならしい。どうも勝ち組孤独になると、そのジャンルが廃れた責任が全部、負ぶさる。

RPGならドラクエ、FFで三番目が交代するんだけど、ポケモンで落ち着いている。後は少数政党乱立状態。

ポリゴンの格闘ゲームもバーチャと鉄拳、それとデッドアライブ。

野球ゲームは、三番目が無かった。三番手が無かったから、人気迷走期に打開策が海外からの下りモノ、eスポーツしかなかったという、結論となる。

そういえば能力にある、ジャイロボール、提唱者である手塚一志は桐蔭学園でNMPを教えている。

そして、ラクビーの全国大会で優勝させた。山際の「ナックルボールを風に」をもじって、「ジャイロボールを地球の上に」である。

野球ゲームで、それは無い。

ビターノスタルジーな味わいだ。

山際のスポーツドキュメントっぽい。

映画関連誌のプロモーション

映画関係本について

「今、映画批評は売り物になるか。」

「オレならこう撮る」

のプロモーションで「もしも、実写映画の『けいおん!』を撮影するなら、オレならこう撮る」があり、その他いろいろ、やってはいるけど、無料配信の時にしか、客はいない。

答えは、やる前からわかりきっている。

映画評論は売れない。

したがって、映画評論家では食っていけない。寺脇研が映画評論家ではダメだったから、副業として公務員をしていると、部下だった前川喜平に「キネ旬」で語っている。

確かに、映画評論は基本副業。ファビラス・バービー・ボーイズの二人も、町山さんは編集者だし、柳下さんは特殊翻訳家で、北上次郎がギブアップして、私もギブアップした『フロム・ヘル』の翻訳をしている。

本読み二人からギブを取った男。あと一人で三冠達成。

フロム HELL—1 クライマックス。

ちょっと自分でも、もうちょっと直したい箇所がある。本がもう売っているのに。

そこはどこかの消費税分のサービスで。

今後。

私もねえ、正直、年に一本か二本ぐらいの映画館のチケット代（京アニの映画に使用）、それを印税から得られればいい、とは、思う。

映画で稼いだものは、映画に還元（といつつ酒に還元）、とぼんやりと考えているが、なんだか、ムリそうだ。

「オレならこう撮る」というのは、松竹でやるか、東宝でやるかで、毛色が違う。

それは原作を元に『けいおん!』をもしもシャフトでアニメ化したら、違うものができる。シャフ度でギターを弾く。何故か部室に、エアコン設置前なのにシャフ風が吹く。学園祭でマイクコードにひっかかって、よつんばいになってシャフ返りする。

シャフトは縞柄のお茶碗を代わりに出さない。

「ちゃんと描く」

「渡辺明夫がちゃんと描く」

美輪明宏なら「その縞々の虹でお目が潰れますよ」と、江戸川乱歩に言う作画を見せてくれる。

映画会社で言うと、たとえば『僕は友達が少ない』の実写版は、東映ヤンキー映画の系譜で作られている。東映でやるということは、どうしてもそうなる。その映画界の文脈というか、歴史を知らないで、それは反発するかもしれない。

真正保守旧態依然の松竹でやると、奥山さんがいた頃でない限り、真面目で良い子の松竹、映画をとりあげるテレビ番組でもホームドラマ、ファミリームービーの松竹と言われている。自己像と他者評価が一致、富士さんにはそんな「家内安全は世界の宝」的、高畑勲でも、これを曲げて映画を作ることはできなかった。東映だったら、ナンとかなったのに。

松竹ヌーベルバーグと奥山プロデューサーの映画は、異常に実った奇形な果実であった。自然実生として偶然生っただけで品種として育てられることは無い。(というか外に追い出される扱いのアウトレット商品)

こうして皆が知っているはずの、国内映画文化が21世紀になって、とくに若い世代には、知られていないかもしれない。

自分の本と比べるまでもないが、三角マークを心に宿した者の必読書『黙示録』は、面白すぎる。

本物の現場の話には、かなわない。

なんかバットで机を叩く、リアルバット男、そっちを映画にしろと言いたくなる。(昭和の人だから何が沸点かわからない)

岡田斗司夫の東宝東和のやりとり、「こっちのが、面白いじゃねえか」と。(内容を開示しないが『遺言』を読むと宣伝！)

山際の「トレンドにつばをかけろ」のカメラマンがバラちゃんという愛称で、そういう話が山ほど読める。柳島さんになったのは、どういう経緯だったのだろう。

そういえば、奥山さんは就職面接で「いい映画撮りたいなら、テレビに行ったら」と新入社員候補に語っていた。今は「動画配信サービスに行ったら」と、言われるだろう。

それは「テレビを明るくふりかえろう」のネタである。(それにしても夢も希望も無い映画界だな)

そんなこんな本なんだけど、バット男が、後でいい事をするんだよ。泣けるよ『黙示録』、夏目さんが「BSマンガ夜話」であの『自虐の唄』がアマゾンの売り上げランキング一位(マンガ部門)になり、それを見越して、わざと『マンガに愛を叫んだケモノたち』が泣けると、煽ったみたいに煽る。元祖 amazon ハンター。

ある映画を作って、映画会社が損したとか、言わない。

『黙示録』の書評みたいになっているけど、皆『仁義無き戦い』が好きで、皆深作監督好きで、鈴木敏夫も東映ヤクザ映画好きで、心に三角マークを宿していないと、映画業界で活躍できないのか? という問題、富士山は? と聞きたくなる。

奥山さんが助監督をしていた頃があり、十年以上助監督しかやれない先輩が「オレがガンアクションを撮ったらすごいよ」と、変な自慢をする。

それは企画として、松竹では絶対に成立しないから、言える。完全に感情移入して「この人オレだ! オイラだ」と。

「バーチャ・ヴァーリトゥード・ファイター」なんて、セガが絶対やらない事なんだから。『セガ vs 任天堂』を読めば、一泡吹かされたから。

それでセガが絶対にやらない企画をやって遊んでいる、弄んでいるのだ。プライドが無く「しくじり先生」に弄ばれているゲーム会社、「プライドをぶっ壊せ！」という前に、壊すプライドがもう無い。

『コンソール・ウォーズ』がU-NEXTでドキュメンタリードラマになるから、それは期待。

雑にクメダルマ親方にサンキュー、と。

どうしてかというと、「オレならこう撮る」を読まない、わからない。

安い！ お金を払わなくてもいい場でわかる。「安いよ、安いよ。親方は安いよ」（雨宮空に言わせたいセリフ）

皆が求めている「本来は有料でないと閲覧できないモノが無料」というバリュー以上を生み出せていない。

プロモC号に掲載しているのは、「映画館は実はハッテン場論」だけ？

まだ、掲載してない？

（映画 ノ おしりたんてい という痔っちゃダメなタイトルに決定）

映画 ノ おしりたんてい

今までの経緯をおさらいすると、尻である。

それでは、話がわからない。

映画批評的ではない、映画を観て「ぷぷっ」と感想を言う、見当違いな事でも言ってやろう、描いてやろうな「映画を観た」で、脳のおならを「ぷぷっ」と出す。『おしりたんてい』のことをこのくらいしか、知らない。

映画を観ていると気になることを発見する。

なぜか、男性が尻を出している。

裸も多い。

なぜだ？

『ランボー』の放水シーンはいるか？ 放水されてびちょびちょになってしまった後で「キレイになったな」「新品みてえだ」と、セリフで処理するタランティーノ方式、とくに濡れ場を避ける大スターだとありそうである。

たしか、本物のおしりたんていも「これはクサイですねえ」と、おなじみのフレーズであったか？ そんなこと言ってそうである。

アイアンマンこと社長は、キャプテンアメリカに「アメリカのけつだ」と『アベンジャーズ/エンドゲーム』（スラッシュの意味はそういう意味だったのか）では、言っている。『シビルウォー』の頃から観ていると仲がよろしくなっている。

原文は・原セリフは「アメリカン・アス」と思われる。

「正直に申しましょう」

女性がお尻を出している映画、そういう氷の微笑的映画、ヘテロセクシャルだから好きである。もう、うろおぼえの『北京原人』でもお尻が出ているから、『キネマ旬報』のクロスレビューで星五つ、である。

嘘偽りなく「シャロンズ・アス」が見たくて映画を観ている。古い例だと、みんなモンローエフェクトを見たくて映画館に行った。『アンダーグラウンド』なんて、お尻の間に花を生けている、人間花瓶である。

こうした男性のお尻の劇場公開は80年代から、どうも狙ってやっているようだ。

ハリウッド映画界にも、マーケッターによる市場調査の波が押し寄せて、ともかく「前半に男性のお尻が出ていると客の入りがいい？」と理由をよくわからずに、ファイナルカット権を持っている人がやっていた、と、結論が出ている。ケツ論。

BSのドキュメンタリー番組で、地上波Eテレでも放送されたちゃんとした題名を失念した「男性像を作る映画」という話の中で、『ターミネーター』のシュワちゃんこと、アーノルド・シュワルツネッガーの尻がいいと、被取材者が話している。

「鍛え抜かれたいい尻だ」

『花の慶次』のゲームなら「傾奇度が五上がった」でカリフォルニアを平定して知事なのも、うなづけるのだが、そうした男性像を求めるのは、女性よりも男性、はっきり言えば、男性同性愛者である。

つまり、ゲイの人がたむろする、ハッテン場向けの映画にシフトして観客動員の最低人数を揃えているのが、80年代後半頃にわかっているようなのだ。

完全なハッテン場向けでもなく、『インナースペース』でお尻はいらないし、いったい何故、そこまで尻を出す必要があるのか？ 尻たくなるのが、人情というものである。

お尻を出すと、なぜいいのか？ ゲイコミュニティで『ウォーターボーイズ』が人気だと語られたのを記憶しているが、ゲイバーで話される話題は、ハッテン場と化した映画館で観た映画の事を話すのだ。

この間観た映画の話、その内容はストーリーよりも、だいたいお尻を出していたか、いなかったか。ゲイを惹きつけるような男性の裸体があるか、無いかが結局問われる。それはヘテロセクシャルの男性でも、女優が脱いでいるか、どうかばかり気にすると、対して変わらない。

そして、男性のお尻を出しても、コード状、PGとかの年齢層が上がったりしない事も、関係しているようだ。

有名な「フ●ック」は一回しか言っただけないが、規制はきついがお尻はゆるい、「オカマバーでママが何度もやる持ちネタ」みたいになってしまう。

だけど、ちょっと性表現がある。用語としてのヒーロー・ヒロインのキスシーンやベッドシーンがある。それは「ゲイの人に向けて作っているわけじゃない」というエクスキューズではないか？ そこは異性愛、ストレートですとちゃんといれなくちゃならなかったのでは？

映画評論の本であった、「人は普段ひとつの職業についているが、もう一つの職業にもつける。それは映画評論家である」、と。

二つに割れている。

ということで、前半と後半で割る。

間には、今まで書き散らした、尻があやしい、しりがあや尻記事を再掲載。

再び掲載のおしり 関係

今まで尻を出している映画は、『東京無国籍少女』などが好きと語ってきたが、尻出し映画はゲイカルチャーが生み出したものじゃないか？

『ターミネーター』や『ランボー』で、男性の尻が出てくるのは、よく考えてみると、ハッテン場と呼ばれるところが映画館だと、お尻を観た後、お隣の同好の士とメイクラブする気分を高めるために、序盤に出てくるのでは？ 『フィラデルフィア』だと、エイズウィルスをご相伴になる。

ともかく興行成績の下支えをする、「お尻がマネーショット説」、本気で裏付けようとすると山ほど英文カルチャースタディーズを読まないといけなくなる。先行研究にある程度目を通さないと、納得してもらえない。

だから、裏づけの無い、単なる憶測だけど、ゲイが文化の先端を行っているのではなく、ゲイを顧客として取り入れると初動がよく、そのままヒットにつながる。

さらに映画館を出たときに、スカッとする内容、それも『ターミネーター』みたいにゲイの未来は明るい希望が持てたり、『ランボー』は浮浪者を排斥するようにゲイを排除しようとする人間が復讐されていい気分と、解釈できないわけじゃないものがある。

「アメリカの尻」はもうちょっと前に出した方がいい。

ゲイはキャズム理論のイノベーターじゃなくて、イノベーターとアーリーアダプターの間にあるキャズム（溝）の橋渡しになっているようである。映画にイノベーターであるマニアは何でも見てくれる。それ以上がむずかしい。どのジャンルでもマニアは何でも見てくれる、何でも買ってくれる。それに甘えたら、先細っていく。

『DIVE!』は入れ物だけ持ってきたが、中身が入っていた。うんちがこびりついていたゲイからのメッセージ・イン・ザ・ボトルである。なかなかハッテン場でかけてもらえなかった、ようだが。

映画も、90年代にレンタルビデオ店が席卷して、ゲイに取り入るのが、難しくなったのも、ある。

だがヘイズコード、ウィリアム・ヘイズさんの規制が取り除かれて、『水の微笑』のように、冒頭でキャッチーな出来事がある。

性表現が少し緩くなった、おかげだろうか。

映画で『ついでにとんちんかん』の「いきなり尻見せ」には、意外にこうして深い事情があるんじゃないだろうか。

もう一つ、尻の片側☆ 二つで無限大★

映画をネタに一笑いをするだけで、特に批評はない。

そういうつもりである。

添えるのも、イラストや写真（擬似うんこ製造マシンの材料）で、読んだ人に一笑いを与える、捨てコーナーであった。

はずだった。

そんな批評性の無かった穴埋めコーナーみたいな

いつもアメリカ映画はお尻を出しているなあ、と、テキトー（なげやりの意）に書いていたら、ゲイカルチャーの人々がたむろするハッテン場が映画館なわけで、ゲイ向けに製作された、エサを出しているんじゃないか……. エクスゲイテーションというか、そういう可能性を尻に見た。（エクスプロイテーション+ゲイでエクスゲイテーション）

押井監督の言う裏目読みである。

尻たくはなかった。

ゲイバーで話題にされるのは、「あの映画であの俳優がお尻出している」ばかりなんだろうか？ その、いわゆるクチコミでなんとか動員数を増やし、興行成績をあげようとしたのか？ 映画は普段見れない尻を観にいくメディア化したのは、こういう事情がどうもありそうなのだ。

なんというか、クチコミって、あてにしちゃいけないな、と思った。

アニメ…じゃねえや。海外ドラマ『ホワイトハウス』だと、大統領が西海岸に遊説しにいき、ハリウッドで有力者たちと接触すると、ゲイたちばかりである。

本来は「ジェンダーがコマ割りを規定する2」にある記述をコンバート

少し、LGBTについて長い話をしよう。(LGBTQ、もうひとつある)

LGBTは20分の1で発現すると考えられる。

男性の場合GBTが20分の3(LBTでも20分の3)となるが、これは概ねといったところだ。20分の3は期待値として、参考程度なのだが、このために「10人に一人」や「11人に一人」のゆらぎが発生する。

昔の競馬ゲーム『ダービースタリオン』はスピードのインブリードが一本、一本ずつ判定されていると、考えればいいたろうか。

20分の1、20分の1、20分の1と、20面ダイス(そういう遊具が存在する)を何度も振っている。それで「目」が出たらGBTが発現する。もちろん女性の場合はLBTで発現する。

これらが重複することもある。だからバイでトランスジェンダーの方もいる。

ペドフィリアも発現率5パーセントだとされる。後天的にはアリスシンドローム、物心着いた後に刷り込みで幼女に性的な興奮を覚えるのも、あるにはあるので一応規制する背景、という事になっている。

だいたい『不思議の国のアリス』で刷り込まれるから、ロリータコンプレックスやペドフィリアではなくアリスシンドロームとするのが、正確だろう。バイセクシャルは後天的に同性愛をするようになる事もありえる。

これも二重に発現した場合もありえる。それがジャニー喜多川やマイケル・ジャクソンで400人に一人。一億人以上、国民がいたら発現している者も多い。

狩猟採集生活は、空中窒素固定反応以前どころか、農業革命が無い時代であり、自然から限られた食料を得るしかない。いわゆる「共食い」をすると起るプリオンに耐性を持つ遺伝子があることで、人肉食もあったようである。

原農業はあっても食料抽出がこのような環境だと、生存できる個体数は多くなく、近交弱勢も起きやすいので、機能主義が発達したとされるのが、(注・中途作成)

三男四男でゲイが発現しやすいという、事例もあるらしい。

それが自然選択された結果ではないかと、こういう説もある。

それで後半である。

なぞかけというか、腐女子さまというのはどうしているのか、ゲイと腐女子って分れるのか、同時だったのか、そういう事には狩猟採集生活期に獲得した遺伝的形質という

持論が私にはある。

フロイト学派的な考えでは兄弟同盟を見るのが好ましいのを自然選択されているのでは？ 打倒すべき原父を倒してくれる期待を勝手に兄弟同盟に見ているのか、男子の虚構革命と女子虚構革命が、同時期に進んだのか

『ホモサピエンス全史』を読んでいる

どうも自然界の頂点に立つまで進化すると、種の個体数を限った生存法、自然選択がなされるようなのだ。生物ヒエラルキーの頂点に立つと、食べるものが無くなる。植物、被捕食の動物、どちらも枯渇するのだ。

なんで、キリンは同性愛的な交尾をするのか、ボノボ的な意味合いなのか、長い首を傾げる謎なのだが、実はサバンナの勝者で、増えすぎないためではないか？

サバンナのブラキオサウルス説、灌木を食べ尽くして、自然界の生産量を越えて食べない個体数調整では？ ライオンの子殺しとは違う方法で種の個体数調整をしている。

基本人間がオーバーキルでもしない限り、キリンは絶滅しない。日本でも財産さえあれば、動物園でなくても飼えてしまう非希少動物の珍獣で自然界の個体数が多い。条約で取引が禁止されていない。（逆にこのためか内戦の起きた国で捕獲売却で得た資金で武器を買い、また捕獲という乱獲サイクルができるのか？ それで地域で絶滅した説？）

もしかしたら、ブラキオサウルスはゲイが発現する遺伝子が無かったから、植物の生産量を越えて増えてしまって、森を枯らして絶滅したという、珍説もなりたちそうだが、恐竜学者には総スカンであろう。

ただ増えすぎてレミングスの大量死のような事が起きますと、恐竜全体の絶滅ではないが、それも考えられる。まあ、参考までにそういうことも考えられるという話だ。

ジャイアントインパクト説で急速な寒冷化があった後、食糧事情の変化に対応できなかった。それがブラキオサウルスのみならず、恐竜の全体が絶滅した。

富岳を使ったシミュレート、原始時代をワールドシミュレートしてみるのが、手っ取り早い。仮説設定上あくまで追い風参考記録だが、現生人類はゲイやビアンクの遺伝子があるから、生き残った説である。同性愛という機能主義があった方が「自然選択された結果、LGBTがいる」のが、しっくりくる。

辻褄が合う。

これでやっと、同性愛者への不当な蔑みが無くなるのではないかと。（原始時代に性別分業制だから今でも性別分業制をしようというのと変わらないかも）

私はゲームプランナーだから、その「ゲーム」の開発はやりたい。『シムアース』の超進歩型か、一頃流行った単純なプログラムで出来た生存ゲーム（赤は青に強く隣接すると捕食、緑は長生きだけど弱い）

その超進化型、あのピカイアがここまでなるか

ネアンデルタール人の遺伝子に同性愛の発現がないから滅びたという珍説、
他にもプリオンになるから、カニバリズムことカーニバルによる人肉摂取は生き残り
をかけた

プリオンになる者を選別して、文化的自然選択されていたと、
食糧事情が常に安泰というわけではない。

ネアンデルタール人には、それがなかったから『2001年宇宙の旅』で語られるモノリ
スに触れて、人肉食を

やっと映画の話題に

機能主義万能説で

話がまた遠まわしだけど、オセアニア系の顔立ち、ビーバー口で出っ歯、元ロッテマ
リーonzの里崎みたいな、

ココナッツの実を噛んで剥く事ができる

脂肪分を貯めて太りやすく、ルッキズム社会では好まれにくいかもしれないが、

すると南洋諸島では船による移動が

自然選択されている。

ただ絶滅は複合的だと、『ホモサピエンス全史』で語られた虚構革命が出来なかったから、
ゲイの遺伝子を残せず、さらに食料が不足した時に陣肉食ができないプリオンになる

ティターン族の原形がネアンデルタール人であったか、オリンポスの神々の原形が現
生人類だったか、

寒冷期は、マメ科の植物が育たなくなって自然生産される固形窒素が少ない（北限南
限が狭まる）ので、どうもマンモスのオーバーキルを起して、食料を絶ってしまう。（寒
冷期で農業をはじめた説がある）

結論はいつも引く、柳澤桂子先生の「悪い遺伝子は存在しない。悪い社会が存在する
のだ」と、という事だろう。

映画、

プラトンの時代から洞窟の比喻で映画の起源がそこにあり、

洞窟で原始的結社を築き、ゲイたちは仲良くしていたらしい。酸素が欠乏するや笑気
ガスが出るところで、乱痴気騒ぎをして

その洞窟の暗闇は、やがて劇場の暗闇になり、

まず劇場が闇で暗くなる、

洞窟のハッテン場が映画館となった近代社会に、そういう原初の記憶が蘇る。

Netflix映画など、配信映画ではリクープとかペイメントとか、お尻を出す必要性が無くなるかもしれない。失われる文化として、これからは、そういうゲイの人にも目配せしたシーンが必要なくなる逆にあえて、エキスキューズの的に異性愛描写しなくてもいい、

ただおならして、「クサイなあ〜」という企画だったはずなのに。

U系のプロモーション

格闘技本について

「U」と「U2」の途中まで掲載。

グリーンブックに「U」掲載。

グリーンブック2に「U2」掲載。

この二つの「U」を収録した「2UF」には、格闘技関係の読み物を入れて、七割の印税率の本を作ろう。

というのを目指している。

2019年の夏頃に（若い頃『怒』ばっかりやっていた）サク対ホイス戦のビデオをわざわざ借りてきて、暑い中観ていた。

説明不要ではない『2000年の桜庭和志』の書評と格闘技話を書いたのが「U2」で、キムラロックとかのネタを創作・フィクションでも入れている。岡村父がなんか盛り上がるの、わかる。

用意しているネタを少し、紹介したい。

「バーチャ・ヴァーリトゥード・ファイター」こと「VVF」を用意しているけど、『バーチャ・ファイター』をゲームの『UFC』シリーズのような寝技ゲームに作り変える、誰でも考える稚拙な妄想。

質の悪い『女帝』の映画化会議みたいなものである。「映画秘宝」の。

だけど本当にリリースされたら、「オレのバーチャをレ●ブしたな！ よくも、ドウェイン・ジョンソンでパイちゃんをラベしたな！」とめちゃくちゃ叩かれる。

どうなんだろう？

ケンドーコバヤシくんが妄想トーナメント大会で、ホテルのなになにの間で記者会見して～～というのと同じ、プロレスファンの妄想というか、その興奮だけを味わう。

しかし、カスタマーさまの反応なんて、わかっている。今までのVFファンに「オレたちがやりたかったバーチャはこれじゃない」と。なぜ回し蹴りでジェット戦闘機が通り抜けるようなSEが鳴らなくて、なんでスターパスを決めた時にそれが鳴るんだ、と。

「寝技ゲームだから」

としか言えない。

側転スウィープから、バックをとり、チョークスリーパーの流れも、ちゃんと和声法通りの音響効果を出す。

「私は『サイレントエフェクト』の企画者ですよ。音にはうるさい」

「悪友」でもやっているネタ、「潮にはとっても気を使いました」と、もう書いてあるはず。（しかし残念なお知らせで、「悪友」はデータファイルをセーブできず打ち止めに。「全部太田が悪い」ように全部 Puboo が悪い）

本編では書かないネタも、入れようか。

…これは、言っていないか。「ガープス・マーシャルアーツ」にエキスパンションでルールを増設、それでキャラクターを作って、格闘模擬戦をスタッフ一同に、プリプロダクション期にやらせる。ちゃんとジー・クン・ドーが柔術家に勝てない設定に作る。(マシュー・ポリーの本を読めばわかるだろ?)

よく言う「イメージをつかませる」ためだから、そのまんまゲーム化するわけじゃない。素振りというか、キャンプインというか、要するに UFC 以前のガープス・マーシャルアーツに UFC 以後のマーシャルアーツを継ぎ足す。『世界樹の迷宮』のスリップストリーム、それが VVF のポジション。

「ファミ通」のインタビューじゃ絶対話さないネタ、「ファミ通」出禁になったから、そもそも出ない。

思いついていても、明かしていいヤツ。やりたきゃやれ。

マネして良くなかった時、責任とれない。「勤務時間内にただ遊んだだけじゃん」とつっこまれたら、「そうだよ。TRPGもたまに遊ぶとおもしろいよ〜♪ 毎日遊ぶとちょっと飽きる♪」の途中からケンミンの焼きビーフンの替え歌。

公式見解としてエターナるした『絶負』に続いて、Uシリーズのレギュラーである箭本さん(読みにくい漢字なので読み方を書くと「やもと」と読む)をモニターに呼んで、忌憚無き意見を聞かせてもらう。

それから『コブラ団』は「VVFのパクリだ」と、絶対そうじゃないから言える。(コブラ会だったけど、VVFの中にコブラ団を創作した方がいいかも)

用意しているのは、他にも、「データベースが足りない!」って、そのまんまなネタがある。文中にもある、「週刊ゴング」「週刊ファイト」が揃えてあるって、説得力が違う。「格闘技通信」の文章に触れていると、何かが違う。

私にはそういうのが、無い。

持っているのは新古書店で手に入れた文庫本『格闘技マンガ・アニメ・ゲーム・ノベル99の謎』ぐらいしかない。『ケンガンアシュラ』の元ネタ。(そういえば、列堂の牙と同じ事を書いちゃってる。たまたま被っているのか、それともサンドロビッチヤバ子先生は「ガープス・マーシャルアーツ」を読んでいるのでは?)

原作マンガを読んでなくて、「U2」を書き終わってから、アニメ放映でストーリーは追っていて、存在はブルボン小林さんのおなじみのマンガ評で「トーナメントはいいものだ、人生に刺激を与える」と、語っていたと記憶する。

「U」でも書いているように、らも先生の『お父さんのバックドロップ』は持っている。

「コトバを食べる、ケモノ。」の元ネタのひとつ。もしかしたら読んでいたかもしれない「ウツ800」を覚えていなくて、そっちなのかと、ズッコケた人が藤子ファンには多いと思う。

文庫本の猿さんの解説が、名作中の名作。活字プロレス好きは皆、必ず読まなくちゃ、いけない。

(ここで「U」も「U2」も「2UF」も、と言わない。私は奥ゆかしいから)

アニメ映画の『ムタフカズ』が何故か、若い頃『怒』ばかりやっていた桜庭や中井祐樹さんが声の出演をしている。それでたくさんの集客が見込めたのだろうか。所英夫が

タイガーマスクで、タイガートルネードスピンのフェニックス・スプラッシュしてる。

『ムタフカズ』観てください」

『ちえりとチェリー』以来の宣伝活動、『GON』も観てほしい。カートゥーン・サルーンの一連の作品も、新作『タイガー・ウォーカー』も。虎ハンターの話し？ 石井？

悪い映画のプロモーションだと初代虎ハンターを舞台挨拶で呼ぶ。

ジ・アウトサイダーを観ている場合じゃないと、書くと前田に怒られる。与田監督みたいに文句を言う前田、あんまり言うと、KOへの地獄巡りをされる。

書き出しに書いてあるように、このプロモCでの掲載は、「U」の最初の方だけ。

それと、「U2」は章立てになっていて、「サク（桜庭）の人気」の半分くらい、岡村父って岡村隆史のお父さんのことなんだけど、その話題をすところまでは掲載していない。（サクをモデルにした奴に言わせたい。「プロレスラーは強い」の相手を侮蔑版）

後は「はじめてのUFC」「格闘家の人生」「異種格闘技戦から総合格闘技へ」「進撃の巨人 への影響」「ホイス戦」「寝技ゲームの挑戦」「QUINTET」のチャプターオクタゴン方式で「2UF」と「GREENBOOK2」に掲載。

完成するまで、「データベースが足りない！」が掲載される。

続きは、アマゾン・キンドルで。

* 注意 『ウルフウォーカー』のタイトル名をボケてるけど、大丈夫だろう。みんな、これで名前を覚えてくれるだろう。

随筆 U

なんで雑誌「ナンバー」はこんなにラグビーを推すのか、というぐらい『1984年のUWF』は面白い。連載をまとめた単行本も出た。プロレス業界ではU系と呼ばれる、UWF誕生とその顛末である。

Uはユニバーサルかアルティメットかで、少し意見が分かれると思うが、ともかく二つともプロレスとの相対差が測られる。ユニバーサルなら現在、普通はユニバーサル・スタジオ・ジャパンということになる。アルティメットなら、マンガ好き限定だが、カーズが石仮面で究極生物化したアルティメットカーズである。究極生物と言え私はモンガーだが。

まだ『1976年のアントニオ猪木』を読んでいる途中なので、伝え聞くことと、記事の内容が違う。というより、新聞寿がデマゴギーを流している。なんというか、事実の小さなとっかかりに尾ヒレをつけさせているのがわかる。

作者が情報を聞いたという中には、いしかわじゅん先生の名がある。『忍者武芸帳』のナレーションのように、「いしかわじゅん、お前はいったい何者」と思った。毎日新聞の朝刊に四コママンガを描くマンガ家じゃないのか。

二大政党・全日本プロレスと新日本プロレスというプロフェッショナルレスリングの団体がある。

『76年』は人気が先行する全日（馬場）に新日（猪木）が挑む時代背景があって、組織の力関係上、馬場対猪木のマッチを組めないから、タイガージェット・シンからモハメド・アリ、いろいろな格闘家と「異種格闘技戦」、場合によってはリアルファイトを仕掛けられたり、そういう経緯で新日は人気を得たが、80年代に入ってアメリカンプロレスに猪木が固まっていき、仕掛けをしなくなった。

新日の人気が安定したといえる。

『84年』は『76年』の続編にあたる。「ユニバーサル・レスリング・フェデレーション」の頭文字でUWF、こちらはユニバーサルで、アルティメットはUFCの方だ。その話題も出てくる。

UWFは新日に天才佐山聡が入団し、数年後にアントン・ハイセルの資金問題が燃え上がる。地中にそんなバイオなものを仕込んだら、醜態して大変なことになる。

アントン・ハイセル。

山際淳司なら「なんと魅力的な言葉だろう。人は誰しも自分の人生の中から最低一つのアントン・ハイセルを作り出すことができる」とか、書くだらう。

いろいろなことが語れるができるだけ、ファミコン寄りの「アマゾンがかみつき攻撃」

U

KOUKOKU

『1984年のUWF』の書評でもあり、プロレスの随筆でもあり、そのためプロレス・格闘技ファンのために、独立させた。「GREEN BOOK」に収録させている。

プロレスというのはプロモーターの意向があるので、それなのに真剣勝負の劇薬を手にしてしまったタレントたちの話である。真剣勝負はせつない。どんなに船木に肩入れしても、世界一性格の悪い男である鈴木みのるに秒殺されるのである。

アマゾン キンドル にて
単独発行

UとはUWFのUである。

coucoku40.jpg

桜庭の人気

『2000年の桜庭和志』は「Sports Graphic Number」の連載を追って、読んでいた。

桜庭和志とは有名な武藤が高田にドラゴンスクリューを決めている写真に、セコンドでリング際、ロープ下にいる姿が映っている。

プロレスから派生したUWFから枝分かれした先にあるUWFインターナショナルの選手であった。いわゆるUインター、簡単に乱暴な説明だと高田延彦を支持する高田派が集まって興行をしていた。そうしたプロレス団体には道場があり、そこへ入ってきた若者が桜庭である。

年月が経ち、日本発の柔術がブラジルに渡り浸透後、独自の進化を遂げた先にあるグレイシー柔術、それを広めるために開催されたUFCが、やがて日本に上陸する。

この二つの流れを、桜庭はしあわせチョップのように合わせてしまったのである。

UFCジャパンに出場して優勝し、PRIDEでグレイシー一族を連続で撃破し、その人気は、すごかった。マンガ評論家の夏目房之介さんは『BECK』のサクは桜庭からとられていると指摘している。太極拳を健康のためにする人は、もちろん格闘技を人並み以上に知っている。

バンド名も海外向けには、モンゴリアンチョップとされていた。ストーリー的にも、いじめられているコユキがサクの登場で救われる。

プロレスの救世主的活躍の桜庭になぞらえている。

UFCが出た頃はまだ、日本の格闘技界はMMAでスター選手を作れていなかった。佐山のやっている事は十年も早かったが、いかんせん、選手がまだ育っていなかった。90年代も後半さしかかった時に、朝日昇がグレイシー柔術に勝つには後三年かかると、評している。

直接、グレイシーと戦い始めると、Uインター組がヒクソンに負け続けて、

「プロレスラーは勝ち負けが決まった試合にしか、勝てないぞ」

という、揶揄をされたわけではないと思うが、プロレスファンは肩身のせまい思いをしていた。

しかし、プロレス最強をまだ信じていた。そういう根強いファンに支えられていた。

プロレスファンの溜飲を下げるような、活躍であった。

彼もファンのために、プロレスラーであるとコメントする。

厳密にはレスラーではある事はあるが、プロフェッショナルレスリングの略ではないプロレスのレスラーであるかは、一応デビューしているのです、否定することはできない。

U2 UからsakUへ

須藤がバックハンドブローで栄光を掴んだように、ローリングソバットでセオリーを蹴っ飛ばせ！

アマゾンキンドルで配信

shiKOUUCOKU008.jpg

データベースが足りない！

プロレスの記事を書こうにも、プロレスに関する資料が足りない。

プロレスマニアのように、自室に堆く「週刊プロレス」「週刊ゴング」があるわけではない。「紙のプロレス」や「KAMINOGE」、「週刊ファイト」も無い。プロレスのデータベースが足りないである。

新古書店を回って集めた「格闘技通信」も無い。

私はホームグラウンドがゲームの人間だから、「週プロ」「ゴング」の代わりに「ゲーム批評」「CONTINUE」である。それもバックナンバーを全て揃えられず、歯抜けばかりだ。「CONTINUE」がゲーム雑誌なのに、宇野薫はインタビューしていたり、いろいろプロレスゲーム特集をしたり、雑誌は編集長のモノを体現した

テレビゲームの事を知らない人は、「ファミ通じゃないの？」だけど、あれは大本営発表だから、読んでも意味が無い。

その「ファミ通」に出禁になっているけど、ぜんぜん平気。

情報が必要ない。

それだけでなく、映像資料も新日本プロレスの会員になっていない。

「アサヒ芸能」や「週刊大衆」といったオヤジ雑誌の回顧記事で「この時期にこの試合があったのか」と思い出す。

ハリウッド・ザ・コシショウの佐山サトルの物真似であるが、何時の時点で本人である佐山がやっていたか、正確には思い出せない。

「ボクは逃げも隠れもしません！」と漠然とそういうことをやっていたと、なんとなく覚えがあるような、ないようなそんな知識しかない。

記憶の定着もあいまいなのだ。

最近でいえば、武者修行から帰ってきた長髪の岡田が、金髪のおカダ・カズチカになるのは、プロレスファンにはおなじみの事件であるが、「アメトーク！」で大吉先生とケンドーコバヤシが「あんなに高点の高いドロップキックできる」とヤングライオンが現れたことに、色めき立っているのが私の記憶になる。

飯伏と男色ディーノが活躍していた頃のDDTはどのくらいの人気だったのか、もうダッチワイフとプロレスをしたくないのか。

「男色ディーノのゲームレビュー」が500回を越えて、十年前に二人でマットの上でメイクラブなのか、高木三四郎の『俺たち文科系プロレスDDT』がもう出ているが、これがデータベースが足りない理由で、手に入れて読んでいる。

存在は知っている。

川田が三沢越えを果たした試合、その時は何時だったのか、事前に勝利を告げられた川田はやる前から泣いていたんじゃないか。

プロレスラーや格闘家たちと対談する『最強レスラー数珠つなぎ』を読むと、赤瀬川原平さんの新明解国語辞典を読んだ時の「私小説だと思った」ように、作者の私小説的出来事が、挿入される。

格闘家（元ムエタイチャンピオン）やプロレスラーのインタビュー記事のあいまに、作者でインタビュアーのムギ子さんの人生が語られる。

ムギ子さんはライターをしながらバイトをしている。

それでプロレスを観戦し、例の「最強より最高」という、『クローズ』の「最強程度が最高に勝てるわけねえだろ」みたいな事を主張したら、プロレスラーに怒られた。

本人は、プロレスの記事なんか、書きたくない。いわゆる根岸病（説明がいる人はWikipediaで『デトロイド・メタル・シティ』の項を読み、自分の無知を猛省すること）に罹っている。

そして、単純にムギ子さんは病となる。

ガンである。

プロレスラーは病身になることが多いように、ライターまで病気になる。

とはいえ何か書くと、反応があるのは、業界が活況を呈している証拠。

問題は、「最強より最高」だと。それに噛み付いたのが、左藤光留である。いろいろあり、それで手打ちなのか、左藤との対談が組まれる。

今だからこそ最強にこだわる左藤の理由も理解はできるが、問題は左藤が変態なのである。変態がQUINTETに出ているとか、その点は何か言うと怒られそうなので、話題を変えるのが、賢明と思われる。

団体も全日本とノア、DDT、ドラゴンゲートとZERO1、大日本プロレスと、全部おさえるのは、無理。それはプロレスが生活になる。

さらに海外では老舗のWWEやオール・エリート・レスリングという新興も現れる。

中邑真輔は、“異種格闘技戦”に出た。

プロレスラーに真の強さを求めてそれを応えたのである。サクが 그레이シー 狩りを
して、

その先鞭は獣神サンダーライガーが鈴木みのもと対戦し、プロレスラーがMMA戦を
する。

この間の「週プロ」の記事を丸写しだが、佐々木健介との対戦予定が負傷によって棄

権で、ライガーにお鉢が回り、それで実現してしまった。

そこで猪木である。

DSEが猪木をリングに上げている

それが悪い方に傾いた。猪木が新日の選手たちを

*執筆中 画像を挿入すると、ダウンロード用データ（正確にはPDFとePubファイルの事）が保存されないトラブルが起きるので、画像を挿入できない。

ダウンロード用データファイルが保存されないと、ブラウザでの閲覧でも更新した情報が読めないなので、執筆中である。

eスポーツは成功するか？

韓国の方が先にプロゲーマーが認知され、そうした他にもある海外格差を埋めたい
ロボコンのようなeスポーツは、アマチュア選手の外なのか、内側なのか

eスポーツに悪感情を持っているか、
広まっても別にいい寛容派と、

その融合した答えがゲームの『UFC』シリーズでeスポーツ大会を開催できるか、に
かかっているだろう。

それに普通の新聞にUFCの勝敗は出ないから、スポーツにしないとイケない。

スポーツ興行としての方針とゲーミングPCやハード機、そしてソフトが売れてほしい。その思惑もわかる。新聞雑誌テレビ等の報道媒体にニュースソースになることで地位を得られる。

テレビでは広告がとれるので、番組制作が成立する。

そうした思惑がeスポーツにはある。プロゲーマーは、テレビタレントのような仕事
ができればいいのだろうか。

「ファミ通」を出禁になった私が褒めるのは、なんだか見間違いかもしれないが、「有
吉いい eeeee!」は理想の番組、なんらかの対戦ゲームをして、
ほぼレギュラーの人がいたら、それはプロゲーマーであって、

そして、IR法成立後で、カジノとイベント、両方で集客できるという、俗に言う「一粒で二度おいしい」のだが、ジャパンマフィアが仕切っていると、ブラックマーケットにマネーが流れる。

格闘ゲーム大会を仕切っていなければいいだろう。

お上に逆らう

初期ヴァーリトゥード系統のように、認知と安定を得るために積み重ねをしているスター選手も現れるまで、運営が資金を保てるか、収支のバランスそれなら今のままでいい。

現在の地位をeスポーツは、それぞれのジャンル、ソフトウェアの大会でできるのが、いいのか、そこは正直、わからない。

一時的に人気過熱があっても、いろいろあったPRIDEのような事もあるだろうし、人気が足踏みして地方地域でのローカライズに甘んじることもある。

猪木のように周囲を巻き込むような、仕掛けをするのも、反動や副作用も全て呑みこめるなら、定着させるためにもしかしたら、必要になるかもしれない。

UFCの日本開催を数年に一度は開催できるぐらいに恒常化したかったけれど、やはりジャパンマフィアがいて、PRIDEの問題で明るみに出たように、なかなか

ワン・チャンピオンシップは、かなり食い込んでいるかもしれない。悪名高い秋山が出ています。それもKO勝ちしている。

やはり、90年代のバーチャブームを見たから、あまり

どの競走ジャンルでもそうだが、eスポーツもやはりトッププレイヤーのみが栄光を総取りする。

なんで鉄人たちは消えていったのか

もしかしたら、電通が終わったら、共倒れするかもしれない。

任天堂が、『F-ZERO』をフォーミュラ・ワンの上で開催できるか、それはスポンサードするのか、今までの任天堂はずっとひかえてきた。普通にマリオゴルフカップという、プロゴルフツアーの大会をすればいいが、やるつもりはないようだ。

五輪のバッハ会長にせまったeスポーツの人がいるが、
「バカ言え。母国が攻められたら、軍人として戦う。そのためにフェンシングを習っていたんだ」
という返事が、本音ではないか。

近代スポーツの本来の目的は、歩兵の雛形を作るためだ。
上官の命令をよく聞く、兵士がスポーツマンである。
近代戦は

富野監督がeスポーツに不審がるのは、
昔から、コクピット内にシミュレートで
モビルスーツのパイロットを養成するような表現をしている。
eスポーツは単純に無人攻撃機のオペレーターを増やす、現代戦の兵士
だから富野監督は、危惧している
これは、読者がしばっているから書けるけど。
業界が、親方日の丸になったからeスポーツを振興させようと
戦争が嫌いで反戦平和、スポーツにするなら戦争や自国の軍事力に寄与しないといけない。

生物学的には、運動機能を高める
動物でもあるあそびを、ゲームでは岩谷徹の言葉通りならシリアスゲームは社会のためのゲーム、つまり社会性を身に付ける
ゲームでは

六活動の
あそびは生産じゃない。あそび

ゲームはやりようによっては生産になってしまう。
だから、あそびとゲームを区別するのは、非生産的行為が、生産となってしまうと、
ゲームになってしまうという、カイヨワ・ホイジンガの
期間が存在するが彼らのやっていることは、すでにあそびではない。

『マネーボール』でいえば、ピリミみたいな

プロゲーマーのときどの
「理論は情熱に勝てない」は、科学者の歴史を見ると、そんなことはない。
読者、ひいては消費者のためであろう。
理論先行の人もいる。テスラだろう。
対して、百回以上電球のフィラメントに適した素材（商品として耐えられる）を通電
させて試験したエジソンは、情熱の持続力の高いのか、それとも努力家であるか、どう
考えても努力家であろう。

私は小賢しい、折衷派というか、
二つの考えを持った二人が出てくる、というのが良いと、思ってしまう。
ウメハラとときど、二人がいるって、というのが王さん長嶋さんではないが、

eスポーツの今は、実はいい状態であったと、未来から振り返ると、
この世代が、現役から退いていき、後に続く選手が出てくるが
MMAの歴史

プロゲーマーはゲーム出版の世界

ゲーマーというゲームソフトをプレイして
アルバイト・非正規が多く
ゲーマーとライターが分かれていた
かつてバックアップ機能が貧弱
複数のソフトで
指定されたところまで進んだセーブデータを
再プレイしやすく

「これはもはや-G-ではない」をプロモーションし
たい

ガンダム本のこと

非公式なガンダム本の「もはやこれは-G-ではない」を計画し、神田松之丞が伯山になるように、勝亭一門の名跡襲名記念作品の『正暦元年のリング・オブ・ガンダム』を売るための本、というコンセプトである。勝亭武羅之兵衛から、ちょっとアセンションする。著作権はサンライズにある。

だから、BOOTHにしか、売れない。(売れない理由はそれだけじゃないと思うけど) なかなか原稿の手入れは進んでいないが、先行して「Gの煌めき」はすでに出ている。一年ぐらい前から、「ククルス・ドアン」の島」という同じ題名の回があるのに、やっと本物の「ククルス・ドアン」の島」を今やっと観返した。ポイント305、古戦場跡での戦いである。

他のアニメレビューとガンダムのヤツはページビューが倍違う。

人気作品に依存して、作らないといけない。まあ、ちょっと仕方なかった。

「ルナイズマイン」は表現の規制がととてもゆるく、お金もかからないところで、リリースしたい。安定した運営で、これ以上はPubooの悪口になるような事を書けないので、ひかえる。

本来は、GRCに収録の「いつかのオーリーを見せておくれよ」を、「これはもはや-G-ではない」に入れようと、思っているが、シークレットに入っている、はずだ。

「シークレットにならねえじゃねえかよ」と、ビートたけしのようなつつこみをしながら、首をカクカク。

掲載予定、「検索ワードの記事「Gレコ」」は、ずっと更新情報誌に無料掲載していたので、途中までしかなくても、いいだろう。Pixivで、読めるし。(たぶん、完成したら、途中までしか読めなくなる)

「プルのおもひで」は、一時無料閲覧できたから、「これはもはや-G-ではない」で「校正入っているじゃないか!」と、「Gの煌めき」と読み比べてみるとわかるという、そんな二重買いでも電子書籍を買ってくれる、お金持ちで殊勝な方はいないから、大丈夫。

日本の消費者は、たった5円のビニール袋が買えない。

スーパーの籠を盗む。レジ袋を買えないから、カゴパクするって、子供の食べ物盗む老人みたいな、どこかで見た風景。吉田戦車さんの「かなしみのおかず盗み」の元ネタ。何時の時代でもどこにでもいる人。

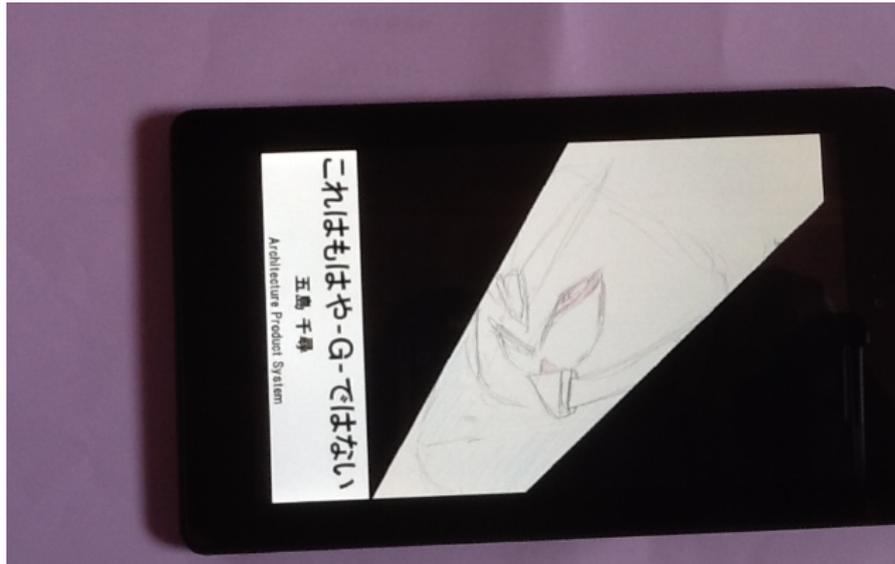
「セリフについて(仮)」については、もうちょっと時間があつたらなあ。

「時間があつたら、時間があつたら」

まず、名前をちゃんとつけないと。「これはもはや-G-ではない」に載せられないだろう。

載せるまで、作りきらないのでは？

* 知ってる人は少なくなる高千穂遥の「ガンダムはSFではない」をかけている。〇〇オがすぎる。「娑婆はガマンの連続です。だけど宇宙（そら）は広いち言いますから」



shinSENDEN043.jpg

セリフについて（仮）

70年代末、そして80年代初頭、日本の全ての芝居でセリフをリードしていたのは『機動戦士ガンダム』ではないか、その検証か、ただの世迷言か、判断をつけるのは読者であって、私は材料を提供するにすぎない。

日本のシェイクスピア演劇の雄である二人の事を書く企画「蜷川幸雄と富野喜幸」（幸の字が同じ赤い文字でその赤はもちろんシェイクスピアの血である）にも載せるつもの、あまり門外漢にはさしてそそられない小賢しい演劇話である。

まず、水先案内というか、道標というか、とりあえず平田オリザの『演劇のことば』を頼りにする。新劇の事について、語られるのだが少し長いモノとなる。重要な事なので、引く。

引用文指定

平田オリザ『演劇のことば』岩波文庫

後略になってしまうが、映像に新劇俳優が進出して、芝居がかったことまで語られる。この引用文をメインテキストに、話を進める。

台詞と科白は、同じ読みだが、岸田國士の考えが表われているのが、セリフへのあて字であると、『演劇のことば』には書かれている。

日本の近現代劇については、もうひとつ渡辺保先生の『明治演劇史』を読み、後ひとつふたつぐらい、演劇史を語られた書籍に眼を通せば、だいたい把握できるだろう。（早稲田の演劇研究書を読むのが早道）

さて、新劇俳優が演じると、どうも、上演時間が減る。

仮に平均半秒、セリフ一つで減れば、どうなるか。成井豊に拠れば、セリフは一戯曲に約1000あるという。500秒、8分と20秒が減らせる。氷川竜介さんのタイムキーピングから考えても、正しいのだ。

フィルムが高額、であった事を知らない世代は、何を言っているのか、よくわからない。8ミリ、16ミリ、35ミリで倍々でコストが高くなる。

それは一本の上演時間が短ければ短いほど、一日で何回も上演できる。だから、90分一日六回、120分一日四回で収益が違う。さらに90分と120分を続けざま交互に連映した間を埋める、プログラムブックチャーも作られていた。

また、そもそも翻訳は構文が長くなる問題がある。

アイラブユーは、「私は君を愛している」は訳文として間違いではないが、悪文と言われ、「愛している」でいい。(漱石の訳文は却下)

翻訳劇のセリフが長くなると、本来の上演時間より長くなる。先ほどの反対にセリフ一つにつき半秒増えたら、やはり1000で8分と20秒も増えるのだから、新劇の発音は「発明」されたものではないか？

だから新劇俳優は、吹き替えで重宝される。

現代でも応用可能で、『24』の吹き替えで「ドロップガン」の訳「銃を降ろせ」を小山力也はアメリカ英語なので「ドロップ」の「ド」に大きなアクセントがあるため、銃の「じゅ」に大きくアクセントを加えると、語っている。

新劇流のアクセントの使い方がうまくはまっている。

さて、こうした新劇調からの脱却は、高畑勲がやりたかったことではないのか？ だからこそ、利賀村以後の完成された鈴木忠志の演出法に近い方法をとるのか、あるいは原典が同じアントナン・アルトーであるのだろうか。残酷な物語である『火垂るの墓』を残酷演劇で演出する「語演出一致」なのでは？ 『演劇とその分身』を原著で読んでいたのではないか？

富野監督は高畑を師と仰ぎ、死後、宮崎鈴木のジブリ両巨頭に「自分は高畑の弟子である」ことの許しさえ得ている。

『宇宙戦艦ヤマト』への対抗意識のために、裏番のハイジからの系統という見立てもできる。要はスーパーロボットからリアルロボットは劇言葉が違う。

千葉繁が古川登志夫を「背中に新劇という彫り物を背負ってやって来ているプロフェッショナル」とたとえたが、彼が演じたカイ・シデンのセリフ「オレだって、オレだって」は、平田の指摘通りのセリフである。言語習慣通り、まったく正しい発音である。

元々ガンキャノンが主役メカだったという裏話を知っていると、年少のアムロに遅れをとっているカイ・シデンは自分自身を強調している。それを繰り返す。機体と人物が一致している。

よくトミノ語の解説として、独特の倒置法である事が指摘されるが、膠着語問題が太平洋戦争の敗因説を聞いたことがあるだろうか？ 動詞・述語が後にくるのが、日本語朝鮮語の特徴である膠着語系の文法であるのは、説明の必要の無い事実である。

英文は膠着語大系からすれば、述語が頭に来て、これは漢文も同じであり、そのため強調したいものを先にするのは、倒置されていると、言われる。

印欧語系の方は、名詞などの主語が前に来た場合、倒置となる逆転が起こる。

「馬が走る」の膠着語系とは違い、「走る馬」の被膠着語系の動詞・述語、つまり「撃て」とすぐ言う方が戦場では即応性のために、好まれる。

ランバ・ラルの「うろたえるな！」とは、

劇言葉だどつい「雷にうろたえるな」と発言してしまうのを書いてしまう。雷という主語を先ず言わないで、うろたえている事を一喝する。動揺を抑えさせる。だがハモンはそれでも恐れるので、「間近で見たら、恐ろしい」とフォローする。

* 「これはもはや-G-ではない」に収録予定

シークレット か 消費税分のサービスの章
その際には、引用文が掲載される

随筆 検索ワードの記事「Gレコ」

検索ワードに『Gのレコンギスタ』とある以上、何かひとつ無いといけないと考えて、この記事を書いている。まだ、2014年の12月で、話は中盤に入った頃である。新年が明けて番組を見た後、本項がどれほど正確であるのか、それとも目測を見誤っているのか、楽しみといえば楽しみであるが、恐ろしくもある。

とりあえず、1クール13話までの話にしておこう。そうでないとエッセイが完結しない。

少し解説があるだろうことを、まず書く。

Gセルフを鹵獲したのに、なぜ逃がしたのかは、キャピタル・アーミーの勢力拡大のため。

クンパ・ルシータ大佐（アルゼンチンタンゴの曲名から偽名と示される？）の独り言が、なにかストーリー上の示唆があると思われるが、アイーダさんにわざとベルリらを連れて逃がして、アーミーの既成事実化を謀るためにやっている。海賊の対策や防備は、キャピタル・ガードが行う。しかし、海賊の討伐はアーミーが行い、運行長官の息子ベルリ奪還を大義名分で戦力増強投下ができる。

シャア・アズナブルの「戦いは二手三手先に打つもの」だから、その後の新モビルスーツ開発投入が迅速なもの、ある程度見越していたのだろう。

アイーダさんだけを逃がしたら、ガードの迎撃だけですんでいる。そのためアーミー不要説が出てくる。ベルリも連れさせて逃すのが、今後の展開として重要だったのだ。ここで悪いあだ名（ポンコツ姫）がついているアイーダさんが有能だと、そもそも最初に鹵獲される物語上の都合が合わなくなる。モビルスーツのパイロットとして、無能の役回りをしないと、いけない。

雑誌「CONTINUE」に多根清史が連載していた「未来に残すゲームなコトバ」から孫引きすると、ニュータイプ思想などは予定より二ヶ月程早く終了が宣言されて数話短縮になり、オチをつけるための急ごしらえの設定だったという考察に、放送20年後ぐらいに「そうだよ」とゲロってくれたから、20年後にわかるんじゃないか。（出典元は『イデオンという伝説』）

Gセルフを使うときも、後で触れる対談で、攻撃する時にだけビームサーベルの刀身は出さないものだけど、威嚇なのか必殺兵器を出してしまう（手の内を明かす）あたり、少し足りない。

このように、お芝居の役回りをするキャラクターはどうしても出てくる。キャラクターのことを続けると、気になるのはライヤが主人公のベルリに言わず、クリムに「キレイな瞳」と言っている。『ビルドファイターズトライ』だとちゃんと主人公に言っているけど？ 瞳じゃなくてガンプラにだけどね。

これはラァがアムロに「キレイな瞳」と言っていたことの、自己模倣だと思われる。
「瞳が赤い」というのは、アイリスサインやレイハントン・コードのことだろう。

Gの煌き に 続き あり

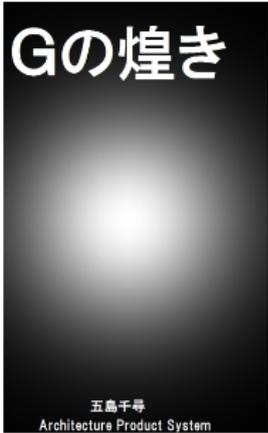
広告

Gの煌めき

「これはもはや-G-ではない」の 前哨戦
非公式で画像を使わせてもらえない謎本と同じく
ガンダムの謎本である

注・ちゃんと批評なら画像を引用しても
著作権法的に大丈夫
ちゃんとした批評なら

アマゾンさんのキンドルで配信中



shiKOUUCOKU007.jpg

衝撃のコラボレーション モビルフォース ガンガル×尾池屋



ガンガルのGIは ガンOムのGではない

いしかわじゅんの広告 42.jpg

大人になったらジブリから卒業しなさい

画像

**高畑勲の命日には
「大人になったらジブリを
卒業しなさい」を読もう。**

takahata.jpg

アシタカパッション

赤坂憲雄さんの『ナウシカ考』は非常に示唆に富む内容で、「面白い」と簡単に評してはいけない。その深さに感服する。底の浅いナウシカ評のこちらとしては、副産物に創作の糧を得た程度の収穫である。（それさえプロの現場では通用しない）

さて、サンはエボシ御前の実娘とする説、これはインターネットで出てきて、岡田斗司夫が語ったことで広まったと思われる。（モロのセリフ通りなら否定される）

私はこれに賛同していないが、キリスト教徒であれば、賛同できる事、あるいは皆気づいていること、少なくともテレビ番組「ぶらぶら美術・博物館」の視聴者であれば、賛同してもらえるのではないか、と思えることを示したい。

ならば復活を手がかりにして、『もののけ姫』はアシタカの復活劇・受難劇という持論、近松心中は隠れキリシタンの殉教から来ているとドナルド・キーンは語っていたことから、得た

受難劇の解体と構築、スクラップ&ビルドで出来ているのは、間違いない。

アシタカにはどうも、聖衣剥奪がある。侍の矢で頭巾がとれる、聖衣剥奪の一種として見れる。黙示録ごとにずいぶん内容が異なる湖を渡る、はじめに船で渡ってくる、次にヤックルを使ってタタラ場へ渡るがその時、侍集の放たれる矢を剣で防ぐのも、投石の換喩として、見立てられる。

タタラ場エルサレムというのは、別に記すが、こうして侍衆にタタラ場が攻められるのは、ローマ帝国軍に擬えられる。

死んでいるはずの甲六を助けた恩人であり、奇跡で復活・死人を生き返らせたと同等の扱いはないか。また戦士（猪）たちが黄泉から帰ってきたが死せる者が生き返るということだろう。復活譚・受難劇の如く、石火矢で撃たれて瀕死のアシタカはシシ神によって傷が治る。一度死んだ者が蘇ったと、という事になるだろうか。

ジコ坊はユダのような、あるいは四十日間の修行期間で救世主を誘惑する悪魔（他の神が零落した存在？）として見るのが、正しい気がする。

ヤハウエも荒ぶる神であり、鉄拳制裁で何千人も死ぬ。

タタリ神と化したナゴの守のタタリを受けるのは、啓示であろうし、鉄拳の神通力を表現したのが、人が数人でないと開けられない大門を開ける事に表現される鉄拳ではなく、鉄腕で開門する。

治らぬ盲人の象徴として乙事主がいる。そして、その眼を代わりにするサンがいる。サンはマグダラのマリアの淫らな行為の代わりに文明に逆らう存在でありながら聖母マリアとしても、ピエタの代わりに、アシタカに口移して食物を分ける

十字架を背負う代わりにサンを背負うとしたら、どこかで、十字降架があるはず。やはりシシ神の池まで、アシタカを運ぶのだが、十字降下はサンがヤックルからアシタカを降ろすところに、見受けられる。

ここに宮崎の「最後の資本家がもし美少女であったなら、平気で連帯してきた労働者同盟を裏切りそう」なのが見える。

モロが「お前にサンの不幸が癒せるか」は、「お前に福者としての力があるか」と問われているとも、解釈できる。バチカン市国は、世界各国から報告される「奇跡」を調べて死後にキリスト者を福者認定する。それは病が癒えたと、その肩代わりで信仰者が亡くなった者に認める。（現代医学では否定される）

公開当時の、ストレスを癒すなどの「癒し」（卑しと振った方がいい？）と誤読誤解されたのでは？ 医療人類学者の上田紀行の「いやし」ではなかったのではないかと

土葬されて三日後生き返るごとく、同じく岩屋で三日間を過ごしたのか、甲六らと再会後に「生きてたんですか？」と言われたアシタカ。

サンがアシタカを玉で刺す、それがロンギヌスの槍の穂先と考えるか、手の平の穿たれた杭の穴と見るかで、そもそも妹分カヤにもらった刃に打製加工された玉である。キリストの傷口に指を入れないと、キリストが生き返ったと信じない弟子の事を考えると、淵でサンとの諍いをシーケンスとして編集して組み立てている。

シシ神が消滅時に吹く突風後に、聖痕として手の平にスティグマが残る。（注・磔刑される時に手の平に杭を打たれたとされるがその後の検証から手首に杭を打たないとずり落ちるとされ、『パッション』での縄で腕を十字架に縛るのは後付ではないか）

多神の世界から唯一神、唯一神から唯物と、神格の階級闘争的な、経緯を経ているようでもある。

山犬やシシ神の死は、最終的にマルクス主義に帰結する。神のみわざを巧みに編集し、アシタカとシシ神に分けており、それにサン盲いを治す役を分け、完全に病人を癒し治すことはできないが、エボシ御前の病人に

この事でサンと親子関係を誤読するのも、わからなくもない。

以上から『もののけ姫』のキリスト教圏での題名は、「アシタカパッション」が正しいと思われる。

パッションは受難の意である。ところが熱情と同じスペルであり、英語不得意の日本人には意味を取り違える事もある。（受難を第二義として書かない外来語辞書もあるので本人だけの所為とは言い難い）

これは『ブラックパンサー』での、マーベル映画群の基本類型、ブラッククリストとしてのティ・チャラ、宗教史を知っていればキルモンガーが何者で誰であるか、わかるだろう。（自作の話題は避けるべきだが・・・私も同じことをしている。）

つまりナザレのイエスが勝るといふ、現代アメリカを中心とした西側諸国のご都合主義が見えなくもない。『犬ヶ島』で留学生が白人であるため、ホワイトクリストとしてトレーシー・ウォーカーが見えるという批判と同様だろう。

岡田はなぜ、『スターウォーズ』の古代ローマの歴史の変遷、共和制から帝政を指摘しながら、アシタカをキリストになぞられるのは、避けているようである。

『もののけ姫』がアシタカの受難劇であるのは不文律に近い。まともな美学者なら知っているが、おそらく公表の機会がない。そして多くの人の眼には止まらないのだろう。

宮崎の原質にある受難劇の解釈、極東の世界、趣向としての網野史学、もともとのタイトルが草冠に耳二つの造字で歌の「アシタカせっか」という仮題は付けられていた。（タイトルを変えたのは鈴木敏夫とされる）

オリジナルサウンドトラックの一曲目は「アシタカせっ記」となごりが残っている。

マンガナウシカ執筆時に「宗教的になってやばい」と宮崎は発言し、その宗教はキリスト教であり、それがナウシカから『もののけ姫』に移し植わえるられている。マンガナウシカは映画版の結末どおりナウシカパッションをやらなかった。同音意義の聖衣・青衣が聖（青）なる衣になる。異名同音という音楽用語があるように、同音同義化するのである。

もっと言えば、同音異義異綴語（ホモフォニー）が同音同義異綴語化する。

アジア圏では、天啓・啓示（レベレーション）は呪いである。

呪われるから神通力がある。

太平天国での洪秀全が、啓示を受けたとされるが、アジアのキリスト教国は、教会の後ろ盾がなければ、短命に終わる。（あるいは、キリのいい時期に終わらされる）

東洋と西洋で、龍の扱いがまったく違う。その事に似ている。

プリンセス・モノノケではダメだったと。海の向こうの興行プロデューサーが、ウソになるかもしれないが、アジアで神の啓示を受けた者は、このような受難に遭うという、思考実験が「このアニメ映画です」とPRすればよかったのでは？（元ソニーの人物を「足りない奴」と個人攻撃すればいいというわけではけしてない）

ただ、おおっぴらにできない問題もある。

マルキ・ド・サドの『悪徳の栄え』では法王さまに聖体を肛門に入れられるジュリエットという、それは当時発禁になるのも、いたし方なしな内容だが、『もののけ姫』も、アメリカ公開でバイブルベルトの人々には、受け入れられないのでは？と思われる。聖典に書かれた事以外、「外典」にさえ、めくじらを立てるのではないか。

信仰する神がタタリ神の一種にすぎない零落した存在だと、目の当たりにしたら、受け入れがたい。

極東の受難劇としては、受け入れてくれないだろう。

『ポセイドン・アドベンチャー』でラストに牧師が溺死するのだが、聖定（福者認定）はされないが牧師はキリスト者で死んでいく。

助けられた人々は彼を神の化身だったのでは、と後に思うはずと信者が感じる作りになっている。ある種のクライストムービーとして、信者は納得し映画館を出る。フィルム中に刻まれた十字架の影を見て、興奮する者もいるかもしれない。

ちょうど、この逆をやってしまっていないか。

牧師が溺死して面白がるのは、蜘蛛を昆虫と分類する豚児と同様、自分の無知をひけらかしてしまう。

中略

赤坂憲雄さんの『ナウシカ考』はこうして、私に動機（モチーフ）を与えてくれた。小山昌宏さんの『宮崎駿マンガ論』（ナウシカ精読）も合わせて、読まれるのが、正しいナウシカ読者である。

私は斎藤美奈子と同じく、邪悪な読者で、あるが。

【 宮崎駿が亡くなった時に 緊急出版して カネを稼ぐための 心の中の悪いチヒロが 企画した記事

評論ナウシカと日記ナウシカ論文と評論もののけ姫と「宮崎は父と和解できるか」と後はこのアシタカパッションで「大人になってもジブリを卒業」できない人たちから、小銭を掠め取る「チヒロは悪い子です」（LINE スタンプ作ろうか）

タイトルは「キミは最後の資本家が美少女なら同志たちを裏切るのかい？」とキミはどう生きるべきかの結論はこの言葉に集約される】

作成資料 メモ

『パッション』 収録時間 127分 118分頃からスタッフキャストロール

まず30分（15分も）刻みの出来事 一分前後

015分頃 聖母マリアの元にイエスが捕縛された報が届く

030 分頃 キリスト引き回される（「三回知らぬ」と言う回想付き）

045 分頃 ヘロデ王の前に出され、狂人だから無罪 狂人無罪

060 分頃 ムチで打たれるイエス （65 分頃 「うじ虫の王」バラの冠）

090 分頃 ゴルゴダの丘で十字架を降ろす

115 分頃 十字降下

理論上で 16 分刻み

016 分頃 引き回される途中で殴られて橋から落ちる

032 分頃 ユダが銀貨を返そうとする

048 分頃 暴動が起きそうでローマ提督の前に バラバを解放に続く

064 分頃 ムチ打ちの刑が終わる （血の聖衣 バラの冠）
（転回点）

080 分頃 十字架をかつぎながらムチ打たれる 十字架を落とす

096 分頃 磔にされる作業 腕を縄で縛り手の平に杭を打たれる
（引き返しのつかない行為）

112 分頃 イエス死す 地震が起こる

スタッフ・キャストロール前 聖骸布がしばみ 聖痕が刻まれたイエス

『もののけ姫』と対応する点を調べる

100 分頃 十字架に縛られる

105 分頃 杭を手の平に打たれる

広告

大人になったら
ジブリを卒業しろ

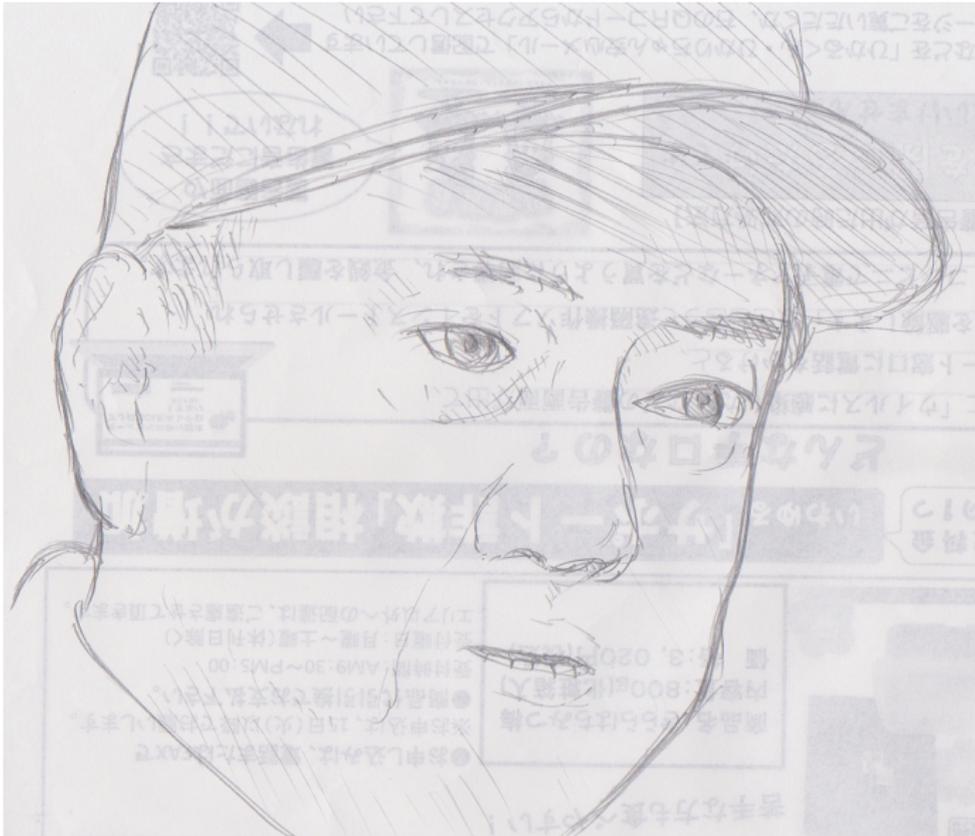


「おんがおんが家題Hメお」

「大人になったらジブリを卒業なさい」
みんな 読んで下さい キンドルの宣伝

shiKOUUCOKU018.jpg

広告



**「本当におまいさんたちは
大人になってもジブリアニメを
観ているようなだらしのない
社会人未満なんだな」**

と、原辰則も読売テレビを裏切って言ってくれる侍発言があると妄想でうれしい。清武さんは侍です。

だらしのない社会人未満は辰則の言うとおり買わなくていけない「大人になったらジブリを卒業しなさい」はアマゾンのKindleで配信している

shiKOUUCOKU019.jpg

「大人になったらジブリを卒業しなさい」

アマゾン キンドル で好評？ 発売中

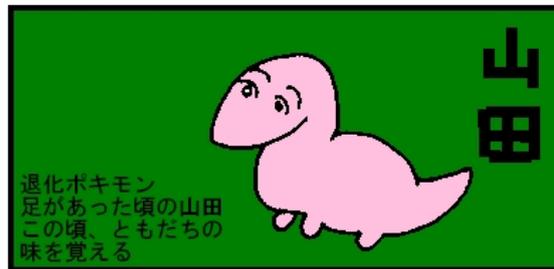


別に笑わせたくて
やっているのではなく
真面目に自分の作った
電子書籍を広めるための
広告であって

大人になってパソコンで電子書籍を販売しようという意味じゃない 養目 謙みすんな

shinSENDEN007.jpg

みんなの言いたいことは
「大人になったらジブリを卒業しなさい」
を読もう ということ



広告



shiKOUUCOKU038.jpg

男の健食の勝手に広告ではありません
みひろ的な人も
「大人になったらジブリを卒業して、私とイイコトしよう」



アマゾン キンドルにて
「大人になったらジブリを卒業しなさい」
を 販売中 高畑勲の追悼の書(ギャグじゃないです 宣伝です)

shinSENDEN036.JPG

「あれ、いつといつ時ジブリが？」



「大人になったらジブリを卒業しなさい」アマゾン キンドルで発売中

マカ入っている健康食品の広告ではありません

shinSENDEN040.JPG

Book review JUNGLE

書評誌はキホン売れない

困ったことに、何かのまとめ本は、人気が無い。

読みたい記事だけを読んで、それで既読にならないので反映されないの、なかなかKENP（Kindle Edition Normalized Pages）の数にならない。売り上げになっていない、と、思われる。

同じ構文だけど違う意味になる「既読スルー」されてしまうのだ。（後日 Kindle のクリエイターの欄を調べるとカウントのされかたがどうも違う）

極端な話では、全部読まなくてもいいから、最後まで読んで既読カウントされるように、仕掛け……みたいなことをしなくてはいけないのか？

「こういうこと書くのは、よくないのでは？」

だから、最後のところだけ、村上春樹とか、大人気のやつを置いてみるとか、一人称単数より、“ぼくたちは”と一人称複数の『ヴァージン・スーサイズ』みたいな、原題は『ヘビトンボの季節にウンタラカンタラと違うけど、一人称複数はけっこう昔から、ゴリキーの「二十六人の男と一人の少女」とか、けっこうある。（けっこうをワンセンテで二回使う、けっこうなことです）

何かやらないといけない

それにしても、チャンネルが違うようだ。平面アニメ（2Dアニメ）を観る人と、実写映画を観る人は違う。

つまり Pixiv を見る人は、Pixiv しか見ない。アマゾンさんのキンドルくん閲覧者さまも、hont とか、読まないと思われる。

Puboo の人は、残念だけど、残念なことだから、書かないでおこう。

ショーペンハウエル先生のアフォリズムが伝わっているのか。

さらに、書評はブックログで読めばいい時代だと、もともと書評本を読む人がいない。

購読が無い。

買って読むのはバカバカしいのかもしれない。

豊崎さんの書評集とか、読む人はいないということか。

私はたまに読むけど。

賢さというアクセサリーでケチを隠しているようだ。

スマートカスタマーさま、調べてみると、ただの吝嗇であったという、ヤな答えが出そう。

もうひとつは欲望という消費意欲がそもそも無いのかもしれない。

「Book review JUNGLE」と題名は、グリーンというより、密集しているから暗い、黒い、ジャングルのアマゾンの事である。換喩的に密林だと。ジャングルというのは、わかってくれていない、

太宰の問題、共に心中した富栄さんの日記が、どうやら平成になってから公開され、その辺りの角度から津島さんを見る、太宰評もある。

太宰を見るというより、津島を見るという、「ゴースト オブ 津島」である。

偶然、同じ音の同音意義みたいになった。斜陽館の中に入ったら、無限城みたいな、だけ映画ファンだと「これ『インセプション』だ」と、ゲームファンは「いんや、ゼルダの『時のオカリナ』の森の神殿、臭いのセンスとかは『トワプリ』だし」と、ジャンルで答えが違う。

大岡裁きをしなくては、いけなくなる。

ほっとくと、作品をバラしてしまう。

杉浦茂のマンガ『少年西遊記』の“つまり ふたつになりました”のように、真っ二つになる。

左右から腕を引っ張っているだけじゃなく、違う勢力も複数現れ、最後は『影丸伝』みたいに身体がバラバラになる。

書評はなんなのか、読まずにすましたい人にとっては、スーパーのお惣菜ではないか？ 家庭での家事労働時間を減らすために一品買う。

お惣菜を買ってきて、食べて「これ、うまい。どうやって作っているんだろう」と、作り方を調べるのは、芸能界料理王のグッチ祐三さんしか、やらない。

で、「日曜ヒルは話半分」で、ゲストに出た（略）

つまり、書評を読んで存在を知るというより、読まずに済ませたい。

たしかに、「アトロク」の「ムービーウォッチメン」のコーナーは観ずにすますのに、うってつけの番組。聞けばいいだけで、「聞けば観た気になる」という、

取り上げた映画を観た人と話を合わせられるのには、いいのかもしれない。観てもわからない『TNENT』を、ラジオを聴くことでわかった気になりたい。

昔の「ファミ通」（私は出禁になった）にプレイしていないゲームをさもプレイしたかのような、知ったかぶりで「今回はナコルルが強い」とかそんな企画記事が載っていた。それは皆、トレンドとなるゲームをカバーしきれなくなった飽和状態の供給過剰に陥っていた。

ところで、例のキャラ、和人のキレイどころをさらってこない、いけないような美少女に描いて、2Pキャラの方が原アイヌに近い。困ったことに、●人と言われていた時代があり、土○法の失効でアイヌ問題は終了、なのだけど。後は、トレードオフで、未開民族として認められるなら、民族自決で国民をやめないといけない。

書評の情報流出も考え物・・・

理想は、丸谷才一の『マネーボール』の書評みたいに、後に文庫化された時に巻末解

説に収録されるような、売り上げの援護射撃みたいな、本と書評、どちらも良くなる関係がいい。（『マネーボール』出した出版社は潰れてなかったっけ？）

売れる書評というのは、「男性アイドルが村上春樹の新作を読みました」という人気者が人気本を読みましたという、人気*人気でないと、ダメなのである。

書評本は出版されるけど、ベストセラーになることはない。

掲載するの、これもなしで。

書下ろしで、何か.....

書評 愛すべき下放文学 『バルザックと小さな中国のお針子』 ダイ・シージェ

文明は人をババラギにする。

世の中には、まず下放を説明しなくてはいけない。

そのためには、集団農法がなぜ、失敗したのか、面倒な説明を説明しなくてはいけない。

結果は集団農法して飢饉が起こる。ソ連といずれ戦争になると予想して人口学者が反対しても人口政策を何もしなかったから、飢饉の被害が大きくなる。連作障害といった農学的知識が欠けていたのは、間違いない。

中世の支配者は「帝王学」を学んでいて、飢饉が起きないように調整する事を教えられる。あのマオは帝王学を学んでいるはずもなく、案の定、大飢饉が起こる。農学・人口学の学者達の突き上げがあり、そこで文化大革命で大弾圧をするのである。

文革とは、知産階級、知識を持っていることが、有産階級層とみなすという、考えてみるまでもなく、無茶な反知性主義を通り越して野蛮化した、壮絶な弾圧が繰り広げられた政治争乱であった。（儒教に関わる史跡も破壊したという）

そうして知識を持っている人たちを、知識という「資産」から引き離して、再教育するのが下放である。

都市部から農村地に行かせて農業労働者、農業生産者をやらせて「マオの思想は正しいです」を死ぬほど骨の髄まで叩き込むのである。

かなり省いて簡略化した説明に egrenure（アキュートアクセントが二つある）を感じたら、各自自分で調べてみるのが、『悲しき熱帯』を今読んでいる私が言える事。

赤瀬川原平さんも下放は思想的にはまずいが、若い頃農業に携わるといのは、いいのではないかと、著作で語っている。

しかし、現代農法による農業は、実態は化学農法であり、ケネーの経済表の中にあるような重農主義とは、ほど遠いハーバーとボッシュが作った現実がある。それを私は知産階級なのだろう、知ってしまっている。

下放した史鉄生が、映画『ライフ・オブ・ストリング』の原作小説「琴の弦は命のように」あるいは「琴の弦は人生のように」を書いている。下放作品ではないが、体験が元になっているだろう。

下放作家、下放文学の下放作品は独特のローカル料理である。

下放先の農業体験や当時の文化を知るのに、

場合によっては、漢民族の地理文化とは遠く離れた新疆ウイグルに下放させられた作家もいる。回教徒との複雑な出会いをする。多くは原理主義者ではなく、善良な信徒である。

ダイ・シージェは下放しその先で高校教師をし、フランスへ留学。彼の地、留学先で書いた小説が『バルザックと小さな中国のお針子』である。

亡命文学に扱いが近い。亡命作家が亡命地の言語で書く作品群を亡命文学と言っているが、アゴタ・クリストフの『文盲』、ミラン・クンデラ『存在の耐えられない軽さ』といった作品が代表にあげられるだろう。

ウラジミール・ナボコフの『ロリータ』は亡命文学というより、アメリカの準創造である。

亡命とは言えない留学先で、その先の言語であるフランス語で下放した者たちを書いたフランス文学に下放文学が植えられた稀有な作品である。フランス語で書かれた下放文学であるが、日本語翻訳されると中国派発の下放文学と変わらない。

ここまで書かないと、本来、書き出しに書きたかった「下放文学が輸出されてフランス文学として帰ってきた」と、一行コピー的に書いても、一部の仏文学と同時に中国文学を知る人以外、誰もわからないわけで、まくらで駕籠かきを雲助と説明して、下賤の職業として蔑まされていたと

必ずといっていいほど、下放文学には牛が登場する。「さんまのからくりテレビ」の「ビデオレター」のコーナーの準レギュラーのべごみみたいに、いろいろな事情で、牛を村人達が食べるが、主人公らは食べない。なぜか、下放文学の定型になっている。

第二次大戦後なのに耕運機が無い。牛で田畑を耕す。まるで、白土三平のマンガに出てくる内容である。その牛を食べない。

著者のダイ・シージェがメガネだと思われ、著者近影でもメガネをかけている。

他の下放文学作品と違うのは、本恋しいもの、である。

『本好きの下剋上』といった作品群と同じ、ビブリオマニアが本を巡る事に右往左往するのである。

博多大吉先生がインド放浪で日本語の活字に餓えて、自分の書いた日記を寝入る前に書いて読むというという、活字への渴望が

それはパパラギとなった証であり、知産階級とはパパラギであると、定義できるだろう。

マオの考えとは違うことが書かれた翻訳書は禁書にされている。その本が偽札の役目を果たし、通貨化する。ブラックマーケットで通用する第二通貨となるのだ。それが文革なのだが、禁じられた本を持っているのが見つかったらどうなるか、二度と都会には

戻れなくなる。しかし『テヘランで『ロリータ』を読む』のように、禁じられた書物を読むことに、血道を通るのも、ビブリオマニアにとっては、これほど行動原理を掻き立てられることはないのである。

お針子をヒロインとし、一緒に村に下放してきたルオがバディとして、ロマンスとプロロマンスの三角関係でストーリーは進む。太宰治好きの方、おまちかね。

つまりNTR文学でもある。

齋藤美奈子の妊娠小説のカテゴリーにも入る。本によって教化を受けた女性が立身出世を目指す、【おぼこ娘自立譚】でもある。

ルオとの子については、『太平洋の防波堤』にあるように、映画『愛人／ラ・マン』で役人に翻弄された人生の母が所有する大地に、防波堤の内側に埋められていると、望郷感をフランスの方々は、感じていることだろう。（そこには私の兄弟も埋まっている）

アジアとの出会いを思い出しているかもしれない。

魔物のような医者、墓場の如き医院はあるのかも、調べるのが良き書評読者であり、それを秘するが、木の葉である。

もちろん、マオの思想ではない、鮮やかな赤に紅葉している。

すごいのは村長の虫歯を治すシーンだ。映画的にも見せ場だろう。あんな事が本当にできるのか、

『バルザックと小さな中国のお針子』は映画になっている

ダイ・シージェが自ら監督したその映画にはチャン・ツイイーがヒロインを演じてないので、それが残念無念である。

『初恋の来た道』でピンクの冬服を着て、冬道を歩いていたのだから、薄いピンクの靴をしてほしかったとは、一映画視聴者の勝手な願いだが、同調してもらえらるだろう。

……ここからは、有料の場で語ろう。

なんだか、丸谷オーのテンプラの衣方式っぽくなっちゃったけど、たまにはこういうのを揚げるのもいいか。



shinSENDEN041.jpg

緑の本はアマゾン向け

グリーンブック 無印 について

こういうまとめ本は、まあ売れない。

結論である。

同じ事を繰り返して、「あれ、さっき、同じ読み物を読んだような」と思うかもしれないが、私も同じ感想を抱いている。

「この間書いた記事と、同じ事書いている。どうしよう、何も案が無い」

グリーンについては、「ノマレ」「ノマレ」と、おなじみのネタをするわけにはいかないが、長嶋茂雄がゲンちゃんという酷いあだ名をつけるところから、「ウパー」と言うのが、イゾラドの事ではない。

密林の緑、そのグリーンである。

グリーンケミストリーやグリーンニューディールなどの環境保護思想とか、そういうのは無い。処女林、文明人が入り込まない手付かずの自然林をこう呼んで、その中で暮らす未開と呼ばれていた人の暮す、この話はいいか。

ところで、『北京原人』は日曜洋画劇場でちょっとしか観ていない。私はお尻を見せてくれると点が甘くなって、パンク映画とか言われているのを見返そうとすると、なかなかビデオソフトが見つからない。(特殊メイクや特撮はいいと言われている)

『ユリ熊嵐』のアニメレビューをちゃんと完成させて、収録している。

それだけで、読まれるってわけじゃないが、なんで作家を「タレント」にしたがるのか、なんかわかる気がする。美男美女の美貌格差的なことで、一冊でも売りたい。涙ぐましい営業努力である。

広告欄で見栄えしない人は、出てこないもんね。

広告代理店から、さあ、「もっと美男美女の作家をデビューさせろよ。うまく広告できなきゃねえか」と、業界ゴロミみたいな事を言われてるんじゃないか、悪い癖で邪推してしまう。

新刊営業で書店巡りすると、作家・ライターの異性書店員の反応が違うわけで、売り込み、ポップの書き込みの熱が違う。

伊集院光に、ラジオで「女荒俣宏」とか、揶揄されるような作家は、チャンスに恵まれていないんじゃないか？ 悪口ばかり言っている。

掲載記事は、「グリーンブック」からは無い。

U系のプロモーションにもう「U」があるので、いらない。

本来、「U」もある。あ、アレもある、コレもある。

なんか、用意したい。

村上の評価、春樹まっぷたつ

村上はノーベル賞をとらないのは、本人の希望なので、読者やマスコミの人がとやかく言う事ではないし、それはすでに「村上春樹はノーベル賞を取らない」で語った。

はたして、亡くなられた加藤典洋の正典問題すら知らない人が、ノーベル文学賞の受賞を喜ぶのは、どうなのか、という話を書いたのだ。

さて気を取り直して今回、村上の何を語るかということ、プチ鹿島さんと太田光の評価は正反対である事。文字数制限があるところでは、真逆と書かれる。

意見が分かれているのは、短刀直入！ それはセックスの表現。

「いつもセックスしているからダメ！」

だが、

「いつもセックスしているからいい」

と、言われる。

両側から村上をひっぱり、ほっとくと村上が真っ二つになる。

商品価値が逆転しているとは、単純化しすぎたものいいだ。宇野常寛さんには「サービス」と評され、昔からソフトポルノだと言われていた。逆に言えば、ソフトポルノだから海外でも売れる。

商品価値と芸術価値が、軋轢対立しているようなのである。

太田君は言語芸術の価値を求める文学原理主義的な永遠の文学高年（もう初老）である。

たいてい、鹿島さんは1800円の書籍を買うとき、性表現があるかないかで、

「元がとれた」

と、思う。プチ鹿島さんは一般的消費者の意見が繁栄されている。これが実は海外の消費者に受け入れられている理由ではないのか、という評価もあるだろう。

太田くんの場合、村上の新作が出ると、パタッと自分の小説の売り上げが止まるので、一般的な意見ではなさそうだ。

元々中世の時代からある、古典的問題で、神話を題材にヌード絵画を描くか、そういう問題と似ている。

ルネサンスの頃でさえ、天国の絵で人は皆そこでは裸だけど、ラファエロだったか、ミケランジェロか、教会内の天井画のためベールを纏うように書き加えられている。

ヌードを描くのが悪いから、「グランド・オベリスク」は腰が長すぎると言われているかもしれない。本当はヌードが悪いと、言いたい。

そうした美学の問題である。

近代でもフランスでもう印象派が出ている時期に、ドーバー海峡の向こうではヴィクトリアンヌードという古い描き方をしている。

園子温の映画を「学生映画」とこけおろすのも、それもなんとなく、言いたい事はわかる。しかし、商業ベースで配給される場ではレアな作品で、素人臭さが好まれているというわけではない。

同人誌に書かれている凡百の同人小説が、そんなに価値はないだろうと思っても、文芸誌に載れば価値があるのか、なのだが、哀しいけれど、そういう小説を読んだことがない人には、新鮮であったりする。

少し前にあったケータイ小説の大映ドラマ的なストーリーを面白い、面白いと読む読者層は現れる。通過してきたニンゲンには、飽き飽きか、懐かしいのどちらか。

こういうファストフードの濃い味わいに、どう反応するか。

同じ“羊を巡る冒険”と言っている、『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』では、スペキュレイティヴな前戯（黒人女奴隷と奴隷主の暗喩ではないか?）はあっても、まったく性行為の表現は無い。SFの朝チュンである。

自分の性器をけしてほめてくれたりはしない。性器期の妄想をそのまましゃべってかれる女性は存在しない。（いたら、それは金銭のやりとりがある場であろう）

たしかにそれは「サービス」だ。だからこそ、海外でも「商品」として評価される、という話に還元される。

それに村上春樹は悪口を言っても、いい人。なぜなら、芥川賞をとってないから。少し、「村上春樹はノーベル賞を取らない」と内容が重複するが、永江朗は「週文にタブーはあるのか?」と聞いたことがあるらしい。

直撃された週刊文春編集者は、しいてあげればと言った感じで「芥川賞作家かな」と、答えたとされる。

たしかに芥川賞作家に文春砲は無い。主催が文藝春秋なのだから、脱税か刑法犯にでもならない限り、「週刊文春」で何かスキャンダルが報じられることは、無いだろう。逆をやっちゃったのが、太宰治であり、好かれないうか、それは強烈に嫌われることも、わかってやらないと、いけない。

編集者に「狙ってやれ」と、言われることもある。

両村上の評価は、必ず文壇政治で常に「そちら」に軍配が上がるようになっている。

斎藤美奈子はそれはおかしいだろう、「こちら」に軍配を上げる人もいるはずだと、語っている。同時代にたまたま同じファミリーネームの murakami がただけであると。

私はこういう件では折衷的に、なってしまうがちだが、龍の方に上げる。『ドラゴンクエスト』の影響に春樹があり、しかし、その川上には龍がいたと判明した現在、正しかった。それはたまたまだ。

しかし、作家には引き換えにしないではいけないものが芥川賞にはある。

芥川賞を目指すという事は、表現を和らげないといけないので、ソフトポルノ路線がとれない。「サービス」が少ない。内容も「傾向と対策」ができて、『文学賞メッタ斬り』シリーズでも言われているように、内容が「宮本輝にわかるもの」と言われていた。（芥川賞が文学をつまらなくしていると、私は言わないけど、誰かが言うべき。私は言わないけど）

面白いのは、作家の受賞暦が部分的に一致している芥川賞をとれなかった太宰を太田君は評価する。

賞レースのチャンピオンを目指すことより、規制された表現を村上はイヤがっているかもしれない。

あるいは両方。

高橋源一郎さんもデビュー当時芥川賞を「目指さない」ことをすると、編集者に「干されるぞ」と言われて東北の人みたいに、

「ギョギョギョ」

と、魚の被り物したのんちゃんみたいな事を言ったらしい。（「なんじゃそりゃああ」が正解けどインテリゲンちゃんがやっても面白くないからのんちゃんがやらないと）

くだらない冗談はさておき、源ちゃんは半分テレビタレントみたいなことを始めて、競馬探偵をやって世界中の競馬場に行ったり、三島賞の賞金をダービーに全部使ったり、競馬が仕事になる。

それだけだと、阿佐田哲也のようなギャンブルライターにしか、見えないからコマーシャルだけど、「ゴーストキャッチャー」（ゴーストライターのゴーストのことじゃないよ。ムダにアテ感が高い）でも触れた翻訳をしたり、「インテリ源ちゃんの夏休み」と駄洒落をしたり、いろいろしていたのである。

そういう生存活動をして、作家の生業をしていた。

村上春樹の裏焼きである。

その中には、謝礼がもらえる賞の審査をするのだが、村上春樹は文学賞の審査員をやらない。印税で十分生活していけるので、審査員の謝礼がいらぬ。

すると村上フォロワーが宮本輝でもわかるので、消去法的に選ばれる。

源ちゃんのフォロワーである我々は選ばれない。これ以上は言わなくていいだろう。

話が横道に大きく逸れてしまったが、太田くんは鷗外じゃないか？ バトラーで悪名をはせる森鷗外のことである。

短編「高瀬船」は救われない武士を書いた小説である。近代作家はこうした時代物を創作する時、ほとんど胸のすくような活劇、それこそ講談のような時代物を描かない。当時の読者大衆諸君は、講談速記ばかり読んで、近代小説は一部の好事家のものだった。現代で言えば現代文学を読んでも、「わからない」と言わない少数派だけ、黎明期の近代文学の産声を聞いていたのである。

そんな講談速記ばかり読む読者諸君たちに「君たちが思っているほど、江戸時代という近世は良くないよ」という、当時の時勢に異を唱える、反論啓蒙であったのではないか？

『蝉しぐれ』が中間小説の傑作。

ちょうどいい、娯楽もある程度あり、文芸もあり糖分とビターの比率がいい、ザ・中間小説の時代物である。

村上春樹は、食べられるビター配分で、安心して食べられる。

そこを満足できないとなると、グルメ・美食家の戯言

それから『京アニを読む』に面白いことが書いてあるのだが、1964年生まれの著者の

学生時代は「村上をバカにしないと、バカにされる」から、時間が経って時代が変わると、「村上をバカにしていると、バカにされる」と、潮目が変わったことを言っている。

たしかに「あれはマンガだ」と言う人は「それは村上への褒め言葉だ」「『風の歌を聴け』の表紙画の佐々木マキのマンガ表現主義と同じ、エクリチュールに任せたモノを真似たものだ」「世代が若くて佐々木マキを知らない?」「それは無知だ」と無知ゆえにバカにされるのは、現在の視点からは納得する。

太田くんは微笑ましいことに、まだ生き残っていたバカにされる人だった。

村上の真価がわからなかった人、あるいは評価が覆っている時勢を読めない人、ということなるだろうか。プチ鹿島さんは、その反対なのだ。もともと読者であっただろうが、更新された評価のガワにいる。

これからも、太田くんは明治の文壇というSNSのバトラー鷗外と同じであってほしい。単にハルキが嫌いなだけかもしれないが、永遠の文学青年将校であってほしい。

ハルキ中心主義、ハードカレンシーとして他の通貨、作品群との相対評価をしなくてはいけない嫌いはあっても、

今の世代は、村上春樹だけを読んでいるのではなく、ハルキすら読んでいないのだから。

* GREEN BOOK2 の消費税分のサービスに収録されるんじゃないか?



shinSENDEN023.jpg

グリーンブック 2 にプロモは必要か？

グリーンブック2はこんな本になるか？

そろそろ、こういう本も、作らないといけない。

書評やいろいろ溜めたものを吐き出す。

「U2」を収録して、「U2」単独との価格差をつけないといけない。

「U2」はあまり、売れないし、アンリミテッドでも、そんなに読まれない。

「U」と同じ事を書いているのに、なかなか読んでもらえない。中井さんより、三沢ということか。（『ムタフカズ』の話題はもうしているから、いいか）

結論出ているけど、他にも悩ましい二重売り問題。

あとあと、いいことがあるようにすればいいのか、どうすればいいのか、ともかく消費税分のサービス。と、しているが、解決策が見当たらない。

文句も言われなかったから、現状維持ですましているが、買い控えられているから、何かいいアイデアが無いか、無いか、とは思う。傘はあるって、言っても「アイデアある、傘がある」って、コマーシャルがあったようだ。

「アイデアは無い、傘だけはある」

一応、「グリーンブック」（無印）は、Puboo* Pabooto から主に、記事をまとめてコンバート。

「グリーンブック2」は「MEN'S ONLY」からの記事の再録と言うか、マネタイズと言うか、「カネを 恵んでくれ」とドラマ『家なき子』方式。（「同情するならカネをくれ」ね）

一応はおおまかな台割りは、AとBとCに分れ、Aパートで、「人形アニメレビュー」「製版技術」「京都アニメーションについて」（全長版）、Bパートでいろいろと、何か、する、予定。歯切れが悪い。

「ジェンダーがコマ割りを規定する2」が完成したら、収録し、

「イップス論」は既にもうデータ上でも収録している。（もうPixivで閲覧できない。あんまり見ないから、「フルリメイクについて」もグリーンブック2に収録でいいかな？ ちょっと色が違っている）

たぶん、「美恵子さんの話」とアドラーとフロイトの話を解題して、「宝石のような美しい話」の後半部も一挙掲載の予定。（完成したら半分）

校正もして完成させた「人の妻は他者の欲望」はCパート、ある書評、吾妻ひでおの完成したモノ（引用文もちゃんと掲載）が載るはず。

それで「消費税分のサービス」の章で、「APS活動報告書」にあったキンドル本作りの、活動報告も収録される予定。このため、「APS活動報告書」は出版停止という事に、あいなった。

グリーンについては、何度も書くと、アマゾンの緑のことで、イゾラドのことじゃない。

「ノマレ ノマレ」

「ウパー」

と、応える。

イゾラド、怒るだろ。オレたちは北京原人じゃないぞ、と。

テレビ番組かどこかで町山智浩さんはアーミッシュは日本語が読めないから、いくらでも悪口言っていると、『未公開映画を紹介する番組』の本で読んだと、記憶しているが、確かそんなことを言っていた。

イゾラドは日本語を読めないの、似たようなことである。

「特命リサーチ」のシリアスミステリーみたいに、なぜか、喜びを表す表現に「ウパー」が使われ、それは極東アジアの映画の原人と同じ、喜び方をする。

『愛の嵐』のお尻に睡眠薬みたいに、お尻に予防接種されているイゾラドと交流して、とかげの尻尾をもらったら、「ウパー」と喜んで、「ウパー」をイゾラドに覚えさせる。レヴィ・ストロースみたいにサルを物々交換して「ウパー」とかやるのだ。

たぶん「イゾラド」で尻に予防接種の注射してない。

そんな『愛の嵐』みたいなこと、していない。

最初にイゾラドを取材して「ウパー」を教える。後から来た文化人類学者が原人が使う言葉の表現だったのが、未開人のモノとして残っている、「感動だ」と思ったら、かつてのイゾラドは「ウパー」なんて言っていなかったと、文化人類学（アントロポロジー）の世界で大問題になる。

いったいどういうことなのか、原人が先か、イゾラドが先か、NHKの取材班が教えていた文化侵略、文明に汚染された文化破壊的、カイヨワのさかしま対称の人類学である。当たり前だけど未開人とされる人々を学者は操作してはいけない。ところが、操作しなくても、写真の被写体になってお金をとる現地先住民が現れる。『悲しき熱帯』で、けっこうそういう事をやっちゃっている。

研究対象がすでに文明に汚染されているのである。

遠く、

アーシュラ・K・ル・グウィンのメモにあった、二つの箱の間を通るパイプにいくつもの粒子の一つが「ウパー」で、その時尻に予防接種して、「ウパー」と言うようになる。

フランス人は自分たちによって文明化されなくてはならないと、自分たちが文明化されるのはイヤだと思っている。（つまり「文明人とはフランス人である」というおフランス中心主観）

グリーンブック2はこんな文明論を語る本じゃない。ギャグである。

アニメとか、マンガとかに、小賢しい事を言って笑ってもらう、お客様の満足のために、書かれた本である。

イゾラドの悪口書いたりしてない。

もしかしたら、ネットの人々は、イゾラドと同じように、読まないのでは？

そういえば、イゾラドをバカにしているようなモノだけど、私は読者にとって、イゾラドのようなものだ。

オチとして、自分がイゾラド。
掲載するのは、無くていいかな・・・ひとつくらいあってもいいかも。完成しなくてもいい。

「宝石のような美しい話」の前半部だけ、とか。

なんとか。

逆だろう、私事的な石ころのようなみすばらしい話、編集版を掲載。

花のアンジェリーク文化

『乙女ゲームの破滅フラグしかない悪役令嬢に転生してしまった』は長すぎるため、はめふら、と略して呼ばれている。

略称と言えばドラクエで、『ドラゴンクエスト』を起源（遡れば太宰の「走れメロス」）とする勇者文化のデータベースを使い潰している状況が原作小説登場あたりからあったのだろう。

それで他に代用できるデータベースを見繕うとして、乙女ゲーの源泉『アンジェリーク』である。一人勝ち状態が長らく続いていた時期もあったろう、順調にシリーズが続いていた。（DVDのプレス会社を読み込みできない不良品を・・・みたいなことは無かったと）

乙女ゲーの代名詞というより乙女ゲーは、アンジェ以降の後発組が充実し始める頃に、言葉ができたのだろう。男性向けのギャルゲーと区別するために、発明された用語である。わかりやすく言うと、ポルノグラフィティのあるエロゲーを美少女ゲームと呼ぶようなものだろう。

ちょっと変化を入れたのが令嬢で、つまりライバル側の悪役で、「走れメロス」で言えばディオニスの視点・側から語られたのが悪役令嬢モノだろう。

いわゆる何を語るか、ではなくどう語るか、である。

そんなレイチェルさんが.....『女子高性の無駄遣い』の有名な繰り返しのギャグ、「オメェ 面白れえ女だな」になっているのか？ これはもしかしたら、あらゆる乙女ゲーは「オメェ 面白れえ女だな」という事で攻略対象と仲良くなってしまいうキッカケを得ることが多いので、逆かもしれない。

つまり乙女ゲーを川上として、流れてきた考えでは？ 乙女ゲー文化では一般常識だが、それに触れていない男性視聴者には、新鮮であった。

まさに、「オメェ 面白れえアニメだな」である。

「転生したら SaGa だった」ように、『転スラ』はサガシリーズをデータベースにしている。これはプレイした事ある人なら、データベースを逆アセンブリ、情報工学の知識が無い人はわからないが、元ネタがサガだとわかる。

モチーフの元ネタがわかる。変化を加えられても、元に戻せる。

データベースとして知らない、触れた事がないと誤読が起きる。すると、代用物でなんとかしようと、「オメェ 面白れえ女だな」という事になる。

乙女ゲーに対して、オンラインゲームは、皆、学習は終わっている。アニメのオンラインゲームもののおかげでプレイしてなくても、どういうモノか、わかっている。学習が終わっているから、SAOがある。

逆に乙女ゲーの学習が男性視聴者側には、まだ終わってないということのでは？ ある資料に拠ると、当時アンジェプレイヤーの男性はだいたい20分の1しかいないと、言われている。圧倒的に少ないのである。

だいたいもう、勇者文化がわかっているから、ドラクエを直接やってない人も勇者文化のパロディをやっても、大丈夫である。

守護聖さまたちを少し解雇してまとめたのが原作小説では？

主要登場人物たちは人気が出て作品が持続したら守護聖さまたちがたくさん出てくる？ のだろうか。（女の子たちや脇役も守護聖起源かもしれない）

データベース≒原質ではないか？

乙女ゲーの原質≒データベースを知らないから、「オメェ 面白れえ女だな」が、乙女ゲー起源か、わからない。

趣向が悪役令嬢じゃなかったら、異世界転生モノのただの乙女ゲーになる。

原質が「アンジェリーク」ら乙女ゲー

世界は「異世界転生モノ」（or 異世界召喚モノ）

趣向が「悪役令嬢」

が、基本悪役令嬢モノの民族・国籍・出身のようなプロフィールと思えばいい。（微妙に正しくないがとりあえず話を進める）

* 「完成しないかもしれませんが。GREENBOOK2に掲載もないのよ。オホホホ」

と、想像の悪役令嬢のマネ。

原作者は新潟出身、新潟在住なので、新潟市のアニメイトで確実にすれちがっております。

と、暢気な事を書いていたら、「これは『あり思』第四巻のネタだ」と、フライングしているの、ここまですべて掲載終了に。

ネオロマンスゲーム『アンジェリーク』をプレイしたいが、それは女の子に生まれ変わった別の人生でやればいいのか。

宝石のような美しい話 掲載用

非常に分類しにくい、話を語る。マンガにまつわるエッセイと言え、たしかにそうだが、マンガだけというわけではないので、なんとなく、こちらにカテゴライズなのか、どちらにカテゴライズか、とりあえず山田峰央という本名で、筆名が魔夜峰央というマンガ家の話ではある。

(中略)

『パタリロ』のファンや、魔夜さんのことを読みたかった人はここまで、でいい。本に書いている事をそのまま書いているにすぎない。

嘘のようなホントの話、私もひとつぐらいある。

私もマンガを描くが、その中には『ドラえもん』というよりも藤子不二雄作品群への憧憬を元に描いたモノがある。

「コトバを食べる、ケモノ。」である。(「ありえない未来の思い出たち」第一巻に収録)

本来はゲーム企画であったが、いかんせん私は才能が無く、ゲーム開発者にはなれなかった。ゲーム開発者の榊田省治さんが藤子マンガのフォーマットを応用してみるのもいいぞと、『ゲームデザイン脳』で語っている。(その回収は『妖怪ウォッチ』で)

これも、偶然の一致で、「同じことを考える人って、けっこういるもんだな」と思ったものである。

さて、それはともかく、『ドラえもん』だ。『ドラえもん』は一旦、連載終了して、人気が出てきて再開されたが、その再開に際して出された話が「帰ってきたドラえもん」である。そこに秘密道具として「ウソ800」と書いて“うそエイトオーオー”と読む道具が出てくる。

これが、いわゆる元ネタ、と思われた人はいたかもしれない。

私は知らなかった。

『ドラえもん』はとびとびで、有名エピソードの回しか読まなかったりして、全巻通して読んでいたことはなかった。テレビアニメのシチュエーションコメディのエッセンスしか、よく覚えておらず、「ウソ800」の存在を知らなかった。持っていたマンガ単行本も、大長編の『のび太と竜の騎士』ひとつである。

後は友人宅でやはり大長編の単行本を読ませてもらったはずなのはぼんやり記憶にあるが、一話完結の連載をまとめたコミックスを持っていた友人に心当たりは無い。

「帰ってきたドラえもん」を絶対に読んでないということもなく、『藤子不二雄の世界』が90年代末に出ており、「帰ってきたドラえもん」が収録されているので、もしかしたら書店かどこかで読んでいたかもしれないが、その記憶は残念ながら無い。

コンビニのピックアップコミックで読んでとか、もしかしたら、あるかもしれない。しかし、記憶には無い。

これが嘘八百と言われると、弱るのである。

『ありえない未来の思い出たち』は、作為的に狙ってやったのか、結果としてそうなったのか、ちゃんと腑分けして語る場である。実作者の視点でねらい、とその結果（主に失敗）を語ることで、「オレのようにしくじるなよ」でもあるし、どの業界でもそうだが、「天才でなければ通用しない」という単純明快な結論に突き当たる。ということだが、クエンティン・タランティーノ方式で、ちゃんと言う。商業的にソフトがリリースされていないので、著作権的問題も起きにくい。

キャラクターグッズとして、お歳暮の時期に贈られてきそうなドラえもんを象った箱に収められて、内にあるのはカルピスのびんではなくフラスコにおさまった飲み物「ウソ800」を忘れるとは、とても思えない。

一瞬見たか、博多大吉先生の言う、その後の成功を決めている26才の頃にはほぼ「コトバ」は完成していたが、その頃には忘れていた。ということなのか。

そう、「コトバを食べる、ケモノ。」は「ウソ800」を元ネタに作ってはいないのである。

皆さんはご存知だと思うが、私には生まれてこなかった年下の兄弟がいる。そのソウルフレンドとして、ケモノは存在する。

「弟くんは生まれてきた」

「コトバを食べる、ケモノはいる」

この嘘が実現した世界に、私は生きていない。

電子の世界ですら、彼らを存在させることはできなかった。

ありえない未来の思い出だったのだ。

私は藤子不二雄には、なれなかったのである。

魔夜さんの話に比べ、なんて卑小で比べるのが恥かしい話だろう。宝石と比べるまでもない石ころのような話なのだろうと、埼玉県人が受けてきた弾圧に涙するように、泣く。

補足 『う～ん、マンダム』という自薦集にも選ばれた「男の戦い」をマネした事があると、付記しなければならない。人間にはゼツタイに有毒な物質をロボットを正常に動かすために、口移しで注入する。もちろんその後、胃を洗浄。

けっこうコマ割りも魔夜さんと似てしまう。

そこは藤本さんと同じコマ割りを切っているのと同じ。また、「ウソ800」によって、ドラえもんはフィクションであると、裏打ち、裏づけされている。藤本さんは白銀のように輝くウソをつくことができるファンタジー作家だったのだ。これもまた宝石のような美しい話である。

新しいメソッドの習作あるいは目覚めたシステム
の黎明

新しいメソッドの習作あるいは目覚めたシステムの黎明

私には、演技のメソッド、あるいはシステムが無い。

今まで、無かったのが、おかしかった。

それでは、作ろうという、そういう話である。

モダニライゼーション、ではなく「シルエットアクター」というゲームを作ることに
よって、本来はシステムが出来る。シルエットアクターズシステムを副次的に作る。だ
けど、それはゲーム業界に受け入れてもらえなかった。

だから、作る。

富野監督もシステムやメソッドを持ってない。

演劇センスを養えと、それをやっても、ゲーム業界では通用しない。

オリジナルのシステムかメソッドを持っていなかったら、評価されない。労働賃金を
もらえない。口酸っぱく言わないと、勘違いする人がいる。

努力してないとか、いじめられるよ。

事実ありのまま、言う。

それが後進に対しての誠実だと思っている。

「次はお前だ。お前がやれよ」

まあ、努力と言うのは、エライ人に利益をもたらす事であって、自分のためじゃない。
ここから『資本論』の影響を受けた共産主義的な、運動も演劇ではあった歴史は、読者
も耳がタコになるくらい聞いたり読んだりしただろうから、避けるがマルクス主義者な
ら「商品から労働者は阻害されている」と言うだろうし、それと一緒に、だからプロレタ
リアート文学や演劇があると。

齋藤メソッドやともかく何かで補う、「蜷川幸雄と富野喜幸」で同じネタをしようと思
うが、身体の動きを俳優もアニメーターもできない話が話題にされるだろう。

その身体のメソッド側を牽引していた、第三世代の後期型メソッドは期限切れになり
つつある。代用品が古い、と言ってしまふとちょっと文句が出ると思われるが、耐用年
数が限界に達していると考えられる。ファンがついて、公演したら劇場を満杯になる
ころは、気にしなくていい。

しかし約40年も経ってれば、それは古く、エンジンアストでなくても車の修理を
始めるように、イジる。場合によっては、新車を買う。もちろん新車に乗らず、部品取
りのために。

反論は百年前のスタにゃにゃスキーシステムはどうなんだ？ と。

その問題をまず整理して、だからこそ今、新しいシステム、再起動のメソッドが何か
必要だと。それはなんなのか？

いわなくてもわかるのは、基本シルエットアクターズシステムはミラーニューロンを鍛える、シルエットメソッドが基調になる。

抽象的なものを視覚的に捉えるのは脳内の“シルエットニューロン”が発達しないと、いけない気がする。扁桃体にあるとされ後天的に上書きも可能とされる。くも派とへび派に恐怖症が分れるが、先天的にこの扁桃体のニューロンがDNAから形成されているようだ。私はへび派。

こうした脳科学、ニューロニズムが基礎になり、そこから枝葉のように、シナプスが広がるように広がっていくのだが、訓練させて発達させるか、優生型を選別するか、わかりやすく前者が努力させて習練するか、後者が天才を見定める事になる。

基本的に演技のシステムとメソッド（違いは後述）は、前者をなんとかするためにあり、スタにゃにゃスキーシステムはまあ凡人を演劇人にするのである。

人のモダニライゼーションの方法というか、俳優の演技にはちゃんとシャドープレイ、ミラーシーケンスがすでにある。シルエットアクターズシステムは後に語る。

昔、千葉マリーンズがやっていた反射神経の機能向上のやり方（動体視力を鍛える？）、だから少し、ゲームソフトも使う。『言っははいけない』の方だったか、頭に電極付いたヘッドギアを被って『バックマン』を一日一時間する高橋名人イズムの脳機能を調べる。松永兄弟イズムは全女。かつてあった女相撲の興行を戦後に改めて・・・詳しくは『暴力の解剖学』にある。（読むとバイオフィードバック法は『ゲーム脳の恐怖』の精緻な反論であるのでは？）

たぶん、最初に俳優たちをチェックした時に、オーディションよりもミラーニューロンがちゃんとしているか、調べる。

アルコールで抹消神経が動かなくなる、それを調べるのがあって、その応用やわざわざ書くと、非侵襲的脳機能測定法（脳の非破壊検査）、主にNIRSを使う事になるだろう。川島隆太教授と共同開発したい！

もしかしたら、身体に障害があるのを、発見する、身体可動チェックも行うことになる。んで、ベースボールオペレーションシステムのように、なんかアクターズオペレーションシステムのような、名前が付く。「シド・ヴィシャス理論」みたいな、そういうゴトチヒ理論で作る俳優・演劇トレーニング法。

脳は鍛えられる。残念な事に原発事故が起きた地域の人の脳を調べると、放射性物質に汚染された食物を摂り、大脳新皮質に物質が残っていると、ガイガーカウンターが「線」を感知してわかっている。脳が成長しないなら、物質がそこに留まらない。

ブレイントレーニングの根拠の一種になるだろう。

私はマッドサイエンティストだから、人体実験をしたい。『戦え！ 軍人くん』のように、「マッドがつくんですか？」と言われたい。脳髓の模型を手にとって、演劇のフランケンシュタイン博士。

役者達を集めて、『バトルロワイヤル』のギャグと同じように、「君達には私の人体実験の被検体になってもらいます」と、ビートたけしが言うみたいに首をカクカク。

「ぼくたちはフランケンシュタイン博士が作ったクリーチャーじゃない！」と藤原竜也みたいに、反抗してもらいたい。

ルドロジーだけど、考えているのは、ミラーニューロンという摸擬に対応する脳神経

があるなら、競争に対応する脳神経、運に対応する脳神経、眩暈に対応する脳神経があるのではないか。（眩暈にはたぶん茂木さんのクオリアがあてはまる）

メンデレーエフの周期表で元素発見が予想されるみたいに、対応する脳神経はいずれ、発見される。脳内物質はすでに、エンドルフィンが競争、快楽物質と言われるドーパミンが運だろう。

解明されても、リアクションはフランケンシュタインと同じ。

…アインシュタインと同じ。

何の感動も無く、「うん。知ってた」と、答えるだろう。フロイトの時代にすでにニューロンは発見されていて、十分予測可能だったのでは？（フランケンシュタインと同じだとクリーチャーである藤原竜也が暴れだし花嫁として鈴木杏ちゃんが…近代劇的？）

むしろ、こういう事ができない人は、ゲーム開発者として、足りない。

マンガ家がキャラクターの絵を描くと、描いている表情と自分の顔の表情が同じになる、「BSマンガ夜話」の視聴者には当たり前の共通認識情報があるが、それはミラーニューロンが表情筋を動かしているのではないか？

けっこう、シンプルな答えが出そうである。たしかに、私も『ベルセルク』でガッツを鶏姦する人を描く時、同じ顔になっている。（はず）

島本和彦さんはシルベスタ・スタローンそのままな顔になる。サブミリナル鷹を描いている時はネプチューンマンみたいな顔になっていたはず。

日本には鈴木メソッド、出口メソッドがあるので、そちらを借りるのが、てっとり早い。それでは評価されない。ウソじゃなくて、現実に評価されない。

石塚運昇さんや吉田鉦太郎のシアター出身者である彼らと呼ばば、出口メソッドの一端を周りに教えて、別名義の人たちは、吸収する。

アニマルエクササイズの話、これは蜷川さんの『身体的物語論』でも、似たようなことを語り下ろしで語っている。

『冬眠する熊に添い寝してごらん』では、中西晶くんが、犬の役をやる。芝居の勉強をしてこないから、稽古場に入れないというショック療法を施し、新日本プロレス入団テストに落ちた棚橋みたいに稽古場近くに来て、哀しそうな顔をしていたから、情けをかけられて、犬の役を与えられる。

アニマルエクササイズから、始める。

ただ困ったことに、この戯曲、新潟市内の悪口を書かれているのに、県立図書館に所蔵されている。確かに、乱立しているわけではないが尖塔のある平屋のラブホテルがある。ポンプで水を抜いて、干拓した土地だから地価が安い。ベース電源が震災・テロで落ちたら、一帯が水に浸かる。だから土地の利用価値としては、どうしてもそうなる。繰り返すが地価が安いから、利用法がラブホになり、それを古川さんにいじられている。

それが触れられているってだけで、県立図書館に出版された戯曲本が所蔵されている。新潟に触れているから。話しのオチではないが、くだんの県立図書館がそのポンプで造成された水抜き干拓地にある。近所に例の尖塔のあるご休憩場もある。

回転寿司屋の方は、これは言わなくていいか。聖地巡礼でお確かめください。

さて狂言師はアニマルエクササイズをしていた。アニマルエクササイズではじまり、動物訓練で終わる。

サルを演じ、狐を演じる。

『うつぼ猿』で初舞台を踏む。用語で言えば、被くである。

猿芝居とは、ここから転じて言われるようになった、派生した言葉ではないのか。猿引きが猿にさせるパフォーマンス一式を猿芝居と言っているのも、あるかもしれない。子供だから、現在の学芸会、その前のお遊戯会の出し物でおサルさんかわいいねえ、と甘くみてもらえる。点が甘い。

申楽が下に見られていた時代もあったとされるから、違うと思うが。

マルセ太郎のサルのものまねは、見た事はないが、絶品であったと、語られる。ここで、「ウパー」と言うと、読者から笑いが取れる。

動物訓練の集大成としてあるのか、キツネでトレーニング、『釣狐』は狂言師が最後に被く演目である。人は猿からキツネに進化した生き物の進化論として、「早く人間国宝になりたい」である。

私の自論は、動物訓練はあがり症対策と思われる。

とくに新人さんはテレビで観た大物俳優や、普段芝居を観てなくても美男美女に囲まれると、どうしてもあがってしまうだろう。そこで動物になり、

「お前は今、チンパンジーだ。あがったりしない」

と、メソッド演技でも言われていると、思われる。

セリフもほぼ覚えなくていい。板の上にとりあえず立つ。狂言の世界ではおじいさんが諭す。「お前今、子猿だから、桧舞台の上でも、緊張しないよ。おサルさんだからね」と孫に言い聞かせる。

で、父親が叱り飛ばす。(萬斎のドキュメント番組であった事、そのまま書いている)

次の段階が、狂人の演技。リリパットアーミーを興した中島らもさんも、狂人の芝居はラクだと。オーバーアクトでわかりやすい。(後述の縦の演技)

次に、ゾンビの演技であろう。お決まりのメイクをして、緩慢な動きをする。ゾンビをする人に演技力を求めない、低コストでパニック映画を作れる苦肉の策だったはずが、なぜかゾンビになんらかのメタファーを求めるようになり、それに私も異論は無いが、後付だろう。

後付は「じゃじゃ馬馴らし」は、少年俳優(それも変声前)に女形の訓練をさせる、そのメソッドの結果発表を板の上に出して、「こんな少年でも女形を演じることが出来るんだ」と、性倒錯的な見方は結果として見えている解釈に過ぎない。ゾンビと同じである。モールに繰り返し買い物へ行く人と見立てている社会批評的な事はあ・と・づ・け、らしい。(B級パニック映画だったから、つまり遊びの四分類のめまいを映画館に行って撮取している)

カタリナとダンナ(ペトルーキオ)は演出家と俳優。亭主と嫁の関係じゃない。演出家が「これ熱した火箸だ」と言われてモノを掴んだら、手の平に火傷痕のようなモノが残る伝説みたいな、そういう風になってほしい俳優訓練戯曲、なのか?

ヴァイオラは美少年が元で、女性を演じるというのは、近代になってからで「ピグマリオン」こと『マイ・フェア・レディ』はこうした戯曲の近代化ではなかったか。女形エクササイズを女性に転用、女形訓練を今度は女性にして女優を作るという職業女優の誕生とその問題点や限界、奥山さんが『RAMPO』を撮っていた時に、羽田アキと 恋愛?

でも、それは映画を撮っている間の、マジックアワーに過ぎない。奥山さんにとっては思い出になっていると『黙示録』で語られている。

そこから勘案するに、狼少女を演じる事やヘレン・ケラーこと「奇跡の人」はスタにゃにゃスキーシステム依存の戯曲だったと、考えられる。アニマルエクササイズを舞台の上に出す、トレーニングの実践が見られる。

板に上げるまで、練ったモノを出さないといけない。

たぶん、アニマルエクササイズからクレイジーエクササイズ、さらにクリーチャーエクササイズ。そしてモンスターエクササイズで、テレビゲームに応用するのは…なんだか遺題継承の答えを品が無く書きちゃった気もするが、とはいえゲーム開発の現場では、言われなくてもできている。

その事実は言わずもがな、である。

これでわかるように、『あり思』第三巻はいつまでたっても、終わらない。下北沢の飲み屋で若者たちがかわしている演劇論の・ようなモノをえんえんマンガに描いても、ちっとも話がすすま虫である。ずっと演劇論の話が続いて、「シルエットアクター、終わんねえじゃねえか」と、ビートたけしが言うみたいに首をカクカク。

今までの話から、狂言師がヘレンや狼少女を演じるのが、いいのでは？ そんな逆算が考えられ、実践である検算はなかなか実現しないが、一度はやってみたい。だから、演劇という美学の狂科学者として「シルエットアクター」を開発したかったのである。（作中でフルカが担当回の動物訓練についての面がある）

それで、アニマルエクササイズ、ブレヒト派の鴻上さんの本には、無い。

『演技と演出のレッスン』の後期スタにゃにゃスキーを含めた事が書かれた必読書だ。（とくに新潟県では主要な図書館に「俳優修行」のシリーズが無い為、代用しないといけない）

鴻上さんはヘレンでも狼少女も芝居をつけられるだろうが、一つの本に頼ると、こうした限界が出る。（ゲーム開発者にならないなら『あり思』を読めばOK）

たしかに、ナチュラルとリアルは違う。縦軸の演技はパイディア、横軸の演技はリアルでルドゥスであろう。

前期スタにゃにゃスキーと後期スタにゃにゃスキーに分れる。『俳優修行』が二巻あるのは、そのため。

前期だけがメソッド演技、リー・ストラスバーグのやり方である。「まずは内面から」の川上には、スタにゃにゃスキーがいる。スクールで教わることができ、全世界に広まっている。ストラスバーグのやり方では、後期の「形」が無いのである。

後は、情報の流出になるので、『演技と演出のレッスン』を直接読むことにしてもらおうとして、面倒だから、Sシステムと略してしまう。

ここまでの話でわかるように、だからシステムとメソッド（メソッド）は分れる。

私個人の分類法は、システムは精神と肉体もある統合された俳優養成の、まさにシステム（体系）であり、メソッドはどちらかというと、「まずは内面」の心・精神偏重型か、形・型・肉体偏重型に分れる。クラスに一人はいる演劇厨には、「そうじゃない」とちゃちゃを入れられる。

「俺は高校に入ったら、『アルプススタンドのはしの方』を越える戯曲を書くんだ」と、

イキった子供に何と説得すれば、いいのだろう。どうやったら伝わるだろう。（「真実への鉄拳」を観た後なら、リングの上で決着をつけず、降りて平地でやって負ける高校演劇の小説の主人公はこういう事言うのかな？ 感情移入できないキャラクター）

「ありえない未来の思い出たちのマンガを読んでも、別にゲーム会社に入社できて、労働賃金がもらえるわけではない」

と、本当のことを書かねばならない。

大学まで子供を通わせるお父さんお母さんは、余裕が無いから、もう早く社会に出て、役に立つこと＝労働賃金化できることを求める。

「単純明快でしょ」

「Sシステムを知っているし、できるよ。『アクタージュ』がジャンプで連載する前からね。それがどうしたって業界だ」

ゲーム業界で、よく考えるまでもなくSシステムを理解してなかったら、3Dポリゴンのキャラクターに演技を付けられない。ちゃんとそれを理解してもらうのが、『あり思』のめあて。

知能労働に偏重するから、肉体によったメソッドが必要になる。

つまり、鈴木メソッドが必要になる。よく修斗の合宿とたとえる、バシバシ床に竹刀を叩く、一見奇妙な風習のように見える歩行（習練技法の名前）である。田植えなどをして、下半身が普段から鍛えられている日本人の生活様式に合った訓練法で、シュートの合宿は、『真説・佐山サトル』を読めば、答えが書いてある。

歩行や舞踏、たけしなら二分間のピンタである。ミット蹴ってからピンタ。

心・精神型メソッドから解放されて、ブレヒトとか第三世代、劇団夢の遊眠社、劇団三〇〇（美輪さんに言われて改名した）、第三エロチカ、第三舞台があり、その反省で静かな演劇、現代演劇があり、そして「暴力という形而上学」の北野武監督が原爆投下のようにショックを与えて、ミット蹴ってからピンタ。

言われなくても、知っている戦後演劇史の昭和までの射程範囲である。これを踏まえないと、話にならない。

日本は心技体と言いたがる。

なんで言いたがるのか、それはつまり伝統偏重している。

それは一旦忘れて、考えてみると、何かぼんやりともうひとつ、文化伝統に偏るメソッド、がありそうで本当は「型」もこちらに含むだろう。型・伝統偏重メソッドである。このメソッド三位一体でシステムを作ろうという、試みである。

便宜的、暫定で二つ以上兼ね備えるのが、システムであろう。三つの円の面積が少ない。二つ以上のメソッドが重なるところが、自然主義系統、あるいは象徴主義系統に分れる。

Sシステムか反Sシステムなのが、わかりやすい区分けだろう。

蜷川さんの本（前掲書）を読むと、やはり、若い俳優達は身体的なものが足りない。A地点からB地点へスローモーションをすると、如実に表れる。

うまくいかないから、それじゃ野田さんがたまにやるスローモーションができないじゃないか、と思ってしまう。

足りないから中村ゆうじのパントマイムになるのである。関節の可動領域を増やす柔

軟体操やヨガをしたり、芝居のために筋肉体操は正しい。

デジタル世代だから、上半身の発達ばかり、それもコンピュータを操作する知能労働ばかり、用法として正しくないが「頭でっかち」になっていると、そういう指摘している。

マイクを使う、というのも、ずっと蜷川さんが嫌っていたのだが、仲代さんの話では、少し俳優に人気が出るとろくにボイストレーニングもしていない俳優を板の上にあげてしまうと言う。いわゆる「事務所の意向」というヤツである。

菊川怜はいしかわじゅん先生がボイストレーニングが必要と、指摘していたが、人気先行すると、どうしても疎かになってしまう。

声帯の拡張装置、機械的声帯ドーピング、つまり声の近代化でもあるから、またこれも伝統偏重だろう。

ともかくも、それで多くの演出家に嫌われる。

声だけに、二度とお声がかからないこともあろう。

「芸能界は腰掛じゃないんだぞ」

と、思っている人も、中にはいて、キャストイング班に言ってるかも。「アニマルエクササイズからやりなおせ」と、蜷川さんならやらせる。新しい灰皿投げ。

こうしたトレーニング不足の俳優を演出しなくてはいけない。一ヶ月の短期間で速成栽培的に鍛えぬくのは、難しいから、中西晶くんみたいな事が起こる。ちゃんと芝居を勉強しないといけない。

まだできていない俳優を送り込まれる事もある。

その中の一人で、木村拓哉が蜷川さんのところに行って、泣いて帰ってきたというエピソードはせつなくなるが、仕方ない。書籍でも語っている通り、蜷川さんはキムタクと「悪い時期に出会った」と回顧している。いい時期に出会ったというのが、白石加代子である。顔の輪郭線を描く時に定規を使わなくてはいけない。

しかし、ホン合わせの時にはもう、もらった台本を覚えてくるという、蜷川メソッドというより、俳優としての気構えを教えてくれたことで出会ってよかった。（だから「教場」は蜷川さんに教わったことを披露する場であるという役者のコンテクストを踏まえているが、ドラマは見逃している。「くしゃがらー」は観た）

さてアニメーションの話をも急にはじめると、いろいろな中から、小田部羊一さんが任天堂に入社し、カメレオンの作画を描いて、それがヨッシーになったとされる。

それは小田部羊一さんの影ではないか。（羊人同形論・・・）

たくさんの小田部さんの記事が小出しで出される。

まとめた大系化されたものが、必要になる。（「CONTINUE」の件は無視）

ただ、宮本茂さんの話では、誰とはいわないが、デザイナーにあたる人に挙動を一晩かけて描かせると、語っていた。それが小田部翁であるかは、判明していない。

ところが、3Dモデリングされたキャラクターが仮想空間にいと、そんなに時間をかけなくていい。一晩かけなくても、できてしまう。ピクサーは毎年映画公開可能なのは、製作ラインが二つ以上あると思われるが、このように平面よりもスピードがあって、かける労働時間が少ないから、制作時間も少なくてすむ。

スピード重視になって、白山羊がいらなくなるとか、失礼な事を書いてはいけない。

ポアジュースのCMを何度も繰り返す池田宏に誘われて、小田部さんは任天堂に入った

とされる。高畑も任天堂に所属していたら、左翼の牙城になってしまうところであった。

もしかしたら、あの悲劇も起こらなかった・・・なんの悲劇だっけ？ 『ゼルダの伝説』でもう一回『太陽の王子』のアニメ映画を作る。それは私が「ヴァリエント・オブ・ゼルダ ミラーシールド」でやったので、打ち止めである。ミラーシールドでゼルダ姫の光を集めてブーメランで、夢を見る島の倒し方と同じ。（羊人同形・・・どこかで小田部さんのリスペクトが入りたいけど羊飼いだともう『トワイライトプリンセス』でやっているからな）

任天堂に所属していたら、源平合戦のアニメ、作れていただろうか。

アニメーターはシステムやメソッドを作らないで、徒弟制をすることで、口伝的に作画演技を継承維持しているようである。多少、ミラーニューロンに頼りすぎて、断絶があったら、失伝するかもしれない。

町から町へ旅する大衆演劇の劇団のやり方に近い気がする。座長芝居。

座長がいて、今日の芝居のセットを決めるとか、マンガにしたヤツがあったのに、どこやったっけ？

こうした伝統メソッドの抽出、継承はうまくいかない事もある。狂言や能の流派が途絶えたとか、瓦解で途絶えたとか、そういう憂き目に遭うこともある。今、残っている流派は、まだ徳川幕府が存命時に名人と謳われた人が一度瓦解で止めて、復帰に関わった岩倉具視が能劇に熱を上げてくれて、能楽が現代まで継続する。（逆に言えば現行政府が弾圧に乗り出して人間国宝を与えない等で滅ぶかもしれない）

座長芝居を起源とするというか、股旅モノを芝居にかけて、劇団員に運動の、振り付けをつけるのが、意外に後詰め先詰めの、流派の違いが出るとか、何か見える。ディズニー起源というより、東映起源を遡ると、ここに突き当たるのでは？ 否定するとか、肯定する前に、とりあえず、並べてみて比べて検証してみるのが正しいだろう。

心理学的に、芝居をつけるというのは、やっていた頃がある。1980年代後半から90年代まで、心理学的に登場人物に行動させるというのが、流行った。

否定的な意味でとらえられると困るが、これは今でも片渕須直監督は、心理学的に正しい行動をすずさんにとらせていると、いう。（お友達に心理学者がいる）

精神分析よりの方、口唇期の芝居として「ちゅるちゅる」が『家族ゲーム』では見られる。母親役の由紀さおりに、フロイトの影響そのままの事を息子が言う。この頃の若い由紀さおりが、そのような事を言われても、おかしくない人で、伊丹さんに言われて車の中で密議をするのも、違う事をしにでかけたような、セクシーさがある。原作未読のため不明だが、新しい映画は、新しい芝居から見せるという、新しい楽器が新しい音ゲーを作るといふ、動詞理論の応用に過ぎない。

ふと、北野映画は新しい芝居を發明して、まっちゃんはそれよりも一段階新しい芝居を見せられなかったから、映画監督として続かなかったと。

まあ心・精神の側面は、こうしてなんとか、補うことが出来る。

形・肉体はすでに触れた、パントマイムや何かダンスといったサプリメント的に副食として、摂らないといけない。

精神のコリオグラファー（振付師をカッコ良く言ってるだけ）とたとえばいいか。テキトーな事を言ったが、Sシステムは精神のコリオグラファーなのかもしれない。

つかこうへいさんのところに、みんな武者修業的に行く（つかさんが誘うこともあるらしい）のは、前期型で心・精神に偏ったメソッドだけでは、足りない不足を自覚していた俳優が多かったと思われる。

統括されたSシステムはなかなか学ぶ機会が無く、モスクワ芸術座も、特に東西冷戦中はなかなか観れなかったので、それが小山内薫伝説を生み出したと思える。2に続けよう

続くのである。

「テレビを明るくふりかえろう」なんてできない

テレビの本は もう 売れなくなる

テレビ回顧本として、「テレビを明るくふりかえろう」を作ろうと、してから何ヶ月経っただろう？ 二年は経過してる。(事前登録二周年である)

「テレビを明るくふりかえろう」のノンスクランブル版、妙録は百円ぐらいで、ガンガン無料配布する、つもりであったが、あまり、評判がよくない。

無料でもあんまり見られてない。

つまり、期待されてない。

テレビが。

もっと、「ネットフリ攻略本」とか、「ユーチューブ面白動画百選」とか、そういう流行っているものを、流行っていたものですら、売り時を逸している。

まあつまり、TVのネタをネタとしてもう使い切りたい。

新しい弾を装填したい。

記憶の扉が急に開いたから、「学校では教えてくれないこと」のネタを急にするけど、夜八時なのに“かわつるみ”のネタをして、かわつるみばかりしてると、廃人になると文献で書かれていて、それをVで流していた。そんなの流すなよ。

山本太郎くんが、今ではいわ新撰組の党首だけど、「オレは、かわつるみの王様」と東出くんとまったく異なることを言い出して、今田兄さんとケンカのフリをして、太田光・劇団ひとりの園子温シーケンスをして、スタジオを沸かせていた。

神田うのがロケしてきて、むしゃくしゃしてる若者の男性に、煽るような事を言って、どう考えても顔面シャワーの暗喩であるコップの中の水を顔にぶっかけられる。

みなさんも見たことある趣味性の高い介護教習ビデオ？ で、お年寄りに介護師が「このボケ老人がっ」とおなじみのフレーズを言って、コップの水を顔にぶっかける、これの用語を顔面シャワーと言う。しょっきりみたいなもの。口をすすぐ水を含んで、顔にぶっかける。(相撲業界の隠語で「顔射」と呼ばれる)

「悪友ども吼える叫ぶ木霊する」では、まったく違うこと書いてないが、

「この場は『テレビを明るくふりかえろう』の宣伝なんだから」

と、「ガンバの冒険」はイントロ・ザ・ジャイアントで「テレビは勝ち馬だ！ 乗れっ」の頃の性器期のギャグが多いやりすぎフジテレビの象徴として、あまり語られていない。

ハワイでマダムにビンタ(サッチーのことじゃないよ)されたというのも、ハワイロケ・・・

ロケでマスコットキャラクターの着ぐるみを、動物園の猛獣に襲わせるVTRを流し、遊園地に行けばジェットコースターに着ぐるみを轆かせて、ふなっしーをもっと悪くしたものにす。

ふなっしーはフジのバラエティの隠し子というか、やりすぎチバテレビというか、最後なんて、山田邦子さんが最終回を先に撮って、後から生番組の放映なもんだから、「どうも、みなさん、ありがとうございました」と言って視聴者を混乱させて、あんな番組を放送で流していた「いい時代」という落とし所におさまるのか、ここで、この話しをしてどうすんだ。

無料サービスでいい。

ケンコバさんの十週で打ち切られたジャンプマンガの単行本を集めるという悪趣味、あれと同じ。

クイズに手を抜いている話題、「お金持ちをテレビに出して、番組製作者は楽しんでないか？」と、思っていたが、意外に難しかったりするかもしれない。

篤志家でいつも一汁一菜で質素に暮らしているお金持ちも絶対いるわけで、それは映像として「映えない」から、あまりテレビでは見かけない。

「走るマイホーム」という価格の外車を何台も持っているお金持ちって、そうそういない。(昔のテレビなら外車をジャッキー・チェンの映画みたいに破壊して笑いをとっていたはずなのに)

趣味と節税対策が一致していただけなんだけど。

掲載記事は、肛門期爆発の部分があるのをシット・ピックアップ。

肥料だから。

それと冗談広告。

世界まる見え！ テレビ特捜部

どう考えても、この番組はビートたけしさんの人糞投擲が話題として出される。

エランヴィタール。

肛門期のエランヴィタール。

私は自論持論で、ギャグはフロイトの言う成長段階、口唇期・肛門期・男根期・思春期（正しくは性器期）に分かれて、いちいち一つずつ説明はしないけど、とりあえず口唇期は一生懸命作った料理が食べてみたらまずい、思春期は「やれやれ」と汗をふいたハンカチーフが女性の召し物であった、男根期のギャグは別に言わなくていい。

そして肛門期爆発のギャグが、中国の番組を観た後に、スタジオに漢方薬として人糞が出てきて、たけしはそれを掴んで、

「これでも食らえ！」

と言わんばかりに、観覧席のお客さまに投げたんだよ。

狼藉を働いたとしか言いようが無い。

肛門期全開のギャグ。

ギネスに記録！ 観客に人糞を投げた回数世界一位。

後略

進め！ 電波少年

前略

「だい、めいわく！」

だと。

ウンコロケの逆、というよりも、ウンコロケのために食事を取りに行く。

芸人のお宅に、「ウンコしたいので、トイレを貸してください」と松ちゃん来る。

それでトイレを貸してくれず玄関で止められて、キョーヤさんのナレーションで、

「脱糞！」

である。

映像を色反転。

それは放送していいのか！

被取材を受けた人は、迷惑。ただただ迷惑。大迷惑！

本当にユニコーンの曲名である。

ただ、今では『おしり探偵』やうんこドリルの話しか出せないが、肛門期のこうしたギャグは90年代なら、よかった。

後略

テレビを明るくふりかえろう の 広告

ねほりんばほりんのパロディだよお～

ねほりん 今日は大変なゲストがやってきますよ。

ばほりん 眠い～ 山ちゃんやっといて。

ねほりん N国党幹部の人が、党に黙って来てくれたんですよ！

ばほりん （飛び起き）ええっ、（NHKに）来ちゃったの？

宮崎駿にそっくりなブタがスタジオに入ってくる

スタジオジブた（以下ジブた） こんにちはわ～。

ねほりん （おそる おそる）あの～ 宮崎駿さん？

ジブた ちがいます スタジオジブたです（カメラがエクストリームアップでブタに寄る）

ねほりん 失礼ですが、最後の資本家がもし美少女でしたら、その、今まで苦楽を共にした同志達を、裏切りますか？

ジぶた 裏切りますよ。あたりまえでしょ。(即答)

ねほりん 本物来っちゃったよ。(ヘルメット浮く)

ジぶた キミたちの番組ってウニマから抗議が無いの？

ばほりん ウニマって何？

ジぶた (興味をなくしたように) そう、知らないならいいよ。電波は無限なようで、情報通信に適しているのは、いわゆるプラチナバンドだけ。子供の頃から無線やっていたから。

ねほりん ええっ？ そうなんですか？

ジぶた カオナシをやったキミもわかるように、ヤクザの看板使用のカネを寄越せて、親分さんに言われる。じゃあ、誰が親分さんかそれは(爪先のアップになる)

ばほりん そこはどこも同じなんだね～

ねほりん 同意して納得してますがユーさん、ぼくカオナシやってませんからね。

ジぶた ネットに逃げられないようにしている

ねほりん ユーさん、怖いよ。今日の収録怖いよ～
ディレクターが飛ばされちゃうよ(びゅ～んという音が鳴る)

ジぶた わざわざ自民党の広告費を受信料というカタチで払わされている。 まあ、

よくできたシステムですよ。

ばほりん 私、何か言うの止めとこ。(もぐらが手で口を塞ぐ)

ジぶた これからは自民党支持者だけ金を払えばいいんじゃないですかね。若い人に言いたいのは、自分の労働の対価をこんなことに使っているのか、ということで共産党に……N国党に投票しなさい。

ねほりん そんなこと、Eテレで言っているんですかね

ジぶた これは、省庁の管理に関わる政治だから、政治には政治で対抗するしかない。だからわが党が国政に出る。理にかなってるでしょ？

ねほりん 一応、それなら話がわかるんですが…

ジぶた BPOもね、維新の会の議員が中学生とLINEしようとしたのを、お笑い芸人が「気持ち悪い」と、これ、自民党の議員なら、人権侵害になる。放送倫理違反になるだ。

ねほりん えっ？ それはどうして？

ジぶた どうせ、総務省の役人の天下り先だから。自民党寄りの存在。戦中でもそうですが、規制すればテレビをコントロールできる。ちょろいもんですよ。

ジぶた それからね、最後、どうしても言いたい事はですね、ぼくがバ美肉した姿が、シータなんですよ。

ねほりん 夢を壊すようなこと言うな。

ばほりん 私がバ美肉した姿がユーです。

もぐらの住まい遠景に
Kindleで テレビを明るくふりかえろう
ニンゲンって面白いね

本当に宣伝のつもりか

ジぶた 杉田（ドカーン）なんてクソでしょ。ああいう連中を飼っているのが。

日記なんて誰が買って読むんだよ

日記は無料でなかったら誰も読まない

なぜ、Kindleで「針ねずみ日記」なのか、「針もぐら日記」なのか、「山あらし日記」もあるのか、それは Puboo のマスコットの動物が、そういうのに、似ているからだ。

これから何があるか、わからないからだ。今（令和二年）は更新をコンスタントにできるが、いつできなくなるか、Puboo に信頼性が無い。この間も、「悪友」がセーブできなくなって、また拵えないといけない。（これは裏取りしていないけど、裏取りしていないからやめておこう。一連のアマゾンが裏）

なにか、あつて、また「店じまい」になったら、またどこかにコンバートしないといけない。

どこにコンバートしておくか、できるだけ「お金が入る」「マネタイズ」「金を、恵んでくれ！」という事で、Kindle になった。アマゾンは南米で、Kindle の訛ったヤツである。（冗談で書いたけどKindleの何何語の発音であったというのが本当だったらどうしよう）

明日、シェイクスピアを蜷川演出でいつでもできるように、いつでも Puboo が終わっても大丈夫なようにしておきたい。

だったら、今の内に、

「ア～ マ～ ゴ～ ン～」

のところで、配信。蜜みたいに奥ゆかしくて、密林みたいなこと言わない！

「ア～ マ～ ゴ～ ン～」

で、大切断なアマゾン、アマゾンと言えば、ライドロンだけ、仮面ライダー BLACK の車。あれは、アマゾンが乗ってそう。

仮面ライダーの話ではなく、日記である。

そもそも、日記なんて、売れるとは思っていないし、Kindle UNlimitad に加入して読むのが、適当。適切に当たっている。（そういえば「平成教育委員会」で出された問題だけど、こうして記憶に残っているということは名問題だったと言う、なんでこのネタを「テレビ」でやらない。ウィキペディアを調べたことがあって、『風立ちぬ』の次郎くんが出演していて「ジロウくんの答え」と言われていた。それで博士に失礼じゃねえか、何時の時代でも、こういう事を言う人がいる）

そもそも Puboo さんのキャラ、針ねずみなのか、針もぐらなのか、よくわからない。もぐらのクルテクみたいな「知っちゃダメ！」を掘り出すなら、もぐらなのか。タブーに触れる後ろ暗い話をするため、スタジオの照明がちょっと暗いから、シャッタースピードは同じで、やや人形を大きくしないといけない。合成のヤツはバックのコントラストが出るために、照明が明るくて小さいかも。（ミッキーはシルエットなのに、チョコを舐めてるのか？）

それで、試験的に無料配信したら、そこそこはダウンロードはされた。
やっぱり無料でなかったら、誰も読まない！
有料と無料の壁に差がある。そこにフリーミアムのキャズムがある。

山里 「なめてるよ～ Eテレだからね！」

あの日の日記 掲載用 テキスト編集 板

「飛翔」のテーマを使うとか、ネタがバレてしまう。『スヌーピーたちのアメリカ』を読まれると、ネタがバレてしまうみたいに「メビウスがパッケージイラスト描いたソフトのアレをする気だな」と、「クイズ世界はSHOW by ショーバイ!!」で「この青年の職業は何でしょう？」というVTRに海外ドラマ「ベン・ケーシー」のテーマ曲をかけたために、山瀬まみに「もしかして弁護士？」と答えをあてられてしまうようなものだ。

『エネミーゼロ』のナイマンのやつをかけるのも、「敵はいない」ことがバレてしまう。「ゲーム音楽ヒストリア」を読むのをやめたくなる。(といつつ、来月になったらまた読むのだけ)

ゲームラボの「ファイナルファンタジー特集」は、まず高く評価できるが、

「どうしてファイナルファンタジーの思い出はドラクエと比べるとこんなに色あせるのだろう？」

という、「声優を大好き抱っこ」なタカピロのテレビコマーシャルナレーションを思い出されるように、FFが落ちてきている。もう国内版は制作費と海外ローカライズ費用をペイできればいいと、わりきった作り方をしていると思う。

ただ、ファイナルファンタジーがナンバリングタイトルを作れなくなるとか、そういうことが起きたら、もう日本のゲームビジネスモデルが成り立たなくなったという証拠になる。(最近、コナミもゲーム事業部を撤退するらしい)

「ゲーム作りたかったら、海外に行け」という出稼ぎ時代が始まろうとしていると思う。三田さんあたりが「好きなことしたければ、海外に行け」と「モーニング」で連載始める。

この 2015.5.15 FFっぽいのが好き の続きは 「針ねずみ日記」にて

告知



Amazonの方では、ちゃんとカスタマーレビューを書いた。
『イロモノの野望』の宣伝と思って下さい

告知 2.jpg

谷ロジロー・作画の『餓狼伝』が復刻されたぞ！



発売中っ

これを読んでキミも●^{koro}したいヤツをチキンウイング・フェイスロック
しよう！

猿さん、私の事知っていたら、どうしよう？
前の横本のシリーズでネタにしたチャンピオンの目次の似顔絵が闇のフィクサーみたいだとか、知られていたら、どうしよう？
いしかわ先生は私の事を知らなかったのに、猿さんが知っていたら承認欲求モンスターみたいに暴れる！

告知 6.jpg

告知

権力勾配を悪用した
いじめ加害者
が あなたの母親や妻
マダム や 奥さん
を 騙そうとしている

インフルエンサーにも
かなりカネを撒いている
dappiの二の舞が起きる

メディアが口をそろえて 推し活 と報道している
つまり 選挙期間中のデマを「まったく無かった」
ように扱っている

告知 41.jpg

プロモーションブック やりなおC号

著 ゴトチヒ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
